資料 3

新潟県中学校教育研究会

令和３年度　指定研究２年次

授業情報誌 Class と授業後のまとめ

指定２年次の研究原稿に授業後のまとめ2ページ追加

社会

「見方・考え方」を働かせる授業づくりを！

「資質・能力」の育成するためには，「深い学び」の実現が必要です。「深い学び」は問題解決や課題解決といった一連の学習過程の中で実現を目指すもので，教科の特性を踏まえた思考・判断・表現を通した学びです。そのポイントになるのが「見方・考え方」です。ここでは，「見方・考え方」を働かせる「授業づくり」について紹介します。

県中教研　社会部　全県部長
小千谷市立小千谷中学校
校長　若林　靖人

ポイント１　「見方・考え方」を働かせる授業づくりの視点から授業改善を進める。

「見方・考え方」を働かせるためには，単元（授業のまとまり）の目標に向かって学習の過程を工夫することが必要です。しかし，「見方・考え方」は，社会的事象の特色や意味などを考えたり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする（思考力，判断力）ための手段，スキルです。それをどう用いて，授業づくりを行うかを次の４つの視点から考えましょう。

１　問いの構成の工夫

「中学校学習指導要領解説　社会科編」に記載されている「問い」の例（地理的分野p.34～36，歴史的分野p.85，公民的分野は（２）内容の中項目ごと）は，「見方・考え方」との関係から示されています。単元のプロセスの中で「問いの構想」をすることは，「見方・考え方」を働かせる授業づくりにとって大切になります。

２　教材化の工夫

社会的事象の特色や相互関連，意味を考え，社会生活についての理解につなげるために，教材そのものを捉えさせる「見方・考え方」を単元でどう位置付けるかを考えることが必要です。

３　資料提示の工夫

社会科では，地図や年表，図表などから情報を読み取ることを重視してきました。その活用において，子どもが「見方・考え方」を働かせることが期待できるからです。そのためには，資料の内容はもとより資料の加工や提示の仕方を工夫することが必要になります。

４　対話的な学習活動の工夫

子ども同士の交流で，多様な「見方・考え方」へ鍛えられることが大切です。具体的には，次のポイント２で述べます。

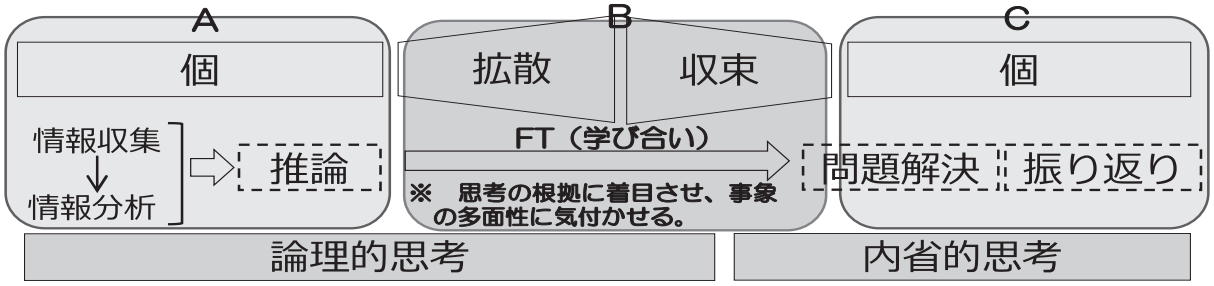
＜引用・参考文献＞ 澤井陽介・加藤寿朗著2017年「見方・考え方　社会科編」東洋館出版社

ポイント２　批判的思考において「見方・考え方」を働かせる。

「対話的な学習活動の工夫」を『Class第４号』で提案した,「批判的思考力」で考えます。

「社会的事象の見方・考え方」は,「社会的事象を①位置や空間的な広がり，②時期や時間の経過，③事象や人々の相互関係に着目して捉え，ア比較・分類したり，イ総合したり，地域の人々や国民生活とウ関連付けること」と定義されています（小学校学習指導要領解説社会科編p.18～19)。これを下図と関連付けると，Ａ～Ｃの３つの段階で「見方・考え方」を働かせることになります。

Ａでは下線①～③などの視点で社会的事象を捉えさせること〔根拠を明確にし，視点は限定しない〕，Ｂでは下線ア～ウなどの方法により学び合い等を通して思考させること〔多様な視点があることを理解する〕，ＣではＢの学び合いをもとに多様な視点で社会的事象を捉え，その特色や意味を理解させることとなります。多様な「見方・考え方」から，自分の判断を選ぶということを可能にするためにも「学び合い」は有効となります。



※「Class第４号」p.17の図に加筆　〈引用・参考文献〉「批判的思考について」京都大学大学院教育学研究科教育認知心理学講座教授　楠見孝氏　（中教審高等学校教育部会H24.9.7）

社会 重点方針

自ら考え自ら学び，確かな学力を育てる社会科の学習指導に努める。

○　生徒の学ぶ意欲を高めるために，主体的な学習を促す魅力ある「教材開発」や「単元構成の工夫」を行う。

○　学び合い深め合う学習を実現するために，適切な課題を設けて行う学習の充実を図り，小集団学習や話し合い活動を取り入れた「学習過程の改善」を行う。

○　資料を選択し活用して，自分の考えを記述・発表する力を育てる。

社会 学び合い10

①	生徒の理解・認識の把握	生徒の実態や既習事項を把握して授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し,単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	生徒が興味・関心をもつ課題設定	生徒が好奇心をもったり，学習意欲が高まったりするような課題を設定している。
④	学習形態の工夫	課題解決のために一斉・個・ペア・グループなどの学習形態を場面ごとに設定している。
⑤	日常生活や社会との関連	生活と関わらせたり，ニュースなどを活用したりして授業を進めている。
⑥	話し合いの目的やルールの明確化	話し合いのルールや方法を具体的に提示している。
⑦	考察場面の設定	根拠をもとに多角的に考察し，様々な方法で表現する場を設定している。
⑧	図・表・資料等の適切な活用	図・表・資料などを適切に読み取り，事実にもとづいて自分の考えを表現する活動の充実を図っている。
⑨	意見交換の場面の設定	⑧との関連を図りながら，他の意見を聞き，自分の考えを深めさせている。
⑩	評価・振り返り	他者評価や自己評価を評価シートなどで評価し，自分の学習活動を振り返る場面を設定している。

社会〈上越地区〉

思考ツールを活用し質の高い吟味と考察を可能に!!

糸魚川市中教研　社会科部
研究推進責任者（左）　糸魚川市立青海中学校　佐藤　直己
会 場 校 担 当（右）　糸魚川市立糸魚川東中学校　飯塚　隆雄

こんな深い学びの姿を目指します

社会科において，社会的な見方・考え方を働かせ，自分の言葉で課題に対する意見や考えをもつことが大切です。そのためには，「多様な意見を尊重し，検討・吟味（クリティカルシンキング）し，社会的事象を多面的，多角的に捉え直す活動」が必要だと考えました。話合いの中で互いの意見を交換し，自身の考えを深めようとする姿を目指し，思考ツールを活用したり，話合いのスキルを発揮したりしていきます。

深い学びへのステップ

仲間との学びを自分の学びにしていく工夫をします。

ステップ1

我がこととして捉え，社会的な見方，考え方を基に考察できる課題を設定する。

ステップ2

課題を多面的・多角的に捉えることができる思考ツールを活用する。

ステップ3

話し合いのスキルを発揮し，仲間と考えを深め合える活動を設定する。

➡ステップ設定の理由

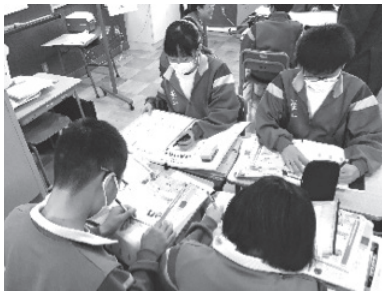
生徒が仲間や自分自身で深めていくためには，社会科に必要な自分の思考をまとめていく力，伝える力，聞く力が必要だと考えました。しかし，ただ「まとめる」，「聞く」，「伝える」では学びを深めるのには不十分であり，その活動に社会的な見方・考え方を働かせることが大切です。この３ステップで，社会科の指導力向上を図ります。

➡ステップのメリット

① 我がこととして捉えることは，深く考えるためのきっかけとなります。
② 複数の社会的事象（点）を有機的に結び付けることで，課題解決の糸口が見えてきます。
③ 意見や考えを吟味することで，学習が深まります。

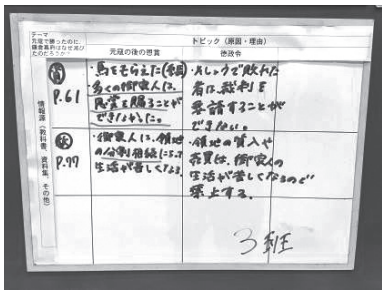
ステップ ①

我がこととして捉えられるよう，生徒の生活と密接に関係のあるものを例示し，課題設定を行います。



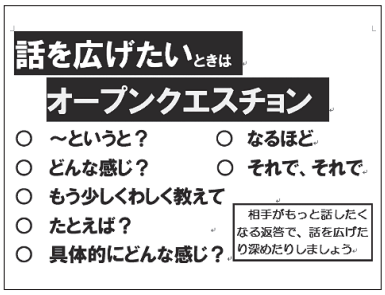
社会的な見方・考え方（そこはどのような場所か？）を働かせ，よりよい社会の実現に向けて，深く考えるためのきっかけとします。

ステップ ②



課題を多面的・多角的に捉えられる，思考ツールを活用します。社会的事象を有機的に結び付け，根拠をもって自分の考えがまとめられるようにします。

ステップ ③



学び合いが深まるよう，オープンクエスチョンを使ってグループ活動を行います。聞きっぱなしで終わることなく，仲間の意見や考えを吟味し合うことで，収束の場面で追課題を探究したり，自身の思考をまとめたりすることができます。

指定研究会情報

上越地区（糸魚川市中教研）社会科教育研究発表会

◇研究主題：根拠を基に，学びを深め合う生徒

東海地方の工業が盛んである理由について，自然条件と社会条件を資料から読み取りながら考え，東海地方の産業を多面的・多角的に捉えます。グループ活動において，根拠を明確にしながら互いの意見を吟味する場を設けることで，個々の学びを深めていきます。

◇月　日：11月２日（火）　◇会場校：糸魚川市立糸魚川東中学校（配信）
◇公　開：１学級　２年「中部地方」授業者　飯塚　隆雄
◇指導者：上越市立和田小学校　校長　小池　修

上越地区

この「手だて」を使った授業は、次のような形で進めました。

■前時■

step 1

中京・東海の工業が日本有数である理由を考える

各自が地図や資料を参考にしながら根拠を集め、豊田市で自動車工業がさかんな理由や掛川市でピアノ製作がさかんな理由について個人で考え、予想を付箋に書きました。

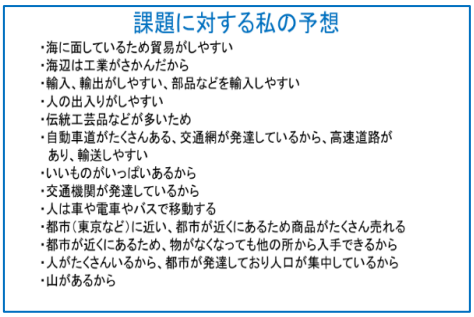
学習課題

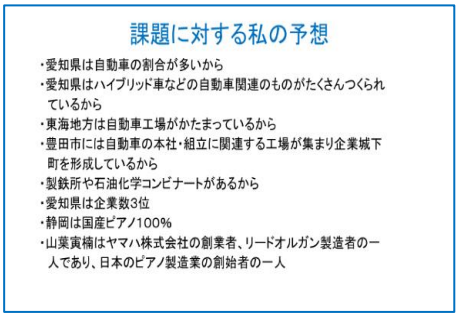
「なぜ東海地方は工業がさかんなのだろう？」

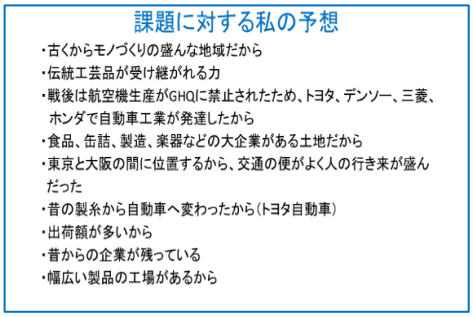
■本時■

前時で生徒が考えた予想を確認する

《前時で生徒が考えた予想をパワーポイントで示しました》

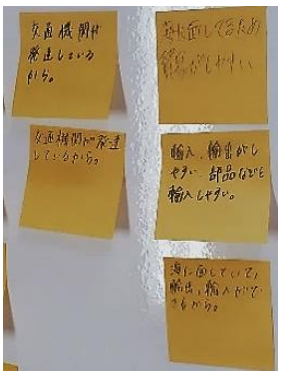


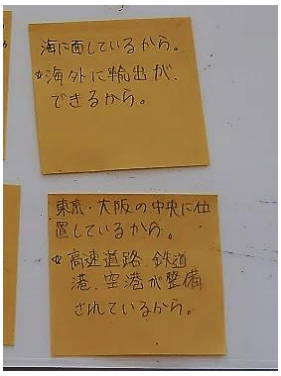




課題について、個で書いた付箋をグループで共有する

step 2

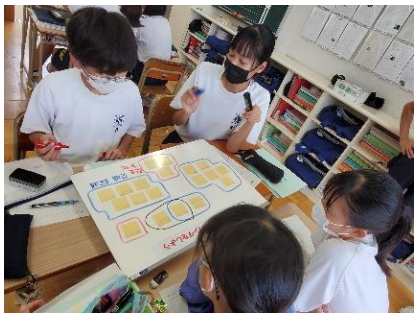




各グループにホワイトボードを配布し、前時に付箋に書いた課題に対する自分の予想を、仲間に説明しながらホワイトボードに貼りました。「海に面しているため貿易がしやすい」「愛知県の企業数が全国３位だから」「交通が発達していて人の出入りが多いから」など、多様な視点からの予想を班で共有しました。

step 3

グルーピングとラベリング



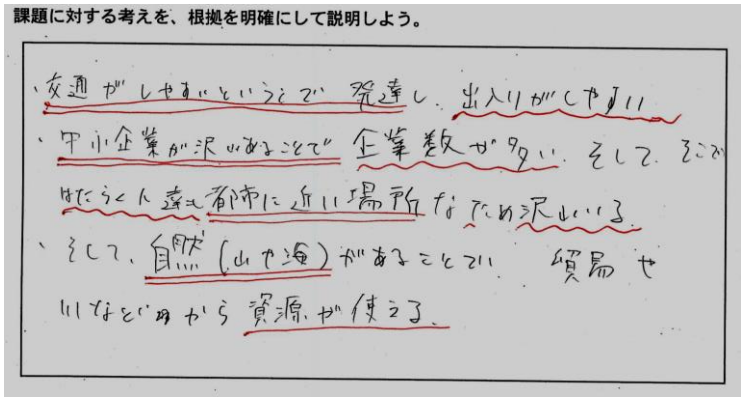
オープンクエスチョンの手法を用いて、意見を交換しながら共通点のある付箋をまとめてグルーピングし、さらにグループごとにラベリングをしました。

まとめたものを発表する

それぞれのグループが、グルーピング、ラベリングした結果を発表しました。「歴史」「都市」「利用」「自動車道」「人の出入り」などのキーワードを用いてラベリングされていました。

まとめ

他のグループの発表も踏まえて、学習課題についての自分の考えを根拠を明確にして記述しました。



成果

○オープンクエスチョンについては、「もうちょっと教えて？」「○○はどうなの？」「なるほど」「具体的には？」というキーワードをスライドで提示し、話合いのルールを再確認した。オープンクエスチョンの手法を活用し、相づちを打ったり、もう少し詳しく説明してほしいと言ったりすることで根拠を明らかにしながら自分の考えを発表する姿が見られた。

○ＫＪ法を活用して生徒の予想を可視化することによって、多様な考え方の中に共通性や関連性を見出すことができた。

課題

○東海地方の工業がさかんな理由を自然条件と社会条件に分けて考えさせたが、関連性を見出していく中で、生徒自らの力でラベリングできるような働き掛けが必要だった。

○東海地方の工業がさかんな理由を際立たせるために、北陸地方の工業と比較することも必要だったと感じる。そうすることで東海地方の地域的特色がより明確になったのではないかと考えている。

社会〈中越地区〉

深い学びに至るポイントは，「当事者意識をもたせる工夫」と「視点を基にした学び合い」

十日町市・中魚沼郡中教研　社会部
研究推進責任者（左）　十日町市立十日町中学校　藤樌　悠太
会 場 校 担 当（右）　津南町立津南中学校　伊佐　勝

こんな深い学びの姿を目指します

学習課題と自分とのつながりを感じ，自分の課題として捉えることができれば当事者意識をもって生徒は学んでいきます。本実践では，過疎化の進行や人口減少問題といった地域が直面している課題を，自分たちの問題として捉えながら学習を進めていきます。課題解決に向けて，「見方・考え方」を働かせながら多面的・多角的に考察し，他者との交流を通して自己の考えを深めていく姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ1

自分とのつながりがもてる課題の設定と，課題追究のための単元構成を行う。

ステップ2

「見方・考え方」を働かせた考察と意見交流の場面を設定する。

ステップ3

吟味・検討のための視点をもたせた学び合いと，再考の場面を設ける。

➡ステップ設定の理由

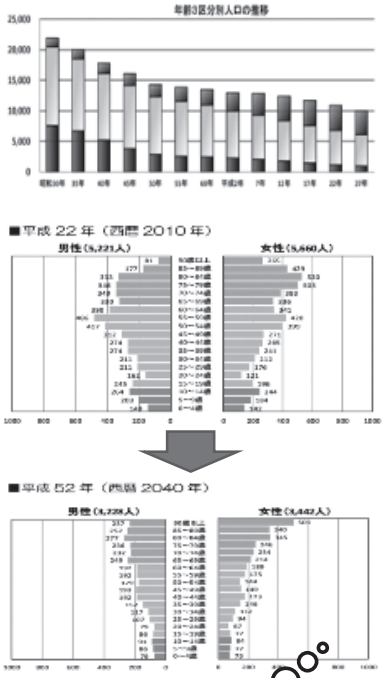
学び合いを行うものの，対話の内容が噛み合わなかったり，深まりに欠けたりすることがあります。そこで，深い学びに至る学び合いにするために，「見方・考え方」を働かせた学びに着目しました。

➡ステップのメリット

① 当事者意識をもって追究活動に取り組み，主体的な学びが期待できます。
② 考えの根拠になるとともに，根拠を基にした学び合いとなります。
③ 視点をもたせることで，考えを捉え直すことができます。

ステップ ①

人口の推移と人口ピラミッド



自分たちの町は将来，大丈夫なのかな…

地域の問題を「単元を貫く学習課題」に据えて，単元をデザインします。切実感のある課題に迫ることで追究意欲を高めます。

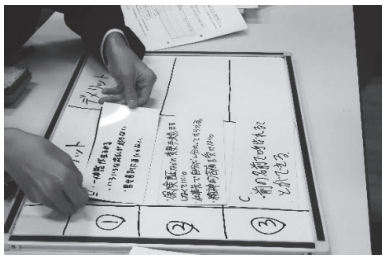
ステップ ②

【個人での考察】

この地域の特徴は○○だから…

見方・考え方を働かせながら思考します。

【意見交流】



それぞれの視点から意見交流を行います。調べた事柄を共有するとともに，他者の考えを比較します。

ステップ ③

吟味・検討のための視点を示して，学び合いを行います。

△△の視点から考えると，どうかな？

▽▽の視点から考えると，これはどうなのかな？

集団から個の学びへ

【再考の場面】

視点を基に考えを捉え直すことができます。自己の考えを深め，学びを深めます。

指定研究会情報

中越地区（十日町市・中魚沼郡中教研）社会教育研究発表会

◇研究主題：「当事者意識をもって，課題解決を図る生徒の育成」
～協働的な学びを活かした授業を通して～

「見方・考え方」を働かせる生徒の学びと，収束場面における深い学びに至らせるための手立てに焦点を当てた授業を公開します。地域の人口問題をテーマに，当事者意識をもって地域の課題をどう解決していくかを，学び合いを通して考えていきます。

◇月　日：11月２日（火）　◇会場校：津南町立津南中学校
◇公　開：１学級　２年　日本の諸地域「中部地方」　授業者　伊佐　　勝
◇指導者：小千谷市立小千谷中学校　校長　若林　靖人

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

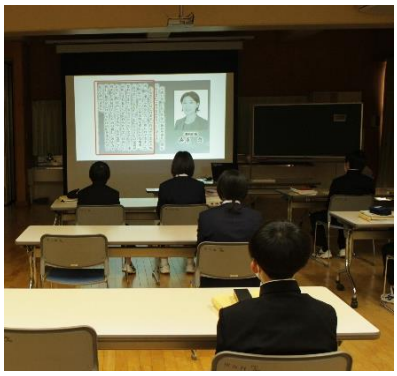
■前時まで■

生徒が生活する地域の課題に焦点をあてるため、中部地方を「人口、都市・村落」を中核にした視点から単元を構成し、加えて地理的分野最後の単元「地域の在り方」を組み合わせました。町の過疎化、人口減少問題に目を向け、身近な地域の人口減少問題を解決するためにどんなことをしたらよいか、町の人口減少の抑制策を考えました。

見方・考えた方を働かせた考察　～具体的なアイデアを考える～

町の人口減少の抑制策を考えさせるため、町の過疎化対策の計画を参考に、「農業」、「観光業」、「エネルギー」、「暮らし」の４つの視点（町の地域的特色）から迫りました。そこに「自然環境」または「通信」の視点を組み合わせ、人口の抑制につながるアイデアをグループ内で分担しながら考えました。

■本時■



導入で前時までの学習内容を振り返るとともに、町長のまちづくりに対する考えを提示しました。

「故郷の現状や将来を考えると、何とかしないといけないのでは…」、「何ができるだろうか」といった気持ちをもたせ、本時の学習がスタートしました。

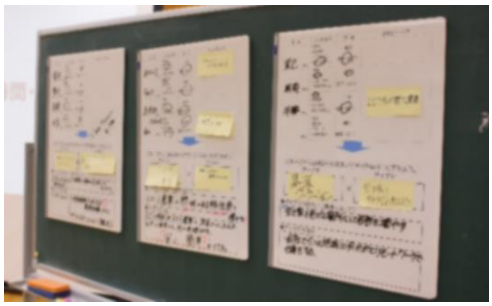
グループ内の意見交換　～他者のアイデアとの比較～

前時に分担したアイデアを発表し合いました。どんな視点でどういうアイデアを考えたのか、そのアイデアのねらいは何かなど、付せん（考えたアイデアを簡潔にまとめたもの）をホワイトボードに貼りながら、互いに発表しました。

視点を基にした学び合い　～アイデアの検討・練り上げ～

意見交換で出たアイデアを基にグループでアイデアを検討しました。吟味・検討の視点（「人口減少の抑制効果」と「実現可能」）を示し、視点をもたせながら意見交換で出たアイデアを組み合わせ（アイデアとアイデアの掛け合わせ）、人口減少を抑制するためのアイデアをグループで練り上げていきました。

学びの共有と再考の場面　～学びを生かした提案づくり～



発想や着眼点の違いに注目させながら、学級全体で意見交流をしました。最後は本時の学習を踏まえ、他者の意見を参考にしながら個人で町長への提言を作成しました。

成　果

〇地域の過疎化、人口減少問題といった自分の問題として捉えやすい学習課題を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むことができた。また、単元構成や学習課題の工夫によって、当事者意識をもって単元を通して学び続けることができた。

〇吟味・検討の視点をもたせた学び合いは、共通の視点で事象を見たり考えたりすることができ、話し合いが焦点化されるなど、生徒同士の学びを深める点で有効だった。

課　題

〇学び合いでの活動が生かされず、思考の深化・変容までには至らなかった生徒が見られた。最後の再考の場面で十分な時間を確保できなかったこともあったが、グループ活動や全体での意見交流の工夫など、集団の活動が個人の考えに影響を与えるような工夫が必要である。

〇視点を基にした学び合いにおいて、吟味・検討の視点が「地理的な見方・考え方」から離れたものになってしまった。

社会〈新潟地区〉

学ぶ必然性のある課題を，関わり合いを通じて解決し，深い学びを実現！

新潟市中教研　社会部
研究推進責任者（左）　新潟市立山の下中学校　加藤　真澄
会 場 校 担 当（右）　新潟市立石山中学校　佐藤　裕子

こんな深い学びの姿を目指します

○　関わり合う中で，知識を出し合い，相互に関連づけて体系的な知識を構築する。
○　関わり合う中で，課題の解決策を考え，多面的・多角的な見方・考え方を身につける。
○　獲得した知識をもとに，見方・考え方を働かせて意見を創造し，それを自分の言葉で表現する。

深い学びへのステップ

主体的に学びを深め，意見表明できるよう工夫します。

ステップ1

学ぶ意欲を喚起し，学ぶ必然性を感じる学習課題の設定。

ステップ2

共通認識している課題を，関わり合いを通じて解決する。

ステップ3

獲得した知識を精査し，見方・考え方を働かせて，自らの考えを構築し，表現する。

➡ステップ設定の理由

課題解決の意欲が持続した状態で協働作業や対話を行えば，様々な考えを積極的に自らに取り入れることができ，課題の解決が可能になります。また，自らの意見の表明は，社会に関わっているという自信となり，主体的に社会の形成を行おうとする意欲や態度につながります。

➡ステップのメリット

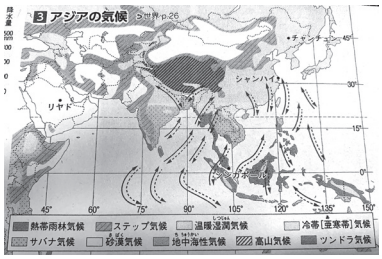
①　学ぶ必然性は，意欲を持続させます。
②　意見を交流するなかで，知識の関連性を見いだして社会事象を深く理解でき，解決策を考えることができます。
③　習得した知識を体系的に理解し，様々な考えと交流すれば，多面的，多角的な意見を創造しやすくなります。

ステップ ①

○年の大雪は大変だったね。新潟はなぜ，冬に降雪が多いのかな。

冬の日本海側に雪が多く降るのはなぜだろう。

日本の気候とアジア全体の気候は同じなのかな。アジア全体の気候を調べてみよう。



身近な現象にスポットを当てた課題であれば，自分のこととととらえることができ，学習意欲が持続します。

ステップ ②

モンスーンが関係あるみたいだね。

なぜ，風向きが変わるのかな。

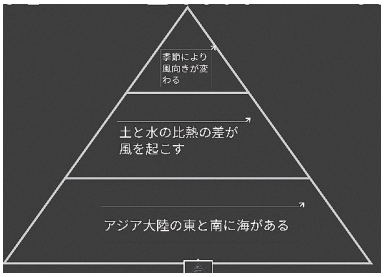
海と陸では，気温の上がり方はどう違うのかな。

内陸つまり海から遠いところは最高気温が高いね。

温かい空気は上に行き，下に空気が流れこむ。つまり風だね。

各自が持つ知識が，関わり合いを通じて，「モンスーン発生のメカニズム」という体系的な知識に構築されます。

ステップ ③



より根源的な事実をピラミッドの下に記入させます。

モンスーンの風向きを暗記するだけではなく，発生のメカニズムを考え，知ることで，知識が定着します。また，課題を解決するときの思考の過程を経験すると見方・考え方が身につきます。さらに，それを記録，発表することで，知識や見方・考え方がより確かなものとなります。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）社会科教育研究発表会

◇研究主題：社会認識を高め，確かな学力を育てるためには，どうあるべきか。

アフリカ州に日本のどの製品が売れるかをアフリカの現状を根拠として予想します。班で意見を交流しながら，ランキングを行うことを通じ，自らの予想の妥当性を検討します。最終的に，自らの意見をまとめ，発表することで，関わり合いの中で獲得した知識や働かせた見方・考え方が，より確かなものになります。

◇月　日：10月28日（木）　◇会場校：新潟市立石山中学校

◇公　開：１学級　１年　「アフリカ州」　授業者　佐藤　裕子

◇指導者：新潟市立南浜中学校　校長　坂井　　孝

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

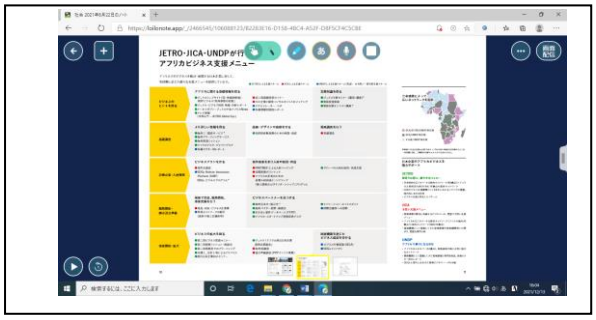
アフリカ州の現状について理解する

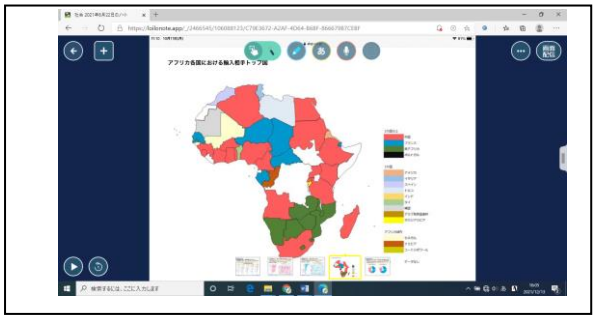
アフリカ州の自然環境、文化、歴史と日本との相違点や産業の特徴を説明する

まずはアフリカの現状を理解することで、本時の課題解決の足がかりとした。

■本時■

アフリカの現状の確認（資料を活用）





タブレット（ロイロノート）で、資料をスライド方式で提示し、簡単なクイズで内容を再確認した。確認した内容は次の通り。

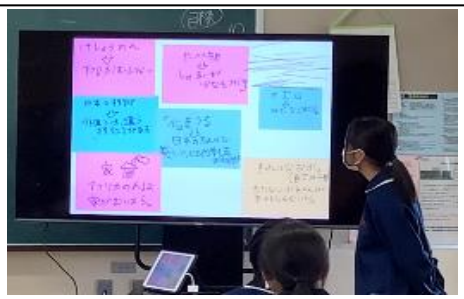
①熱帯や乾燥帯など生活に工夫が必要な地域
②植民地となった歴史、現在への影響
③モノカルチャー経済、GNI 低位国が多い
④内戦や政治不安な国が多い
⑤ヨーロッパや中国企業の進出が進む
⑥アフリカ各国での製品製造は難しい、でも期待もある
⑦先進国はすでに貿易での関係は確立
⑧今後の市場としての可能性が高いアフリカ州

個人での考察

１・４組	２組
○実際に現在売れている製品を提示 ○日本製品で、他の外国で売れているものを提示 ○２～３個の日本製品をあげて、そう思う理由をまとめる	○実際に現在売れている製品を提示 ○２～３個の日本製品をあげて、そう思う理由をまとめる
・個々に考察 	・個々に考察 ・意見がなかなか出ない生徒には、日本製品で、他の外国で売れているものを提示する ○理由について個別支援、参考資料を提示

個人での考察の際、学級の実態に応じて、資料を出す順番や指導方法を工夫した。３学級の授業公開を行い、２学級は学力差があるが発想力は豊かで、１学級は学力差は小さいが発想力に乏しいという違いを考慮した。

グループでの話し合い活動



個々の意見をもとに、グループで「アフリカに勧められる日本製品」を１つ、お勧めのポイントを含めて、発表した。

アフリカの現状をふまえて、日本の製品がアフリカの課題解決に役立つ、ただ、寄付や支援ではなく、お互いに対等な立場で取引ができる前提で、考察するようにした。

学級によって日本は技術的にも経済的にも上位にあるというニュアンスが出てしまう理由付けもあったが、「ぬらすと冷たくなるタオル」や「教育（辞書を送ろうとしたが、文字を読むことが難しいことを思い出し、先生たちにアフリカに行ってもらう）」などアフリカの現状をふまえた解答も多かった。

■単元終末■

単元を通した課題解決

本単元は、「アフリカ州と日本が対等な関係であることが両地域の発展に必要なことに気付かせ、今後の両地域だけではなく、世界の進歩、発展に寄与できる人材育成を目指す」ための学習活動である。単に金銭的寄付ではこの関係は築けないことに気付いた生徒も多かった。

成　果

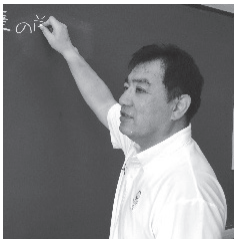
- アフリカと日本を「対等な関係」で考える課題であったので、生徒が課題を自分のこととしてとらえることができ、課題追究の意欲が持続した。
- 既習の内容が自然と話し合いの中に登場し、意見を交わすごとに知識として定着した。

課　題

アフリカの地域性の理解が不十分で、なぜその商品を売るのかという理由に、事実を根拠としたものより、ステレオタイプのアフリカのイメージに依拠したものが多かった。アフリカの人々の生活の具体的な生活の姿の理解を深める時間を確保することと、日本商品を売る国や階層を絞るとことが必要であった。

社会〈下越地区〉

単元を貫く課題の解決に向けて，見方・考え方を働かせて収集・分析，比較・検討を行うことで学びを深めます



五泉市東蒲原郡中教研　社会部
研究推進責任者（左）　五泉市立五泉中学校　五十嵐　嘉啓
会 場 校 担 当（右）　五泉市立村松桜中学校　坂田　信夫

こんな深い学びの姿を目指します

「学びを自己の生活や社会の改善に生かそうとする資質・能力を身に付けた生徒」の育成を目指します。生徒にとって切実で魅力のある学習課題に取り組むことで，生徒は見方・考え方を働かせて学習課題に対して自分の考えをもちます。その考えを学級や小グループで交流・批評・意見を述べ合うことでより妥当な解決（最適解，納得解）を図ります。この取り組みを積み重ねることにより，生徒は社会的事象を自分に関係するものとして考えることができるようになっていきます。

深い学びへのステップ

ステップ1

意欲を喚起する「単元を貫く課題」から単元を設計する。

ステップ2

働かせる社会的な見方・考え方を明確にした課題解決学習で授業をデザインする。

ステップ3

課題解決の論拠に繋がる資料提示と学習形態の工夫，思考ツールの活用で学び合いを深める。

➡ステップ設定の理由

生徒が課題に取り組む価値を感じる「単元を貫く課題」を設定することで，学ぶ意欲が喚起されます。単元を貫く課題に迫る小さな課題群に取り組みながら，社会的な見方・考え方を働かせて課題解決をしていくことで，考えが広がったり深まったりします。学習形態・聴き合い，思考を深めるツールの工夫で，主体的・対話的で深い学びが具現化できます。

➡ステップのメリット

① 大きな流れの中で毎時間の授業が進み，学習意欲が継続します。

② 他と協働しながら課題解決していく資質・能力が身に付きます。

ステップ ①

魅力ある単元課題を設定

生徒が，自分との繋がりや関わりを意識できるところから単元を貫く課題を見出し，設定します。地域の未来を担う構成員として，生活や社会を改善していこうとする意識の高まりが生まれます。

単元を貫く学習課題
「五泉市（村松地区）に暮らす住民が，より魅力を感じる町づくりを提言しよう」

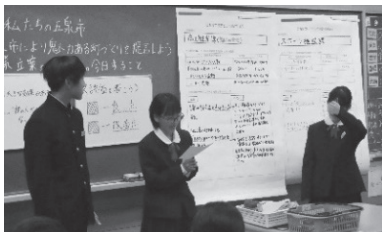
ステップ ②

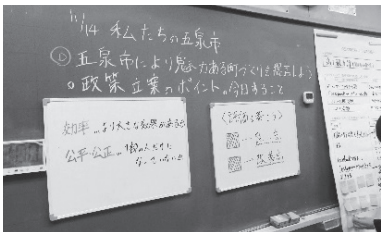
見方・考え方を明確にした授業デザイン

- 五泉市が抱える問題を財政，少子高齢化の進行，人口減少の面から考える。**【時間経過による変化　背景】**
- 五泉市の行政のしくみと，市役所の各課の仕事を調べる。**【政治の仕組み】**
- 住民の意思を生かす行政のしくみを考える。**【民主主義】**
- それぞれの課で行ったほうがよい政策を考える。**【平等選択　財源の確保配分】**

ステップ ③

資料提示と学習評価の工夫





五泉市に暮らす住民が，より魅力を感じる町づくりを提言します。その為に，論拠を示して意見交換を図ります。**【論拠に繋がる資料提示の工夫】**

「個」→「班活動」→「全体発表」 →「個」

学び合いでは，まず自分の考えをもち，意見交換で考えを深め，自分の考えを振り返ります。**【学習形態の工夫】**

ＩＣＴやＷＢ等を活用し，効率的に話し合いを進め，学びを深めます。**【思考ツールの活用】**

五泉市の市政の合理的な活動を図るために，合意形成を目指します。**【協働的な学習】**

社会的な見方・考え方を働かせ（検討の視点を明確にし）て，意見交換を図ります。

- 実現の可能性を検討し合います。**【効率と公正】**
- 優先順位をつけ，提言をまとめます。**【対立と合意】**

この過程を繰り返すことで，思考が広がっていきます。

指定研究会情報

下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）社会科教育研究発表会

◇**研究主題**：社会的な見方・考え方を働かせ，課題解決を図る生徒の育成

学習課題設定の工夫と学習形態の工夫を図り，既習事項を基に，自分なりに考えをまとめ，意見交換を通して考えを深めていきます。班や各自の主張は「効率」と「公正」，「対立」と「合意」に基づいた提言を行う授業を予定しています。

◇**月　日**：10月27日（水）　◇**会場校**：五泉市立村松桜中学校

◇**公　開**：１学級　３年　「地方自治と住民参加」　授業者　坂田　信夫

◇**指導者**：県立教育センター　指導主事　後藤　純二

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

政策を考え発表

クラスを７班に分け課題に取り組みました。各班は，企画政策，商工観光，農林，都市整備，高齢福祉，こども，スポーツ推進のそれぞれの課の職員の立場で政策を作成し発表しました。政策の実現可能性を思考ツールのピラミッド（ロイロノートのアプリ）でランク付けをして，付箋で他の課（班）の政策を評価しました。青い付箋には良い点を，赤い付箋には改善点を記入しました。

■本時■

授業の流れを確認

本時の授業の流れをホワイトボードで確認し，本時で何に，どう取り組むのかを理解しました。

前時までの学習内容を振り返り，本時の学習課題である「魅力ある五泉市（村松地区）をつくるにはどうしたらよいか」について，現代社会の見方・考え方を働かせて再検討しました。

他の班の評価を検討

自分たちの班に寄せられた評価（付箋）を班で検討しました。

次の４つの視点を基に見直しを行いました。

1　大きな効果が期待できるか。（効率）

2　大多数の市民の利益になるか。（公正）

3　全員の理解を得られるか。（合意）

4　長く活用できるか。（持続可能性）

４つの視点から検討

前時に他の班から渡された評価や意見（付箋に記載）を各班で読み込みました。

寄せられた意見は，班で４つの視点から検討し，採用するものとしないものに話し合いで分類しました。

なぜ採用したのか，採用しなかったのか，その根拠をワークシートに記述しました。

政策の再検討を行い発表

フィードバックされた評価を基に４つの視点から自分の班（課）で考えた政策を再度検討しました。

思考ツールのピラミッド（ロイロノートのアプリ）を見直して，班での話し合いを通して政策案をまとめました。

班長が修正された政策案を発表しました。

思考ツールのピラミッドで，各自の意見の変容を記録し修正しました。

成　果

「魅力ある五泉市（村松地区）をつくるにはどうすればよいか」の課題を，地域をよくするという視点から自分事として追究し，自分の考えを他の班の批評を基に再検討していました。抽象的な政策が，話し合いにより，より具体的で現実味を帯びた一歩進んだ政策となりました。

学習活動を通して，妥当な解決（最適解，納得解）を図ることができ，社会的事象を自分事としてしっかりと考える姿が見られました。

課　題

魅力のある単元を構成するために，生徒の実態に合う単元を貫く課題の開発が大きな課題でした。事前によく検討していくことが不可欠です。今後も，課題を解決するための小さな課題の内容とその配列についてよく吟味する必要を感じました。思考ツールをどのように使うことが深い学びに至らせるのか追究する必要も感じました。

理科

課題設定に配慮し,「見通し」と「振り返り」にも「見方･考え方」を働かせて,深い学びを実現しよう

従来の理科W型モデルでは，問題設定，仮説設定，結論の場面でFTを行い，学びあいを進めることを提案してきました。

これらの場面で理科の「見方・考え方」を働かせることは勿論ですが，探究の過程全体を通じて，「見通し」と「振り返り」を行う場面にも，理科の「見方・考え方」を働かせて，主体的・対話的な学びを進め，深い学びを実現することが大切です。

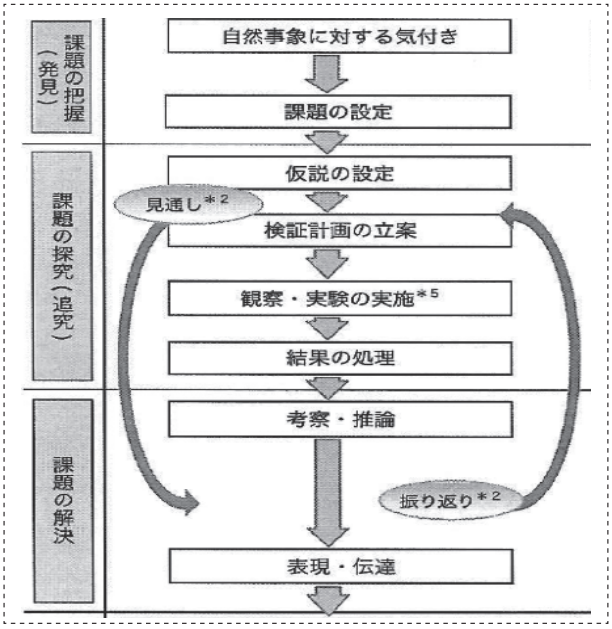
県中教研　理科部　全県部長
村上市立朝日中学校
校長　木ノ瀬　隆幸

ポイント１　単元導入時の課題設定には，可能な限り単元全体につながるような，生徒発の課題を設定する。

「主体的・対話的で深い学び」の実現には，生徒の「気付き」を引き出し，生徒との対話を通して「課題」という形で，生徒と学習契約を結ぶことが大前提です。その意味で，単元導入時には，事象提示により生徒の素朴概念や既習事項とのズレに気づかせ，単元全体を通して生徒が解決したい課題を設定したいところです。単元を通して解決したい課題が明確になれば，１時間毎に授業が途切れることがなくなり，生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するために良いスタートを切ることができます。

新学習指導要領理科解説編に，資質・能力を育む探究過程のイメージが右図のように示されました。その中で，学年ごとに重視する学習過程の例として，中学１年生では，事象との出会いにより，課題を見いだすことを，中学２年生では，特に見いだした課題を追究する際に「見通し」をもって解決する方法を立案することを，中学３年生は，１・２年の実践を踏まえ，一連の探究の過程の中での「見通し」と「振り返り」を大切にすることが提案されています。

どの単元で何を大切にするかを授業者自身が十分に検討して，学習者主体の課題が生まれるような単元構成を意識しましょう。

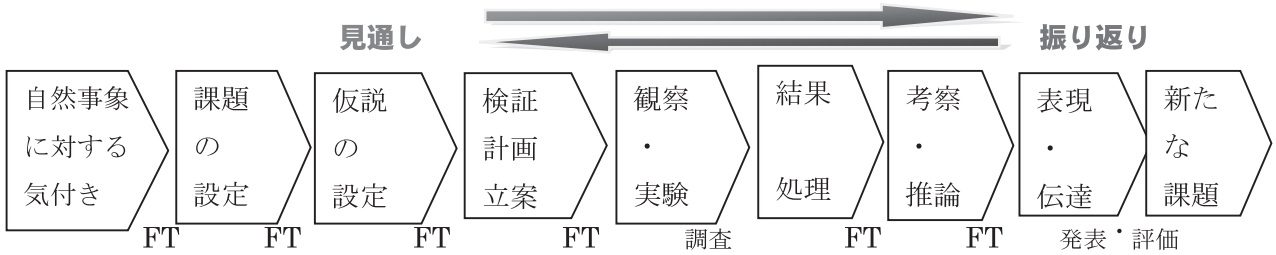


＜引用・参考文献＞『中学校学習指導要領解説理科編 p.9』

ポイント2　学習過程を可視化し,「見方・考え方」を働かせて,「見通し」と「振り返り」を繰り返す。

観察・実験の予想や考察の場面にFTを行うだけでなく,単元の各場面で理科の「見方・考え方」に基づいた「見通し」と「振り返り」を繰り返し行うことは，生徒の多面的・多角的な学びを促します。それには，個別最適化にもつながる一人一台のICT端末を活用し，自分の考えを記録させたり，振り返りを残したりすることが有効です。また，協働的な学びを促すためにも，理科の「見方・考え方」を明確にして，班単位のホワイトボードや，ICT機器等を活用して考えを記録します。次に，意見交換を通して多様な考え方の存在に気づかせ，班の意見や他者の考えは自分と何がどのように違うかを意識させます。そして，論点を明確にした話し合いを進めることで，生徒に新たなズレの意識や概念の形成，気づき等が生まれていきます。また，見通しと振り返りを単元全体で何度か繰り返すことで，新たな課題も生まれてきます。

※下図でFTとあるのは,学習指導要領解説理科編の「意見交換・議論」をFTと言い換えたもの。



理科 重点方針

目的意識をもって科学的に自然を調べる能力と科学的な思考力を育てる学習活動の展開に努める。

○　観察や実験の予想を検討したり，結果を整理し考察・吟味する学習活動の充実を図ることを通して，目的意識に裏打ちされた科学的な思考力，表現力を高める。

○　他者との関わりや問題解決的な活動を展開することを通して，科学的な見方・考え方を育てる。

○　地域の環境や学校の実態を生かした自然体験，科学的な体験を通した実感を重視し，自然事象の認識と科学への興味，関心を一層高める。

理科 学び合い10

＜理科授業スタンダード5＞

①	生徒の素朴概念の把握	生徒の素朴概念を把握して，授業を構成している。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や認識の状況を把握し,単元単位で目標や指導計画を立てている。
③	基本操作の充実	観察・実験に必要な操作ができるように支援している。
④	直接体験の重視	直接体験を重視した観察・実験を行なっている。
⑤	日常生活との関連	学習内容を日常生活と関連付けて考えさせる授業をしている。

＜理科学び合い5＞

⑥	問題意識をもたせる事象提示	感動や驚きを誘発し，単元全体の問題意識を高める事象提示をしている。
⑦	根拠をもとにした予想理由の検討	事象に対し，既習事項と関連付けた予想理由を検討させている。
⑧	仮説を検証する実験方法の工夫	仮説や予想を確かめるための観察・実験方法を考えさせている。
⑨	気付きを大切にした観察・実験の工夫	生徒の気付きを大切にしながら観察・実験を行わせている。
⑩	結果をもとにした考察の意見交換	観察・実験の結果をもとに結論を導き，生徒同士の意見交換を通して考えを深めさせている。

理科〈上越地区〉

学んだ知識を活用し，課題解決することで深い思考の場面を！

上越市中教研　理科部
研究推進責任者（左）　上越市立城北中学校　鬼木　哲人
会 場 校 担 当（右）　上越市立直江津中学校　佐藤　智宏

こんな深い学びの姿を目指します

単元の初めに提示された課題に興味・関心をもち，課題を解決するためにどのような知識が必要なのか，見通しをもって学習に取り組みます。さらに，学習した内容がどのように課題解決に活用できるのか整理するなど振り返っていきます。単元の最後には，知識を活かして，生徒同士が考えを比較，整理しながら課題を解決していく姿を目指します。

深い学びへのステップ

“最終課題”に向かって，学習を進めていく

ステップ1

小単元や分野を通した課題（最終課題）を提示する。

ステップ2

課題を解決するために必要な知識を整理するシート（最終課題シート）を活用する。

ステップ3

議論・発表用ボードを活用する。

➡ステップ設定の理由

学び合う生徒の理想の姿に近づくためには，学習意欲の向上，思考力・表現力を高めることが必要であると考えました。そのために，意欲を引き出す課題を設定，また，見通しをもって学んだ知識を活用したり，振り返りを充実させ，自分の思考の道筋（考え）を自覚したりできるように「最終課題シート」を活用します。

➡ステップのメリット

① 興味・関心を引く学習課題で生徒の学習意欲を高めます。
② 課題を最初に示すことで見通しをもって学習することができます。

ステップ ①

最終的に解決する課題を小単元の最初に示します。

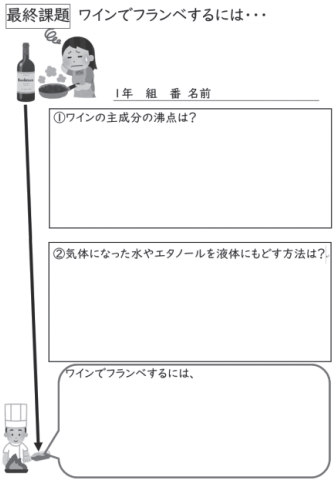
その課題を解決するために必要な知識（内容）を考え，見通しをもって学習することができます。

生徒が解決したいと思うような課題にすることで，目的意識を高めて，意欲的に学習することができます。

ステップ ②

小単元を通した課題を解決するために必要な手立てを生徒に考えさせたり，示したりします。それらを１枚のシートに整理していき，学習に見通しをもてるようにします。

最終課題シート

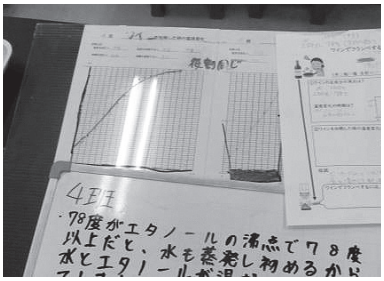


授業では，学習で分かったことをそのシートに記入していき，課題に取り組む際に学習した内容を活用できるようにします。

ステップ ③

生徒が自分の考えを説明したり，他者の考えと自分の考えを比較，整理し，適切な考えを導いたりしやすくするため，プラスチック製の段ボールとPETシートで作った「議論･発表用ボード」を活用します。

ボードはプラスチック製の段ボールとPETシートの間にＡ２サイズの紙を挟み込むことで記入した考えがよく見えます。また，マーカーペンで書いたり，消したりできます。そのため，班で考えを整理する場面で有効に活用できます。



指定研究会情報

上越地区（上越市中教研）理科教育研究発表会

◇**研究主題**：見通しと振り返りを大切にした思考力・表現力を高める指導の工夫

小単元の最初に最終課題を示すことで，見通しをもってその解決に向けた学習に取り組めるようにします。本時では，身のまわりの物質を組み合わせることで発生する気体の同定を行います。生徒たち自身で計画を立てて実験し，既習事項を生かして考察していきます。

◇**月　日**：11月17日（木）　◇**会場校**：上越市立直江津中学校

◇**公　開**：１学級　１年「発生した気体の正体は？」 授業者　佐藤　智宏

◇**指導者**：上越教育事務所　学校支援第２課長　藤本　高雄

上越市立教育センター　指導主事　品田　やよい

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■単元の導入■

最終課題の提示

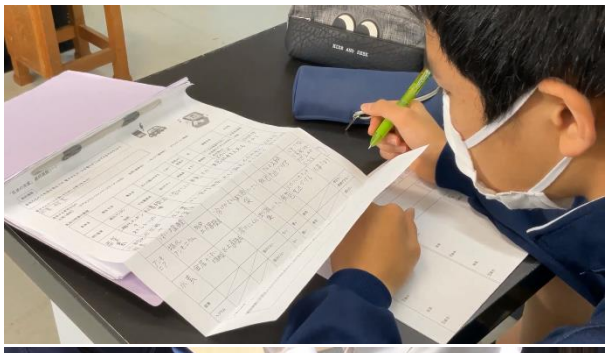
単元の初めに、生徒に見通しを持たせるために最終課題の提示を行った。環境にやさしい燃料電池車を紹介し、「身近なものから気体を作り、その気体を使ってこの燃料電池車のようにオルゴールを鳴らす」と課題を提示した。課題解決のために、気体の集め方や気体の特徴を知り、気体を特定できるようになることが必要である、と確認させることができた。

■本時■

授業の導入

授業の導入では、何の気体をどのように使うと燃料電池になるのかを生徒が見通しをもてるように、水を電気分解してできた酸素と水素から燃料電池を作り電子オルゴールを鳴らした。電気を使って得た気体ではなく、身近な物から発生した気体で発電したいと意欲をもたせることができた。

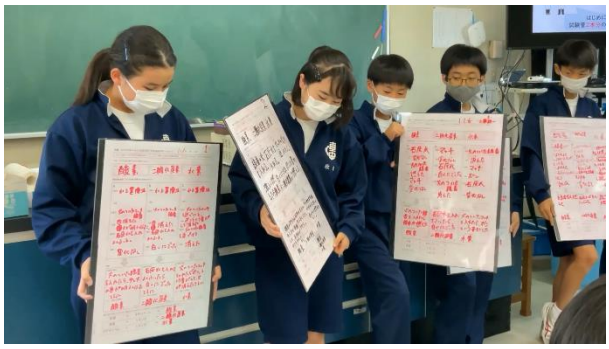
実験の計画、実験



生徒は、実験の計画を立てたり、予想を考えたりする場面で、「最終課題シート」を活用した。最終課題を解くために必要な知識を整理してシートにまとめてあるため、振り返りやすく、そのシートをみてスムーズに計画や予想を行うことができた。

実験では、身近にある大根おろし、貝殻、ファイヤースターターの芯（マグネシウム）、傷薬（オキシドール）、レモン汁を使って気体を発生させた。気体の特定がうまくいかなくても実験方法を修正してやり直し、正しくできた班があった。

実験の考察、発表



実験の考察を班で「議論・発表用ボード」に記入した。話し合いながら記入したり、記入した内容を見て議論したりしながら、学びを深めていた。ボードにシートが挟んであることによって記入する内容が分かりやすいため、どの班もスムーズに記入を進めることができた。

発表時に、「議論・発表ボード」を持って発表した。ボードに書く内容が多かったため、字が小さくなってしまったが、発表者は記入した内容を見ながら、班で考えた意見を発表した。

最終課題の解決

最後は最終課題に取り組んだ。酸素と水素をもう一度発生させ、燃料電池を再現して電子オルゴールにつないだ。最初はなかなか鳴らなかったが、鳴る班が出ると生徒は驚き、歓声をあげていた。電気自動車の技術の高さに気づくことにもつながった。

成　果

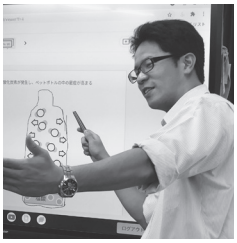
「最終課題」については単元の初めに課題を生徒に示すことで、学習に対して興味と見通しをもたせることができた。「最終課題シートの活用」については、生徒がシートに最終課題を解決するための知識を整理することができた。その結果、課題を解決するためにうまく学習内容を活用するとともに、生徒の学習内容の定着にもつながった。

課　題

最終課題シートは 1 つの最終課題に対し、それ専用のシートになっている。雛型を作り、どの課題に対しても同じシートを使えるようにすると、様々な単元で最終課題を設定して行う時に汎用性があり便利である。また、生徒も慣れてより見通しをもって取り組めたり、まとめ方に工夫が見られたりすると考える。

理科〈中越地区〉

「既習事項の活用」を大切にした学習活動で知識をつなぎ，学びを深めます！



加茂・南蒲中教研　理科部
研究推進責任者（左）　加茂市立若宮中学校　白井　明日華
会 場 校 担 当（右）　加茂市立加茂中学校　今井　友之

こんな深い学びの姿を目指します

○　既習事項をもとにして，新しい学びを獲得する姿
○　課題に対して，共通点や相違点を視点に比較し，その思考の過程を他者に伝えようとする姿
○　理科での学びや知識を実生活につなぎ，活用しようとする姿

深い学びへのステップ

「既習事項の活用」を促すために

ステップ1

単元構成を工夫する。
【既習事項を使いやすくするための工夫】

ステップ2

別単元や単元内の知識をつなぐために，ポートフォリオ等を活用する。
【既習事項を使いやすくするための工夫】

ステップ3

科学的根拠を分かりやすく伝えるために，ICTやモデルを活用する。
【自分の思考過程を表現するための工夫】

➡ステップ設定の理由

科学的な根拠を示して考えることが苦手で，予想や結論を「何となく…」とする生徒が多く，自ら考えを述べる生徒が固定化されている，という実態があります。

そこで，深い学びの実現のために，「知識をつなぐ」ことを大切にし，生徒全員が自信をもって主体的に取り組み，伝えることができるようにしたいと考えました。

➡ステップのメリット

① 「既習事項の活用」を通して学習活動を行うことにより，自らの考えを広げたり，強化・修正したりして，学びが深まります。
② 表現活動を充実させることで，学びの深まりや自己の高まりを実感し，新たな学びへの意欲につながります。

ステップ ①

生物のからだと細胞
↓
植物のつくりとはたらき
↓
動物のつくりとはたらき

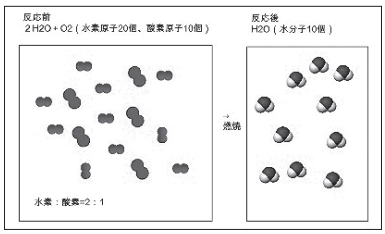
変更

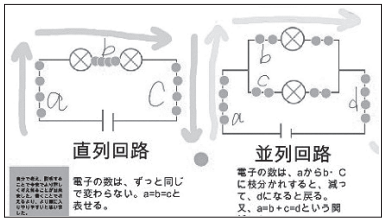
生物のからだと細胞
↓
<u>動物のつくりとはたらき</u>
↓
<u>植物のつくりとはたらき</u>

本研究では，「動植物の生きるしくみ」の単元構成において，「第２章　植物のつくりとはたらき」と「第３章　動物のつくりとはたらき」を入れ換えます。

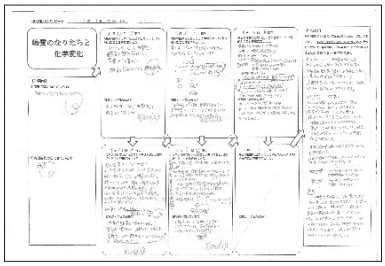
「細胞呼吸」を単元のキーワードに，生徒がイメージをしやすい，動物の生命を維持するしくみについて学習した後に植物を学習することにより，動植物の生命を維持するしくみについて深く関連付けて学習することができます。

ステップ ②





「粒子概念」により，単元どうしをつなぎます。



「ポートフォリオ」により，単元内の自己の学びをつなぎます。

ステップ ③

身に付けた知識・技能を使って，日常生活の事物・現象を提示する場面や，観察，実験で得た結果の整理，考察の場面で，ICTやモデルを活用した表現活動を取り入れるなど，生徒の思考・表現が深まるような場面を設定します。

その際，特に科学的根拠を意識させます。本研究における科学的根拠は①既習の知識，②実験データ，③実生活での経験としました。

指定研究会情報

中越地区（加茂・南蒲中教研）理科教育研究発表会

◇**研究主題**：知識をつなぎ，思考・表現を深める生徒の育成
～「既習事項の活用」を通して～

動植物の生きるしくみについて，単元を通して動物と植物のからだのはたらきについて相互に関連付けながら学習に取り組みます。本時では，葉で作られたデンプンがその後どうなるのかについて，個人で立てた仮説を検証しながら動物や植物が生命を維持するしくみについて考えを深めていきます。

◇**月　日**：11月９日（火）　◇**会場校**：加茂市立加茂中学校
◇**公　開**：１学級　２年　「動植物の生きるしくみ」　**授業者**　今井　友之
◇**指導者**：中越教育事務所　学校支援第２課・指導主事　**羽鳥　益実**

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

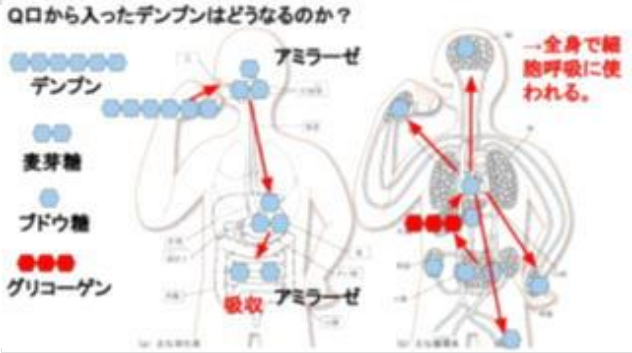
■前時■

植物の養分について仮説の検証

「植物の細胞はどのようにして養分を得ているのだろうか」と問うことで、葉緑体で作られたデンプンがどのようにして細胞へ運ばれるのか、動物の消化・吸収を既習事項として、個人で思考しました。生徒はショ糖試験紙を使うことで、葉緑体で作られたデンプンがショ糖に分解されていることを確かめました。

■本時■

単元構成の工夫



「細胞」「動物」「植物」の順に単元を構成したことで、植物の生命を維持する仕組みについて、「動物」を既習事項として学習した内容と比較したり関連付けたりしながら、思考を深めました。

別単元や単元内の知識をつなぐためのポートフォリオ等の活用

デンプンを糖などに細かく分解して細胞呼吸に使うというしくみが、動物と植物で共通していることを、生徒は、ポートフォリオを振り返ることで見いだしました。

科学的根拠を分かりやすく伝えるための ICT やモデルの活用

葉で作られたデンプンが細胞までどのような形で運ばれるのか、デンプンと糖を区別できるモデルを活用しました。その際、１人１台のタブレットと、各班ごとのホワイトボードの両方を使用し、デジタルを使うかアナログを使うかを生徒自身に選択させました。デンプンが小さくなってショ糖として体中に運ばれることを根拠に基づいて粒子の視点を生かしながら生徒は、タブレットかホワイトボードのどちらかで表現しました。

さらに、表現したものをクラスで共有したのちに、「デンプンが糖になって体全体に運ばれているのはなぜだろうか？」と問うことで、細胞が生命を維持するためであることに迫りました。

ショ糖試験紙を活用した動物と植物の共通性の検証

次時では、様々な種類の動物細胞（豚肉、魚の切り身、貝）でもショ糖試験紙を活用して、糖分の検出を行いました。それにより、植物と動物が同じように生命を維持していることについて実感を伴った深い理解を得ました。

成　果

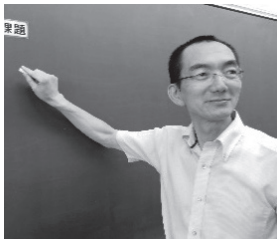
単元構成を変更したことにより、生徒が動物での既習事項を活用し、根拠をもって学習に取り組むことができました。また、ICT とホワイトボード、ポートフォリオを活用したことで、生徒が学習した内容を振り返りながら意見を交換し、考えを深めることができました。このことにより。動物と植物の生命を維持する仕組みについて生徒が考えを深めることにつなげることができました。

課　題

ICT の活用場面については、生徒が思考を深める場面での活用よりも発表などの場面での活用に重点をおく方法も考えられました。今後も生徒が思考を深める場面を表現する場面等で、どのように ICT とホワイトボードなどを使い分けていくかの検討が必要だと感じました。

理科〈新潟地区〉

「だから，こう動くのだろう」立体モデルで説明できる生徒の育成



新潟市中教研　理科部
研究推進責任者（左）　新潟市立藤見中学校　　間　　英法
会 場 校 担 当（右）　新潟市立新津第一中学校　小松　健治

こんな深い学びの姿を目指します

○　実験装置を自由に使いこなす姿
○　見方・考え方を働かせながら，実験結果を分析・解釈し，立体モデルで自分の考えを説明できる姿
○　学習用端末を使い，自分の学びを広げる姿

深い学びへのステップ

電流・磁界・力の３つの向きを表現した立体モデルの作成と活用を通して，思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

ステップ１

生じる力の向きを自由に変えられる実験装置を用いる。

ステップ２

電流・磁界・力の３つを表した立体モデルを作成する。

ステップ３

他者との交流場面を設定し，空間認識のずれを解消させる。

➡ステップ設定の理由

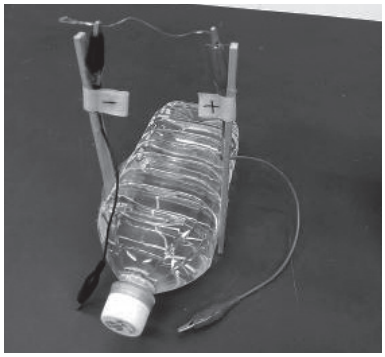
「学び合い10」に基づく授業づくりを行うことにしました。「①生徒の素朴概念の把握」「③基本操作の充実」「⑩結果をもとにした考察の意見交換」を，特に重視した授業を行っていきます。

検証操作が容易な実験器具，目で見えない電流・磁界・力を可視化できる立体モデルを使用し，自分の考えを説明する授業を展開します。

➡ステップのメリット

①　実験装置を工夫し，多くの事例をつくり出すことができます。
②　立体モデルを使用した意見交流場面で規則性を見いだせます。

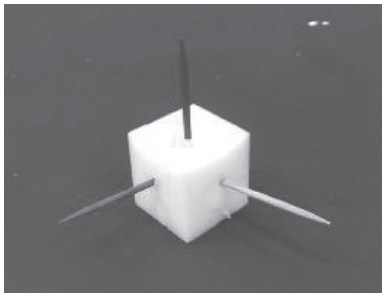
ステップ ①



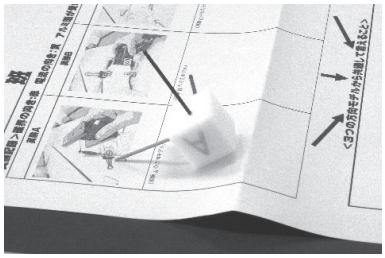
学習課題を「電流の向き，磁界の向き，力の向きにはどんな関係があるか」と提示します。その解決のために，操作が容易な実験装置を用います。

この実験器具を使うと，「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」を簡単に変えることができます。

ステップ ②



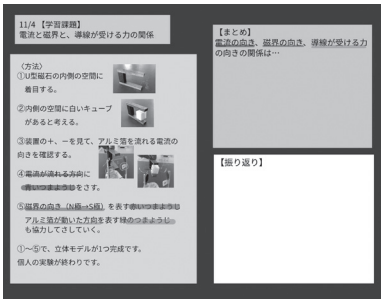
ステップ１の実験装置での「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」をモデル化します。スポンジにつまようじを刺し，「電流の向き」を青色,「磁界の向き」を赤色「受ける力の向き」を緑色で表し，立体的に可視化します。



ステップ ③

どのように条件を変えても，立体モデルが同一になります。班内，クラス内の意見交流で「電流の向き」「磁界の向き」「受ける力の向き」の規則性を確認できます。

タブレット端末を使用し，自分の考えを発表する交流場面を設けます。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）新潟市教育研究発表会

◇**研究主題**：学び合いを通して，科学的な思考力・判断力・表現力を高める理科指導の工夫

立体モデルを作成する活動によって，空間概念が捉えにくい「磁界の向き」「電流の向き」「受ける力の向き」の３つの要素の関係を適切に説明する生徒の育成を目指す授業を行います。今年度，当日の公開はZoom配信にて行います。

◇**月　日**：11月４日（木）　◇**会場校**：新潟市立新津第一中学校

◇**公　開**：１学級　２年　「電流と磁界」　**授業者**　小松　健治

◇**指導者**：新潟市教育委員会　指導主事　**庭田　茂範**

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

導線に電流を流したときにできる磁界のようすをつかむ

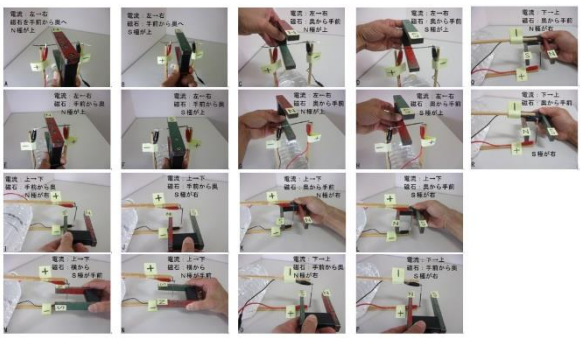
生徒はこの授業までに、磁石の周囲にできる磁界のようすについて調べ、方位磁針のＮ極がさす向きをその地点での「磁界の向き」として表すことを学んでいる。

前時では、自作 S-cable（パスカル導線）を活用し、導線を流れる電流の周囲の磁界のようすを確かめさせ、その磁界のようすは右ねじの法則で表せることを紹介した。

■本時■

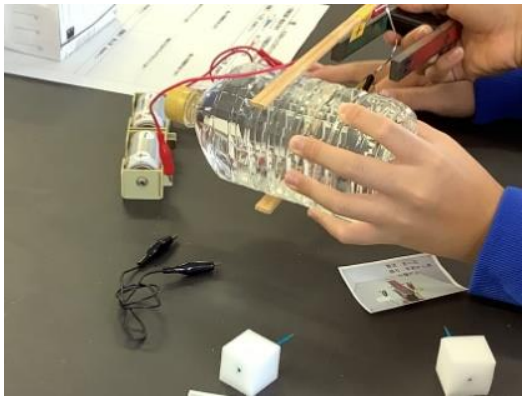
学習課題：電流の向き、磁界の向き、アルミ箔が受ける力の向きにはどのような関係があるか。

前時の学習内容の復習ののち、生徒に実験器具を提示し、アルミ箔が力を受けて動く様子を見せた。生徒は，仲間とのペアトーク等の活動を通して、アルミ箔の動く向きは電流の向きや磁石の向きが関係していると予想を立てた。

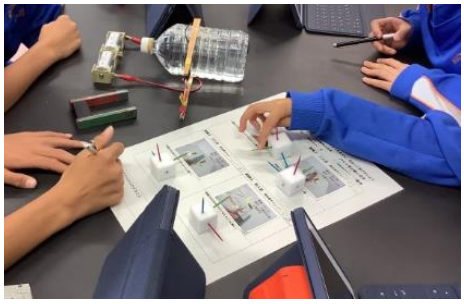


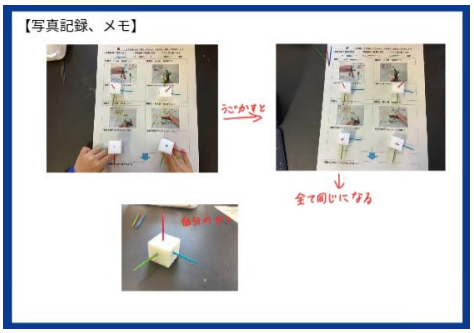
電流の向き、磁界の向きとアルミ箔が受ける力の向きの規則性を導き出すため、左図のような指令カードを準備した。この手立てにより、３つの要素をより立体的にとらえることと、個別の実験結果から一般化して規則性を導き出すことの２つをねらった。

展開【ステップ１，２】実験装置の工夫、立体モデルの作成



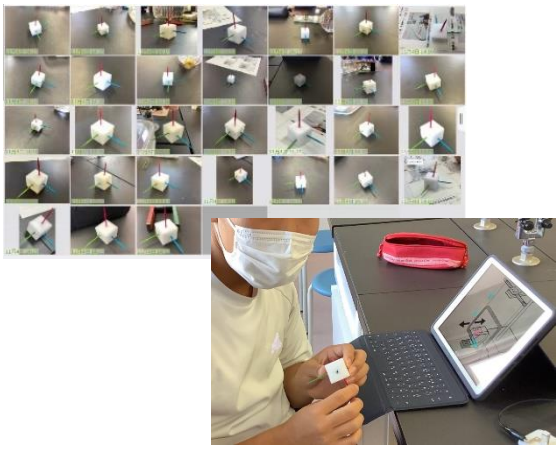
電流の向き、磁界の向き、アルミ箔が受ける力の向きは、着色した爪楊枝をスポンジに刺し込むことで記録する。こうしてできた立体は実験の記録でもあり、話し合いや課題解決に必要なモデルでもある。４人班では机に４つの立体が並んだ。生徒はそれらの立体を回したり置き直したりして、３つの要素の規則性を導き出した。





班員が行う実験の条件はみな異なるが、でき上がる立体のモデルは同一となる。生徒たちは班で導き出した規則性の正しさに確信をもった。

授業のまとめと振り返り【ステップ３】他者との交流場面、空間認識のずれの解



生徒が自分の立体を学習端末で撮影し、提出箱に送信した。みな同じ立体ができ上がることを確認した後、まとめを行い、確認問題を提示した。

確認問題はコイルのブランコの動く向きを問うものとした。生徒たちは周囲の仲間と確認し合いながら各自の立体を回し、ブランコの動く向きを正しく予想することができた。

【振り返り】は・と・じ・かん
はじめは全て同じになると思った
友達は決まりなんてないと思うといっていた
実験をしてみんな違ったけど動かすと同じになった。電流と磁界が分かれば動く向きがわかることが分かった
身の回りのものでどんなことに使われているのかなと考えた

【振り返り】は・と・じ・かん
始めは、電流と磁力線がぶつかって方向が決まるから、別々になるだと思っていて、
友達は、電流と磁界と同線の力の向きは変わると思っていて、
実験をして分かったことは、３つの力の向きには、それぞれ決まりがあることが分かって、向きの関係が同じことが分かった。
それで考えたのは、３つの力の向きをしっかり理解すれば、コントロールができるかも、ということです。

左は生徒がロイロノートに提出した振り返りである。はじめは（予想）、ともだち（学び合い）、じっけん（結果）、かんがえたこと（考察）、を含んだ書式の型（はとじかん）を活用した。生徒の学びの様子を把握しやすい。

成　果

電流の向き、磁界の向き、生じる力の向きは互いに直交する立体的な関係である。生じる力の向きを自由に変えられるこの実験装置と、３つの要素の向きを可視化できる立体のモデルは、生徒が話し合い活動を通して立体的な認知力を伸ばしていくために有効であったと考える。モデルを活用して自然な形で生徒が自分の考えを表現できていた。また、学習端末の活用次第で、短時間でも効率的に自分の考えを表出させ、他者の意見と比較・検討する場を設けることができることがわかった。

課　題

規則性を確かめ合う授業の意味合いが強かった。生徒の思考をより深められる学習課題や発問の工夫が必要であると同時に、生徒が「個別の実験結果⇄一般化・法則化」の往還を繰り返す中で、科学的な思考力・判断力・表現力を身につけることができる単元配列が必要であると感じた。また、実験器具の特性上、アルミ箔が受ける力の向きを見極めにくい指令カードがあった。更なる器具の改良が求められる。

理科〈下越地区〉

「何でだろう？」を自分たちで解決する生徒の姿を目指します！

村上市岩船郡中教研　理科部
研究推進責任者（左）　村上市立村上第一中学校　長谷川　智大
会 場 校 担 当（右）　村上市立岩船中学校　水澤　和雅

こんな深い学びの姿を目指します

ツール（ICTツールや思考ツール等）を有効に活用することで，生徒が見方・考え方を働かせながら予想や根拠をもとに仮説を立てて実験を行うことや，実験・分析・解釈などの場面において学び合いながら考察を導出することなどを通して，授業後に「何を学んだのか」「何が分かるようになったのか」を実感し，自ら進んで次の探究へ向かう生徒の姿を目指します。

深い学びへのステップ

“何でだろう”を自ら進んで探究するようになる

ステップ1

導入における事象との出会いを工夫する。

ステップ2

ツール（ICTツール・思考ツール等）を活用する。

ステップ3

「見通し」と「振り返り」を大切にする。

➡ステップ設定の理由

主体的・対話的で深い学びの実現には，生徒自身に見方・考え方を働かせることが大切である。そこで，導入において「既有知・経験知とのズレ」や「事象との対話」を生むような事象提示を行ったり，考えを整理または可視化するためにツールを活用したり，生徒のメタ認知的活動を促すような見通しと振り返りを探究の過程において繰り返したりすることが有効なのではないかと考えた。

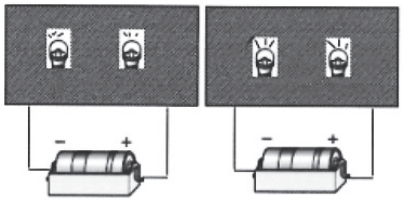
➡ステップのメリット

① 生徒の主体的な学びにつながるとともに生徒が探究の過程において見方・考え方を正しく働かせられるようになります。

② 効果的な学び合いにより理解が深まり，自ら新たな探究へ進むようになります。

ステップ ①

導入における事象提示を工夫します。既有知・経験知とのズレが生じたり，事象との対話が生まれたりすることで，生徒が見方・考え方を働かせる契機となるとともに生徒の主体的な学びにつながるような事象提示を行います。

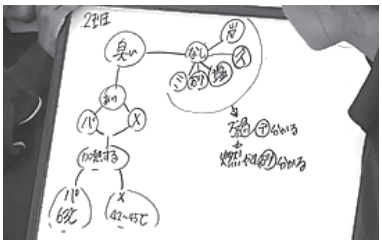


「電流とそのはたらき」の単元では，同じ乾電池と同じ豆電球を用いた２つの回路において，両者の豆電球の明るさが異なるという事象提示を行います。

「同じ明るさになるはず」という生徒の既有知・経験知とのズレを問うとともに回路の一部を隠すことによって事象との対話を生徒に促します。

ステップ ②

ツール（思考ツールやICTツール）を活用して思考を整理したり可視化したりします。それによって新たな視点に気付くことができたり，他者と共有することで互いの見方・考え方のズレに気付いて修正したりすることができます。



指定１年目の研究会では樹形図とホワイトボードを用いて生徒の思考を整理するとともに可視化して共有を図りました。

本研究会では「Jambord」を用いる予定です。

ステップ ③

一連の探究の過程において「見通し」と「振り返り」の場面を設定します。

ステップ１，２での見方・考え方に基づいた見通しをもった仮説の設定を行ったり，授業の終わりにメタ認知的活動を促す振り返りを行ったりします。

単元全体で何度も繰り返すことで，見方・考え方を働かせながら探究の過程を経る深い学びにつながるとともに，獲得した資質・能力に支えられた見方・考え方を次の学習場面等でも働かせようとする主体的な学びにもつながります。

本研究会では特に，生徒自身が「何を学んだのか」「何が分かるようになったのか」などを自覚できるように振り返りを設定し，それを次の学習へ生かそうと自ら進んで次の探究へ向かう生徒の姿を目指します。

指定研究会情報

下越地区（村上市岩船郡中教研）理科教育研究発表会

◇**研究主題**：生徒の主体性を育む，学び合う授業の創造

直列・並列回路の違いによる電圧の規則性について考えます。豆電球を用いた事象提示から「何でだろう？」と関心をもち，ICTツールを活用して思考を可視化しながら他と意見交換する活動を通し，見通しのある課題解決学習を進めていきます。

◇**月　日**：11月11日（木）　◇**会場校**：村上市立岩船中学校

◇**公　開**：１学級　２年　「電流とそのはたらき」　授業者　水澤　和雅

◇**指導者**：下越教育事務所学校支援第２課　指導主事　平山　裕也

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■本時■

提示された事象から問いを見出す

同じ電池と豆電球なのに明るさが異なる事象を、ブラックボックスで配線を隠して提示しました。

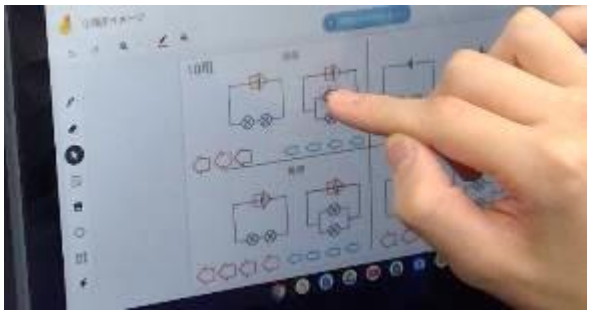
生徒は、一目見て「なぜ？」と問いが生まれて見方・考え方を働かせたり、ブラックボックス内部に考えを巡らせて「〇〇なのではないか」とつぶやくなど事象との対話を始めたりする様子が見られました。**【ステップ１】**

Jamboard を活用して仮説を設定する

提示された事象についての仮説を、Jamboard を活用して表現させ、共有しました。

Jamboard 上で他者の考えをリアルタイムで共有しながら思考したことで、普段は消極的な生徒が自分の考えを表現することができたり、他者の考えと比較して自身の見方・考え方を修正したりする様子が見られました。**【ステップ２】【ステップ３】**

Jamboard を活用して予想を立てる



豆電球の明るさが異なる事象を追究するため、直列回路と並列回路での電圧の大きさを調べるにあたり、まず各自で予想を立てさせました。同じく Jamboard を活用し、電圧の大きさを矢印の大小で表現させて班内で共有し、実験への見通しをもたせました。**【ステップ２】【ステップ３】**

予想をもとに実験計画を立てる

Jamboard 上で共有した各自の予想をもとに、班ごとに実験でどの部分の電圧を測定するかについて計画を立てさせました。

予想をもとに効果的な計画を立てる班が見られた一方で、予想と関係なく全ての部分を測定する計画を立てる班もあり、予想の場面での班内の合意形成の不十分さが見られました。**【ステップ３】**

計画に沿って実験する

各班で立てた実験計画に沿って、デジタル電圧計を用いて電圧を測定させました。

事前に自分たちで予想や実験計画を立てさせて見通しをもたせたことで、意欲的に実験に取り組む生徒の姿が見られるとともに、操作もスムーズになり、短時間で実験を終える様子が見られました。

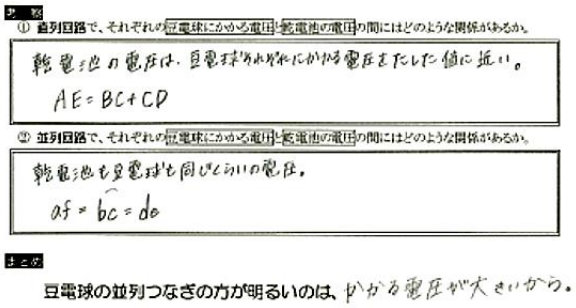
結果を全体で共有する

各班の実験結果を発表させ、黒板にまとめて全体で共有しました。

生徒は、自分の班の結果と他の班の結果を比較して、誤差について修正する姿が見られました。

一方で、この場面ではＩＣＴツールを活用せず、各班の結果を聞き取って教師が手書きで集約したため、大幅に時間がかかってしまいました。

結果をもとに考察をまとめる



全体で共有した結果をもとに、電圧の規則性や豆電球の明るさのちがいについてまとめさせました。

生徒は、結果から電圧の規則性に気付き、自分の言葉や式を用いてまとめている姿が見られました。

一方で、ここで授業終了の時間となってしまい、予定していた振り返りは実施できませんでした。

成　果

本時では、研究主題を達成するために講じた「導入における事象との出会いの工夫」「ツール（ＩＣＴツール・思考ツール）の活用」「見通しと振り返りの設定」の３つの手立ての有効性を確認することができました。これを探究の過程において繰り返すことで、生徒の主体性を育み、自ら進んで次の探究へ向かう生徒の育成を継続していきます。

課　題

本時では、実験結果の共有の際にツールを用いなかったために時間がかかってしまい、「振り返り」の時間がなくなってしまいました。Jambord だけでなくスプレッドシートを用いるなど場面場面で有効なツールを精査して活用することで、「振り返り」までの時間を確保することができるよう、さらなる改善が必要です。

英語

生徒に「目指す深い学びの姿」を実現する授業づくりを！

英語で目指す深い学びの姿は，英語によるコミュニケーションにおいて，その目的や場面，状況等に応じて，既存の知識と新たに学んだ知識を結び付けて，その場で思考，判断，表現しようとする姿です。

生徒にその姿を実現する授業づくりのポイントを２つ紹介します。

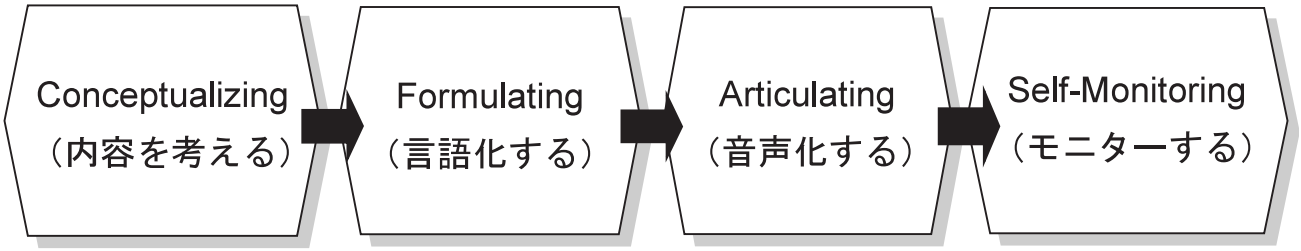
県中教研　英語部　全県部長
妙高市立妙高高原中学校
校長　重野　準司

ポイント１　今ある言語活動に「目的や場面，状況」を入れる

スピーキングについて，そのメカニズムは「内容を考える」⇒「言語化する」⇒「音声化する」⇒「モニターする」の４つの段階があります。生徒は，コミュニケーションを行う目的や場面，状況が与えられると，まず，何を話そうか考えます。そして，それを英語で伝えるにはどのような表現を用いたらいいのか言語化を行い，声に出して相手に伝えます。最後に，言いたかったことがうまく相手に伝わったかどうか確認します。この一連の流れを瞬時に行うのがスピーキングです。

目的や場面，状況のある言語活動では，必然的に最初の段階（内容を考える）が可能になり，生徒は必要な見方・考え方を働かせ，英語表現を選択するようになります。

【スピーキングのメカニズム】



※　Formulating = Grammatical and Phonological Encoding

＜引用・参考文献＞「Speaking : From Intention to Articulation」Levelt. W. J. M.（1989）Cambridge
「４達人に学ぶ！究極の英語授業づくり＆活動アイデア」瀧沢広人他（2020）明治図書

ポイント２　アウトプット重視の教科書指導（リテリング）を実施する

リテリングを成功させるためには，まずは本文の内容をよく理解し，音読によって本文の言語材料を内在化させることが必要です。次に，本文の要点だけを発話するのか，または，細部情報も発話するのかという発話情報を選定します。さらに，自身の英語力に応じて，リプロダクション（本文と同じ，または，ほぼ同じ言語形式での再生）を目指すのか，リテリング（本文の言語形式を自分の言葉で言い換える）を目指すのかを考えます。最後は，それを正確に発話できるかです。

リテリングは，教科書の本文学習のまとめの言語活動として，最近はiPad等のICTを用いて聞き手にイメージ画像等を示しながら行う活動としても注目を集めています。

【リテリングを取り入れた指導モデル】

形式重視		形式＋意味重視	意味重視
インテイク	アウトプット１	アウトプット２	アウトプット３
内在化	再　生	再生＋産出	産　出
音　読	リプロダクション	リテリング	自己表現

認知負荷が低い ―――――――――――――――――――――→ 認知負荷が高い

<引用・参考文献>「リテリングを活用した英語指導」佐々木啓成（2020）大修館書店

英語 重点方針

学習指導要領（外国語）の趣旨を正しく理解し，その目標を実現する取組を着実に推進する中で，適切な言語活動を通して，英語で目指す資質・能力を確実に育成する。

○　CAN-DOリストから単元の学習到達目標を設定・共有し，どの生徒も無理なく目標に迫ることができるように指導内容をバックワードで配列して行う指導を徹底する。

○　学習指導要領に示されている４技能５領域における言語活動例を視点に，折に触れて自校の指導の現状をチェックし，領域に偏りがないようバランスよく指導する。

○　即興的な表現力を育む言語活動を継続的に授業に位置づけ，進歩を実感させながら生徒の主体性や学習意欲を維持・増進させ，自立して学び続ける生徒を育成する。

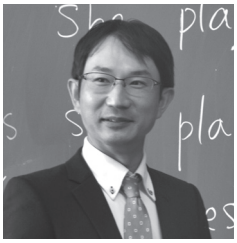
英語 学び合い10

①	学習集団	安心して自己開示できる支持的風土のある学習集団を作っている。
②	帯活動	即興的な言語活動等を帯活動に位置づけ，継続的に指導している。
③	指導と評価の一体化	単元単位で到達目標を設定し，逆向き設計で指導し，評価している。
④	教科書指導	アウトプット重視の教科書指導で，使える語彙や表現の幅を広げている。
⑤	言語活動	言語活動にコミュニケーションを行う目的，場面，状況を入れている。
⑥	学び合い	言語活動の合間等に生徒に時間を預け，生徒の協働を通じてうまく表現できなかったことが表現できるようになる手立てを講じている。
⑦	正確さと流暢さ	両者のバランスを踏まえ，一体的な育成を意識して指導している。
⑧	１人１台端末	即興的な言語活動等，毎時間のようにタブレット端末を活用している。
⑨	５領域のバランス	統合型言語活動の導入等，指導領域が偏らないように意識している。
⑩	目標と振り返り	学習到達目標に照らして，自身の状況を振り返る機会を設けている。

英語〈上越地区〉

自分の考えや思いを伝える生徒の育成

～４技能５領域のバランスが取れた言語活動の実践～



柏崎市刈羽郡中教研　英語教育研究部
研究推進責任者（左）　柏崎市立東中学校　千原　健志
会 場 校 担 当（右）　柏崎市立瑞穂中学校　藤巻　洋生

こんな深い学びの姿を目指します

新しい指導要領では，即興的な英語表現力が求められています。そのためには，目的や場面を明確にし，相手意識をもたせ，その場に適した表現を繰り返し練習する必要があります。柏崎市刈羽郡英語研究部では，各校のCAN-DOリストに基づいたルーブリックを生徒と共有し，パラレルな教材を活用する指導を目指しています。そして４技能５領域のバランスの取れた力を育み，自分の考えや思いを伝える生徒の姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ１：学習・指導・評価の一体化

CAN-DOリストを基に作成したリフレクションシートを活用して，見通しをもって学ぶ生徒を育てる。

ステップ２：５領域のバランスの取れた活動

帯活動やタブレットPC使用，リテリングなど教科書の言語活動も活用し，４技能５領域のバランスの取れた言語活動に計画的に取り組む。

ステップ３：教科書とパラレルな言語活動

教科書と内容的にあるいは構造的にパラレルな教材を用いて，４技能５領域のバランスの取れた言語活動を計画的に継続する。

➡ステップ設定の理由

英語は言うまでもなく言葉を使えるようにする教科です。そのためには，即興的な言語活動だけでなく，基礎的なスキルを向上する機会も保障する必要があります。

また指導（＝学習，評価）計画を生徒と共有し，生徒と教員が協働して目指す姿に近づくことが私たちの目的です。

➡ステップのメリット

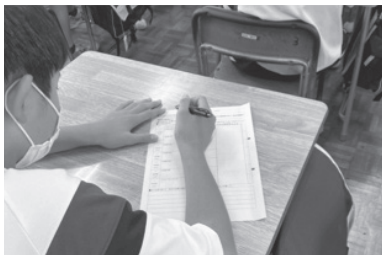
① 生徒同士，生徒と教員がベクトルをそろえて英語を学ぶことにつながります。

② 地域の教員が協働して指導計画や教材を作ることで，ともに伸びる地域の教育を実現できます。

ステップ ①

各校のCAN-DOリストとルーブリックを基に単元ごとにリフレクションシートを作成します。

生徒と見通しを持った学びを共有できます。



学習のまとまりごとにリフレクションシートに学びを振り返ります。

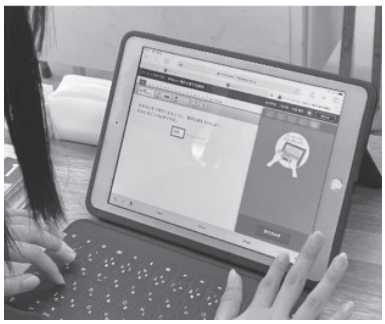
できるようになったこと，さらに学びたいことを明らかにし，学びに向かう姿勢を育みます。

ステップ ②

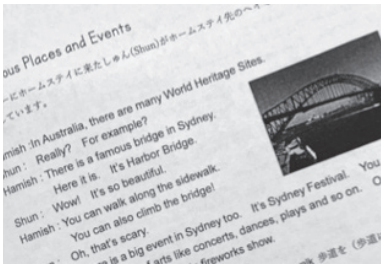
基礎的な表現を帯活動で定着させます。

即興的な表現につなげる大切なプロセスです。

基本的な文法はタブレットPCを使って定着させます。教師は個別の学びを見取り，それぞれの課題をアドバイスします。



ステップ ③



教科書の題材とパラレルな教材を作成します。

「対話する」「発表する」「読む」「書く」「聞く」をバランスよく実施できるよう郡市の英語部会で協力して作成します。

授業で活用し，インプットを増やし，即興的な表現力につなげる言語活動を計画的に継続します。

指定研究会情報

上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：自分の考えや思いを伝える生徒の育成
～４技能５領域のバランスが取れた言語活動の実践～

４技能５領域の伸長に向けて，よりよい活動の在り方を，帯学習やパラレルな教材の使用から提案します。これらの活動を継続していくことによって，自分の考えや思いを伝えることができる生徒の育成を目指します。

◇月　日：11月24日（水）　◇会場校：柏崎市立瑞穂中学校
◇公　開：１学級　１年　「PROGRAM ７」　授業者　藤巻　洋生
◇指導者：中越教育事務所　指導主事　川田　昌宏

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時まで■

コミュニケーションを行う目的や場面・状況の設定

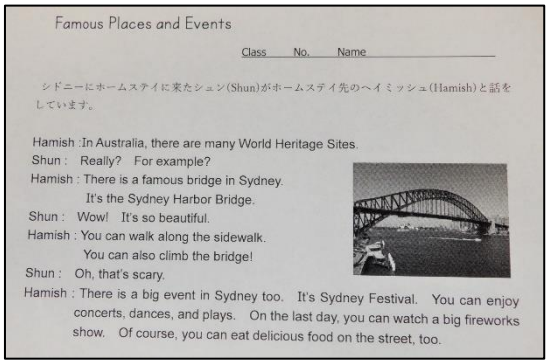
本単元では、柏崎の新しいＡＬＴからのメッセージ動画での依頼に基づいて「柏崎のイベントや食べ物を紹介できるようになろう」という目標を設定しました。このことにより、単元の目標を達成したいという意識や願いを、生徒は単元全体を通じて持ち続け、学習への動機付けを高めることができました。

■本時■

帯活動の継続

本単元では帯活動として、柏崎の紹介に関するテーマで「話すこと（やり取り）」を中心に行いました。例えば、柏崎の食べ物、行事、好きな店などです。これにより、帯活動を有効に活用しながら本単元のゴールに迫ることができました。

パラレル教材の活用



Famous Places and Events

Class　No.　Name

シドニーにホームステイに来たシュン(Shun)がホームステイ先のヘイミッシュ(Hamish)と話をしています。

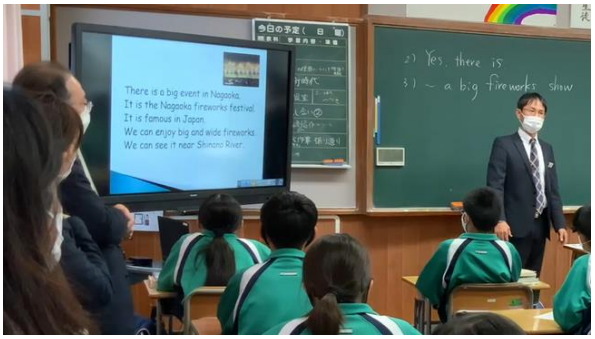
Hamish :In Australia, there are many World Heritage Sites.
Shun : Really? For example?
Hamish : There is a famous bridge in Sydney.
It's the Sydney Harbor Bridge.
Shun : Wow! It's so beautiful.
Hamish : You can walk along the sidewalk.
You can also climb the bridge!
Shun : Oh, that's scary.
Hamish : There is a big event in Sydney too. It's Sydney Festival. You can enjoy concerts, dances, and plays. On the last day, you can watch a big fireworks show. Of course, you can eat delicious food on the street, too.

本研究では、教科書で扱われている教材だけでなく、教科書教材と内容や構成、扱われている言語材料が類似した教材（パラレル教材）を用いた言語活動を仕組みました。

パラレル教材を読み解いていくことで、生徒のインプット量を増やすことができ、生徒が自己の考えや思いを表現するための足場掛けとなるように考えました。

生徒はパラレル教材の英文や表現を参考にしながら、この後の自己表現活動に生かす姿が見られました。

繰り返し様々な文での練習



生徒が目標を達成できるように様々な形で、英文に触れられるようにします。教師が口頭で見本となる英文を話してから、パワーポイントで英文を表示しました。聞く、読むなど様々な技能を組み合わせながら、生徒が目標達成に向けて必要な技能を身に付けていけるようにしました。

自分の思いや考えを伝える

ペアを替えながら、自分の考えを相手に伝えていきます。様々な相手と考えを伝え合うことで、自分の考えが明確になったり、違う発想を取り入れたりすることにつながりました。教師は、机間指導をしながら、個々の生徒のよい所を見取り、全体でも共有するようにします。

様々な活動を経て、最後に自分の考えを整理し、新しいＡＬＴに対して地元の紹介文を書きました。型にこだわり過ぎることなく、自分の思いや考えを書いて表現することができました。

成　果

適切な目的や場面・状況の設定のもと、生徒は主体的にタスクに取り組むことができた。また、「書いて伝える」という難易度の高い活動でしたが、パラレル教材の活用や、教師によるモデルの提示により、まとまりのある英語を書くことができました。

課　題

パラレル教材を素材として、４技能５領域のバランスの取れた言語活動として何ができるか、どんな言語活動につなげることができるかなどを検討していくこと、そして、更なる授業実践を積み重ねて、有効な活用方法を模索していくことが課題です。

英語〈中越地区〉

目指せ！ 即興的なやりとり 育てよう！ アクティブ イングリッシュ ラーナー

長岡市中教研　英語部
研究推進責任者（左）　長岡市立東北中学校　相田　一樹
会 場 校 担 当（右）　長岡市立関原中学校　渡邊　直樹

こんな深い学びの姿を目指します

「こう言いたいが，言えなかった」というジレンマを自己解決し，相手の立場・気持ちを受け止めながら，自分の考えを積極的，かつ即興で伝えることができる生徒を育成します。

既習の知識及び技能や新たなに学んだ知識をフル動員しながら，新たな場面で適切な言語材料を思考・判断しながら表現し，振り返って更なる改善につなぐサイクルを継続していこうとする姿を目指します。

深い学びへのステップ

これまでの学んだ表現を使って，新しい対話場面でも即興かつ自然に活用できる力を付けさせたいという願いがあります。そのために以下の手立てを提案します。

ステップ１

即興で伝え合う活動を帯活動に位置付け，繰り返し，粘り強く指導をします。

ステップ２

会話を継続・発展させるための双方向会話（Interactive talk）を活動中に取り入れます。

ステップ３

表現を機能毎に精緻化し，まとめた表現集を活用します。

➡ステップ設定の理由

やりとりを重視した活動が広まりつつある一方で，情報や考えを即興でやり取りすることが難しい生徒が多いという課題があります。

即興力を育成する活動を継続的に行う中で，左の手立てを行うことには次の２つのメリットがあります。

➡ステップのメリット

① 会話の復習→目標立て→新たな実践→振り返り　のサイクルの中で，生徒の表現力が段階的に高まっていくはずです。

② 生徒が学習した曖昧な知識を洗練したり，断片的な知識をまとめたりすることが，生涯にわたって活用可能な英語力に繋がっていくはずです。

ステップ ①

即興で伝え合う活動を帯活動に位置付け，以下の流れを組み込んで，繰り返し指導を行います。

①これまでに行った会話を復習する。
②復習を活かして，新しい会話場面での内容を考え，表現する。
③より深い内容の会話を目指して，状況・場面の転換を行う。
④会話を繰り返す中（後）で，内容の深化の度合いと即興性について振り返る。

表現内容の深化や即興性の高まりを促すために，活動の途中で状況・場面の転換を行います。その都度，生徒は瞬時に内容を変え，会話を継続します。

振り返りの中（後）で，自らの即興性の進歩について自己評価を行います。

ステップ ②

即興で伝え合う力を高めるためには，相手の発話の内容を踏まえて，それに関連した質問や意見を述べながら会話を継続することが大切です。そのために以下のような流れのInteractive Talk（双方向会話）を授業の中で取り入れます。

①いきなり質問をするのではなく，教師によるスモールトークから始める。
②生徒に話題の投げ掛けや発問を行う。
③生徒→教師，生徒１→生徒２，生徒２→生徒３のやりとりを行う。
④「会話を継続・発展させる方法」についての気付きや確認を促す。
⑤同じトピックでペアを替えたやりとりを何度となく行う。

教師が生徒とのやり取りを楽しみ，意味のある言葉のやり取りを十分に聞かせることが重要です。あいさつや，新出文法の導入，帯活動での中間評価などの場面で取り入れます。

ステップ ③

思考力・判断力・表現力の実態は知識の状態（ありよう）であると考えます。

生徒が既習の膨大な量の知識を，さまざまな状況や文脈と結び付け，必要に応じて自在に繰り出すことができるように，以下のように表現をその機能毎にelaboration（精緻化）した表現集を活用します。

Let's talk and use! ④ 会話で便利な表現集

No	category	English	Japanese	I want!(○)
1	何かの紹介の出だし	I will talk about～	～について話します。	
2	何かの紹介の出だし	Let me tell you about ～	～について紹介します。	
3	趣味を伝える	～ing is my hobby.	～することは私の趣味です。	
4	趣味を伝える	To ～ is my hobby.	～することは私の趣味です。	
5	趣味を伝える	My hobby is ～ing.	私の趣味は～することです。	
6	趣味を伝える	My hobby is to ～.	私の趣味は～することです。	
7	好きなことを伝える	I like ～ the best.	～が一番好きです。	
8	好きなことを伝える	I like to ～.	～することが好きです。(不定詞)	
9	好きなことを伝える	I like ～ ing.	～することが好きです。(動名詞)	
10	好きなことを伝える	My favorite～is	私の好きな～は...です。	
11	自分の考えを伝える	I think that ～.	私は～と思っています	
12	自分の考えを伝える	I'm sure that ～	きっと～だよ	
13	自分の考えを伝える	I mean ～	(本当に)～と思っているよ	
14	会話を広げる	How was it?	それどうだった？	
15	会話を広げる	Please tell me more about it?	それについてもっと教えて	
16	会話を広げる	What's your favorite ～?	あなたの好きな～は何？	
17	会話を広げる	How about you?	あなたはどう？	
18	会話を広げる	Why?	なぜ？	
19	会話を広げる	Why not?	なぜ？	
20	会話を広げる	What was it like?	どんなだった？	
21	質問をしてよいか尋ねる	Can I ask you?	聞いてもいいですか。	
22	質問をしてよいか尋ねる	I have a question.	質問があります。	

アクティブラーナーを育成するためには，自ら表現を「調べ」，「紹介し合い」，「共有・蓄積する」などの手段も有効です。

指定研究会情報

中越地区（三島郡・長岡市中教研）英語教育研究協議会

◇研究主題：即興力の育成
～既習事項を実際の使用につなげる統合的な活動の工夫～

今年度は授業公開を行わずに，上記の３つのステップを踏まえた実践例をユーチューブで公開します。協議会への参加希望者や資料の閲覧希望者は中教研のホームページを御覧ください。

◇月　日：11月26日（金）　◇会場校：長岡市立関原中学校
◇公　開：１学級　３年　「ALTへの即興インタビュー活動に向けた取組」
授業者　渡邊　直樹
◇指導者：長岡市教育委員会　指導主事　星野　和子

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■本時■　＜ＡＬＴへのインタビューに向けた帯活動＞

リストの質問を活用したやりとり

【What ～ （何）】

1	～は何ですか？	What is ~?	What is your name?
2	あなたは何を～しますか？	What do you ~?	What do you do on weekends?
3	あなたは何の○○を～しますか？	What ○○ do you ~?	What sports do you play?
4	あなたは何を～しましたか？	What did you ~?	What did you do during summer vacation?
5	あなたは何を～したいですか？	What do you want to ~?	What do you want to do this summer?
6	あなたは何を～するつもりですか？	What will you ~?	What will you eat tonight?
7		What are you going to ~?	What are you going to do this weekend?
8	あなたは～についてどう思いますか？	What do you think about ~?	What do you think about Japanese food?
9	あなたは何時に～しますか？	What time do you ~?	What time do you go to bed?

【When ～ （いつ）】

1	～はいつですか？	When is ~?	When is your birthday?
2	あなたはいつ～しますか？	When do you ~?	When do you go shopping?
3	あなたはいつ～しましたか？	When did you ~?	When did you see this movie?

使用した Question List は、インタビューで使えそうな質問を教師が**リスト**アップし、疑問詞ごとにまとめた**もの**です。

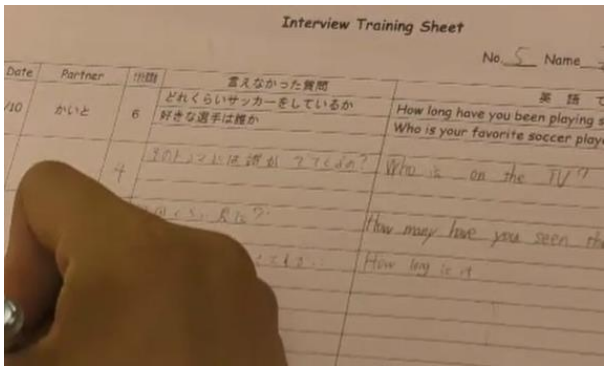
Warm up として、例えば「今日は When~? を使った質問の中から１つ選択してスタートしよう」のように指示し、ペアで１分間のやり**取り**を行います。

２分間の Short Interview

４つのトピックの中からランダムで選ばれたものについて、２分間、ペアでインタビューを行います。

本時は “What is the country you want to visit?” をテーマに、生徒はリストを活用しながら相手の受け答えに応じた追質問をその場で考え、インタビューを行っていました。

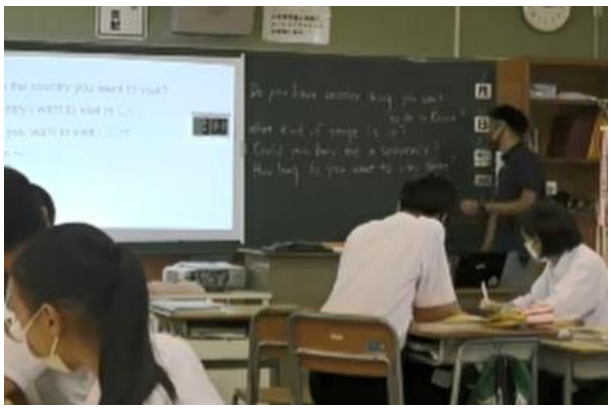
「したかったけどできなかった質問」を班で共有



Short Interview の中で、「したかったけどできなかった」という質問を、Interview Training Sheet に記入します。その後、個々が挙げたものについてグループで共有し、解決します。

熟達度の低い生徒が高い生徒から教わることはもちろん、高い生徒も話している中で「この表現を使ったらもっと的確に言いたいことが言えるかも」と発見したり、他の生徒の疑問から知識を再構築したりしている様子がありました。

班で解決できなかったものを全体で共有



グループの中で解決できなかったものについて、全体で共有し、解決します。

授業内で拾いきれなかったものについては、週末に Interview Training Sheet を回収・チェックし、教師がフィードバックを行うことで解決します。

生徒は他のグループから挙がった質問についても、自分のインタビューに生かせそうなものをメモするなどして、表現の幅を広げようと努めていました。

成　果

英語が得意な生徒も不得意な生徒も、ＡＬＴとのインタビューでは２分間質問を続けることができていました。質問に対するＡＬＴの答えを受けて、その場で次の質問を考えることができていました。

リストの活用や、「したかったけどできなかった質問」を班で共有したり、全体で共有したりして解決したことでできる質問の幅が広がったこと、帯活動で繰り返し練習することで自信となったことが要因と考えます。

課　題

「インタビュー活動を通して身に付けた力を生かしながら、事実や自分の考え、気持ちを伝える、実際のコミュニケーションにより近いやり取りをさせたい」と考え、趣味や好きなことをテーマに、全てアドリブで２分間ＡＬＴとやり取りする場を後日設定しました。

自然な流れから会話の内容を発展させていくことができなかったり、ＡＬＴの質問に答えることで精一杯になって質問を返すことができなかったりする生徒が多かったです。

今後は、事実や自分の考え、気持ちを伝えながら、相手の情報も引き出す、といった自然なやり取りができる力を身に付けることを目指し、即興力の育成に向けて研究を続けていきたいと考えています。

英語〈新潟地区〉

目的・場面・状況を明確にした単元のゴールを共有し，深い学びを目指す

～チーム新潟市の取組～

新潟市中教研　英語部
研究推進責任者（左）　新潟市立新津第二中学校　小田　久美子
会 場 校 担 当（右）　新潟市立潟東中学校　保倉　裕治

こんな深い学びの姿を目指します

単元を通したゴールの姿を，生徒と教師が共有し，そのゴールに向かって生徒同士が学び合う授業づくりを目指します。振り返りシートやICTの活用，単元のゴールの設定など，コミュニケーションの目的・場面・状況に応じて生徒が主体的に学び合う姿を目指します。生徒同士が意見を交換したり共有したりすることにより，新たな気付きが生まれます。新潟市中教研では，生徒がお互いに深く学び合う姿を目指します。

深い学びへのステップ

“単元を通したゴール”を目指して学び合う

ステップ1

明確な目的・場面・状況の設定

ステップ2

単元を通したゴールの共有

ステップ3

自己を振り返る「振り返りシート」，考え方や表現の仕方を共有し，より深い学びに向かうためのICTの活用

➡ステップ設定の理由

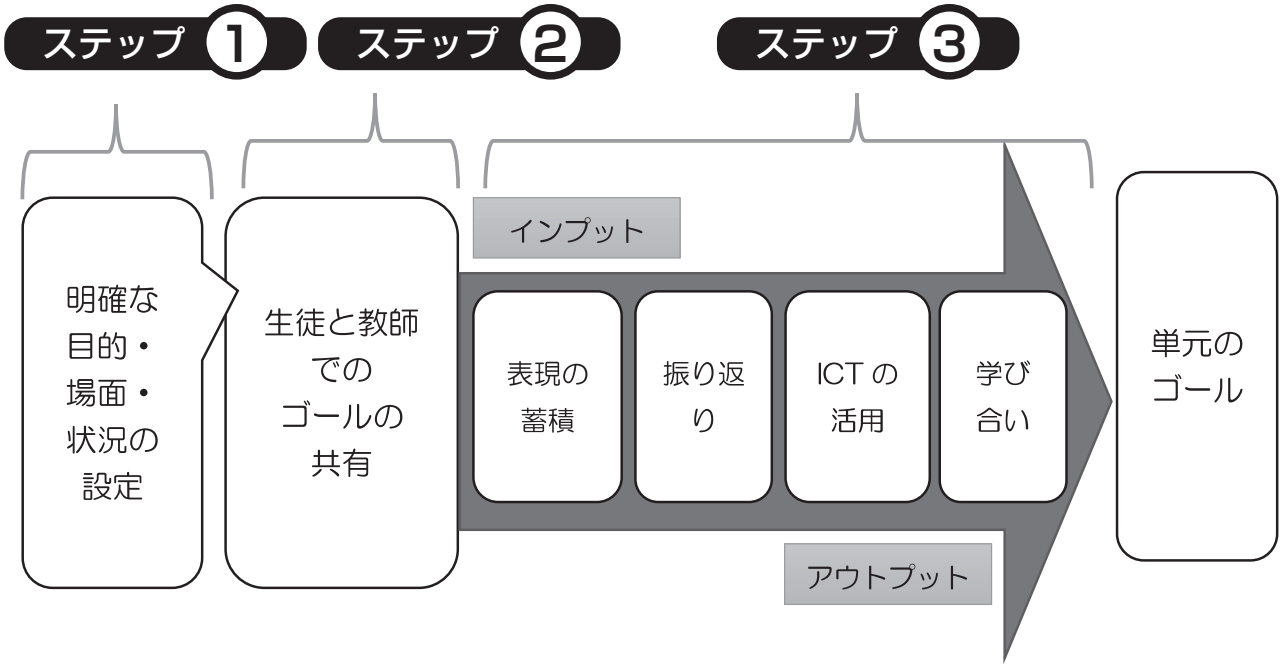
単元末に何ができるようになり，英語を使って何を表現するのか，というゴールを，生徒と教師が共有していくことにより，生徒の意識が大きく変わります。

そのためには，目的・場面・状況を明確にして指導にあたる必要があります。深い学びの実現のために，「単元を通したゴールを生徒と教師が共有する」ことには，次の２つのメリットがあります。

➡ステップのメリット

① 単元のゴールを設定し共有することにより，生徒の目的意識が明確になります。

② コミュニケーションの目的・場面・状況を明らかにすることにより，より現実的で目的意識をもって活動に取り組むことができます。



「何のために」「どんな場面で」「こんな状況になったら」と，目的・場面・状況を明確に設定することによってこそ，生徒の「主体的な学び」が生まれます。単元を貫く課題設定を明確にします。

単元のゴールを共有します。最終ゴールが明確であるため，生徒は最後まで目的意識をもって活動に取り組みます。

最終的な単元のゴールに向けて，表現を蓄積するインプットの段階から最終ゴールのアウトプットの段階まで，目的をもって活動します。振り返りシートや，ICTを効果的に活用することにより，学びを深めます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：主体的に学び合い，４技能５領域をバランスよく高めていく生徒
～評価材料共有による単元を通した指導を通して～

今年度は，WEBでの研究発表会となります。単元のゴールに向かって，ICTを効果的に活用しながら，生徒がスピーチを作成したり，発表の練習に取り組んだりする授業を提案します。今年度，新潟市中教研として取り組んできた共有資料を，実際の授業でどのように活用していくことができるのか，についての発表を予定しています。

◇月　日：11月４日（木）　◇会場校：WEBによる研究発表会
◇公　開：新潟市立潟東中学校　２年１学級公開　授業者　保倉　裕治
◇協力校：新潟市立山潟中学校　３年２学級公開　授業者　渡邉　慶子，若槻　理恵
◇指導者：新潟市教育委員会学校支援課　指導主事　中川　久幸
新潟市総合教育センター　指導主事　小林　英男

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■単元を通したゴールの設定■

ＡＬＴの先生に自分のことを伝え，日本のことをよりよく知ってもらうため，という単元を貫くゴールのもと，授業展開がスタートしています。

■本時■

明確な目的・場面の提示

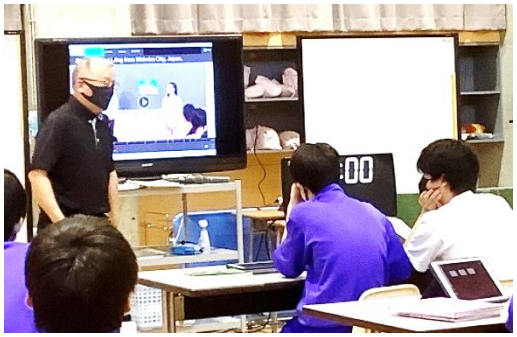
・ＡＬＴの先生からのビデオメッセージを視聴することから授業をスタートしました。「ＡＬＴの先生に自分の考えを分かりやすく伝える」という明確な目的を示すためにも，動画の活用は非常に有効です。

ゴールの共有

・単元のゴールを設定し共有することにより，生徒の目的意識が明確になります。

・「ＡＬＴの先生に，自分のお勧めの曲や自分の将来の夢などを紹介したい。」「どうしたらより良く伝えることができるか。」生徒の試行錯誤が始まります。

評価基準の共有



・教科書の動画を活用したり，教師によるモデルを提示したりしながら，生徒自身に良い点，注意する点，工夫する点について気付かせます。

・評価の観点を生徒から引き出し，評価基準を作り上げます。本時のゴールが明確になることで，目的意識をもって活動に取り組むことができます。

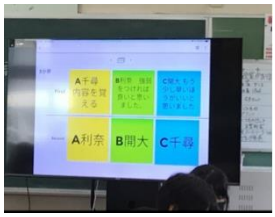
スモールステップでの活動

・生徒が目指す発表につながるように，スモールステップで活動を行います。

・ペアやグループでの発表練習です。相互に画像を示しながら，共有した評価基準に照らし合わせて練習を繰り返します。

・学習形態の工夫，タブレット端末の効果的活用を通して練習を行います。

Jamboard・コメントカードで相互評価



・ペアやグループでの練習の後，相互評価を行います。共有した評価基準に基づき，「さらに良い発表にするにはどうしたらよいか」「こんな表現方法もあるんだ。」という気付きが生まれます。新たな見方・考え方への気付きもこの場面です。

・コメントカードを書いて相互に交換したり，Jamboard を活用して意見交換をしたりします。相互評価のあと，再度練習を繰り返します。

目標シートの記入
【目標の再設定・振り返り】

・相互評価をもとに，自分自身のスピーチの振り返りを行います。自身の目標を再設定することにより，より良い発表を目指すことができます。

成　果

明確な目的・場面・状況の設定を行うことにより，生徒は目的意識をもって発表を中心としたスピーキング活動に取り組むことができた。お互いにアドバイスをし合い，良い点を共有することにより，生徒が自ら考える主体的な学びに結びつけることができた。

課　題

単元のゴールに向け，生徒のより深い学びに繋がる効果的な活動について，今後も研究を重ねる必要がある。また，スピーキング以外のリスニングやリーディングなど，他の技能も活用して授業実践を行う必要がある。

英語〈下越地区〉

積極的に英語を用いてコミュニケーションを図る生徒の育成

五泉市・東蒲原郡中教研　英語部
研究推進責任者（左）　阿賀町立三川中学校　中川　孝嘉
会 場 校 担 当（右）　五泉市立五泉中学校　井上　和徳

こんな深い学びの姿を目指します

新学習指導要領では，特に即興での英語による表現力の育成が求められています。コミュニケーションの目的や場面，状況に応じて見方・考え方を働かせながら表現することが，生徒に求められます。生徒が相手の様子に配慮しながら，既存の知識と新たに学んだ知識を結びつけて，適切な英語表現でやり取りを続けられる，そんな姿を目指します。

深い学びへのステップ

ステップ１

生徒が単元の見通しをもって活動するため，ルーブリック（評価基準を生徒と共有）を活用し，バックワードデザイン（逆向き設計）による授業を実践する。

ステップ２

生徒が既習事項の復習や即興的に英語で伝え合う力を身に付けるために，帯活動を継続して行う。

ステップ３

コミュニケーションを行う相手の立場や文化的背景を理解し，目的や場面，状況に応じた言語活動を行う。

➡ステップ設定の理由

生徒が見通しをもって単元のゴールに向かって活動し，振り返りを行うことで主体的な学びにつなげます。帯活動で生徒の相互作用によって即興的に表現する力を高め，対話的な学びにつなげます。その学びをアウトプットする言語活動を行い，深い学びを実現するために，ステップを設定しました。

この取組を行うことには，次の２つのメリットがあります。

➡ステップのメリット

① 「生徒には，間違いを恐れず，英語で気持ちや考えを表現させたい」という教師の願いを具現化できます。

② 成績や進路のためだけの学びでなく，実際に英語を用いて主体的に他と関わろうとする生徒を育成できます。

ステップ ①

単元のCAN－DOを教師と生徒が共有することで，生徒が単元の学習後に何ができるようになるかを想像します。

Lesson5　I Have a Dream 単元　Can Do List
この単元でできるようになること
GET POINTS　知識・技能
関係代名詞目的格と後置修飾（名詞を修飾する文
USE READ　読むこと
マーチン・・ルーサーキング・ジュニアの物語を
何をしたらよいかを考えることができる。
USE WRITE 書くこと
ALT や友だち、家族をイベントに招待する「招待

学習課題の評価基準を明確にすることで，何をどこまでできればよいかを理解することができます。

Rubric（ルーブリック）：Writing（書くこと）

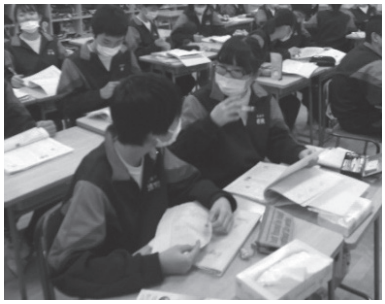
規準 ＼ 基準	A (3 points for each)
知識・技能	Self-correction Code が〇個以内である。
思考・判断・表現	〈あて名 行事名 詳細 メッセージ 月日 時間 場所 差出人〉という適切な内容を書いている。
主体的に学習に取り組む態度	Self-correction Code の部分を修正し、より正確に表現しようとしている。

単元を通してゴールに向けた振り返りを継続して行います。

ステップ ②

毎時間，帯活動として「相づち」や「つなぎことば」の練習をした後に，スモールトークを１分間行い，即興的に「やり取り」をします。

誰でも最初の会話ができるように，授業の最初にボランティアとモデルトークを行い，それをスモールトークの始まりの会話にします。スモールトークを継続して行うことで，何を話したり，答えたりしたらよいかの語彙や表現方法のストックを増やし，即興性を習得します。

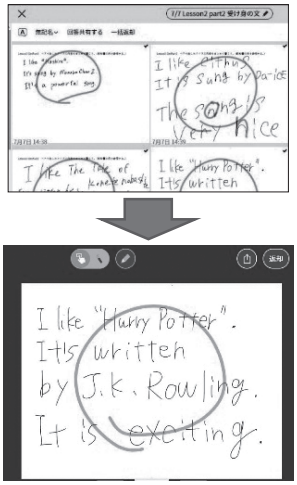


ステップ ③

生徒が積極的に取り組めるよう目的や場面・状況を設定し，生徒が相手に配慮しながらコミュニケーションを図れるようにします。

映像や音声，文章を生徒同士で共有できるアプリを活用し，生徒が積極的に表現活動を行えるようにします。

この際，授業支援アプリを用いて生徒の「考え」や「答え方」を教師が全体に提示し，新たな相手意識や模範的な答え方や頻度の高い間違った言い方のパターン等を共有・周知することで生徒の見方・考え方を深めることができます。



指定研究会情報

下越地区（五泉市・東蒲原郡中教研）英語教育研究発表会

◇研究主題：英語で自分の考えや気持ちを伝え合う生徒の育成
～生徒に見通しをもたせる学習プロセスの工夫～

CAN-DOリストとルーブリックを活用し，生徒に何ができるようになるか見通しをもたせます。
また，伝える相手の文化の理解を深め，配慮しながら主体的に考えを伝え合える生徒の育成を図ります。

◇月　日：11月26日（金）　◇会場校：五泉市立五泉中学校
◇公　開：１学級　３年　「招待状を書こう」　授業者　井上　和徳
◇指導者：下越教育事務所　指導主事　友野　直己

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

単元の CAN-DO と評価基準の共有

話すこと（やりとり）インタビューテスト	
条件１	質問に対して身近な事象だけでなく、客観的に一般的な事象も答えている。
条件２	自分の考えたことや感じたことなどを理由とともに述べている。
条件３	つなぎ言葉を使ったり、相づちを打ったり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続している。

CAD-DO リストを確認し、当該単元を通して何ができるようになればいいのかを生徒と共有しました。

また、単元のゴールとしてのインタビューテストに向け、その目的や場面、状況、及び評価基準を明確にし、目指す姿についても生徒と共有しました。

■本時■

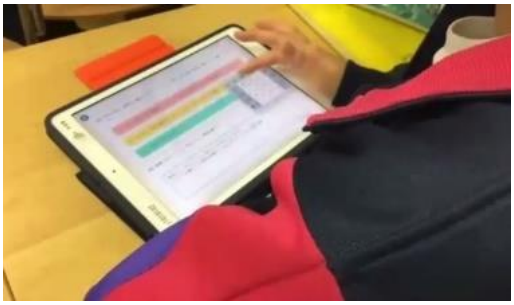
導入　帯活動

帯活動ではスモールトークをペアによるインタビュー形式で行いました。即興力を身に付けながら、インタビュー形式で身近な事象だけでなく、客観的に一般的な事象も答えられるように初めの２つの質問を設定し、そこからインタビュー（対話）を発展させる活動を行いました。

毎回、単語練習アプリで意味を連想させるイメージ画像を見ながら練習し、その発音と意味の定着を図っています。

また、本文をペアで音読しています。スムーズに、かつ、内容を意識しながら読めるようにしています。

導入　文法の定着

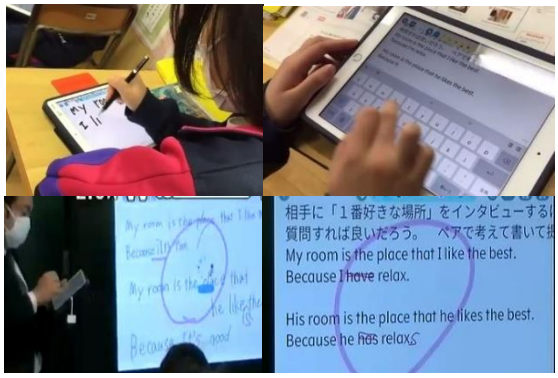


パワーポイントを使用して、ターゲットとする文の構造を再確認し、言語活動に使えそうな言語材料を明確にしました。並び替えや文字入力アプリを使用して生徒に興味をもたせ、文構造の定着を図りました。

展開　課題への注意喚起

Today’s Goal「一番好きな場所についてペアでインタビューし合い、その内容を英文で書くことができる。」を生徒に提示した。また、評価基準を示し、何ができるようになればいいのかを明確にしました。

展開　ペアでインタビュー



相手にインタビューする場合、どう質問すれば相手は一番好きな場所を答えるか、ペアで考えさせ、ロイロノートで提出させました。その後、生徒の考えた質問文を全体で表示・比較して、どの質問が意図を伝える上で最適かを考えさせました。

ペアで質問文を練習した後、自分の一番好きな場所をペアでインタビューし合いました。

インタビューの内容をロイロノート上のファイルに書いて提出させました。提出された英文を、全体に名前を非表示にして提示し、内容を褒めたり、よくある誤り等を指摘、修正したりした後、返却しました。

成　果

バックワードデザインで授業実践することによって、生徒はゴールへのイメージを明確にもって活動できました。また、よくある誤りを全体で確認するのに授業支援アプリを活用したり、語順や綴りをドリル学習できるソフトを活用したりして、ＩＣＴの有効活用の視点からも研究を深めることができました。

課　題

教科書だけでは、パフォーマンステストにつながる言語活動をくり返し実施することは困難です。パフォーマンステストを意識しながら、知識を定着させる活動や言語活動を、教科書外の帯活動や授業の終末の活動などで実施していきたいです。また、生徒の即興力を育む活動について、郡市内で協力して工夫・改善する必要性を感じています。

保健体育

明るく豊かなスポーツライフの実現を目指して

保健体育科では，今までの各地区，各校の取り組みを大切にし，学び合う授業をブラッシュアップしています。

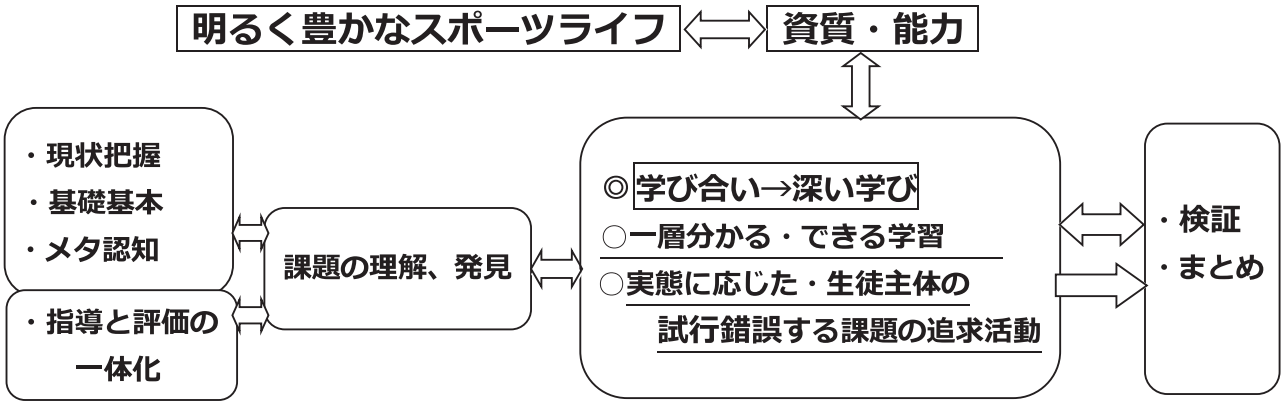
明るく豊かなスポーツライフの実現を目指し，学校，生徒の実態に応じ，単元等を通して，『体育・保健の見方･考え方を働かせ「する･見る･支える･知る」等の多様な運動の関わり方と関連づけ，試行錯誤しながら学び合い・高め合う（深い学びにいたる）』ことで「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の向上を図ります。

県中教研　保健体育部　全県部長
新潟市立石山中学校
校長　阿部　　修

ポイント１　深い学びにいたる　学習過程・単元構成の工夫

小野塚先生（山の下中：バドミントンの実践）は,『生徒は基本的な技能を身につけ, ゲームやラリーも成立している。しかし,「なぜ, 相手の守備を崩せたのか」「なぜ得点が奪えたのか」分からず，自己の技能をゲームに十分活かしていない生徒が多い』ことに気づきました。その「なぜ」を生徒が分析し，疑問や課題を解決することがより深い学びにつながると考え,「生徒に意図的に得点を奪うことを常に考えさせて自分に適した得点のシナリオをイメージしてプレーする」ことをねらいとしました。そのために「なぜ」に気づき，解決する単元構成や学習環境の工夫，タブレットの活用を進め，生徒が生き生きと学ぶ実践となりました。11月に公開予定の沼田先生（見附市立西中）, 淡路先生（荒川中）「両地区とも器械運動の実践」は，学び合いながら「分かる」と「できる」を往還させ，手立てや環境を工夫することで深い学びを目指しています。佐藤先生（柏崎市立第三中：器械運動集団演技）は，生徒が，学びの道筋を考えたり，場や学習内容を選択して学ぶ生徒主体の単元構成を工夫しています。音楽とリズムを活用し，個と集団の美を目指す授業を計画しています。下記に，単元構成等を編成したイメージを示します。

※学習過程等編成のイメージ



ポイント２　深い学びにいたる　手立ての工夫

各地区ともに生徒の学習意欲を喚起し，深い学びにいたる様々な手立てを実践，検討中です。

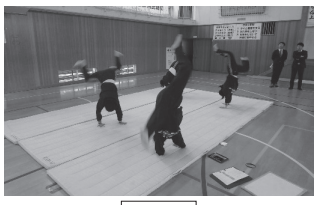
表１に各手立ての主なねらいや活用場面を左記のイメージ図にある４つの場面（Ａ：現状把握　Ｂ：課題の発見等　Ｃ：課題の追求，学び合い　Ｄ：検証まとめ）でどう活用しているか紹介します。

今年度実践した手立ての有効性や課題については，各地区や全県で共有していきたいと考えています。本年度はタブレットの有効性が実証されています。各地区，会員の皆さんも実践において，有効な手立てがあると思いますので，今後ぜひご紹介ください。

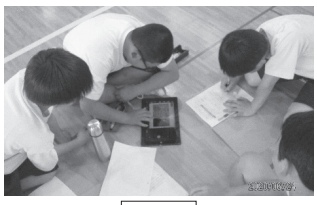
表１　「手立て」等の主なねらいや活用場面　（○は手立てが有効と考えた場面）

手立て	主なねらいや活用場面	A	B	C	D
○タブレット ・ロイロノート ・ファシリテーション	映像等を比較，検証，知識と技能の向上，各種評価に活用する	○	○	○	○
	他の人の考え方や学びの共有，評価に活用する。	△	○	○	△
	映像等を活用し，学び合い，技能の向上，思考や表現を深める。	△	○	○	△
○ファシリテーション	学び合いに活用する。	△	○	○	△
○単元，練習シート	自己の学びを計画し，学びの推進，検証，評価を行う。	○	△	○	○
○スポーツオノマトペ	運動のコツやポイントを共有，技能を向上する。	△	○	○	△
○学習環境，音楽・リズムの活用，グループ編成	練習環境，コート等の制限，選択，音楽の活用により課題の発見追求を促す。学び合いを成立させるペア，グループの編成	○	○	○	△
○学び方	主体的な学び，選択できる学習，場所，手立てを準備	△	○	○	○

【各地区の授業，プレ授業の様子】


上越

中越


下越

新潟

保健体育 重点方針

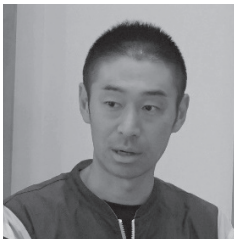
体育や保健の見方・考え方を働かせ，課題を発見し，合理的な解決に向けた学習過程を通して，心と体を一体として捉え，明るく豊かなスポーツライフを実現する資質能力を育てる。
○ 生徒の実態把握の充実　　○ 保健体育の見方・考え方を働かせることを意識した授業
○ 学習過程，単元構成の見直し，工夫及び指導と評価の一体化の工夫，充実
○ 楽しい授業，UDLの推進　　○ 個に応じた運動量の確保と体力の向上

保健体育 学び合い10

①	UD（ユニバーサルデザイン）の視点による授業づくり	生徒の実態，つまずきを把握して教材，指導法の工夫や授業構成をしている。
②	単元単位の目標・指導計画	生徒の理解や技能の習熟度を把握し，単元単位で目標や指導計画を立案している。
③	ねらいの明確化	本時のねらいを明確に示している。
④	必要感・達成感ある課題の設定	生徒が自己の達成度やつまづきを理解し，主体的に取り組める課題を設定している。
⑤	学習の見通しの提示	課題解決に向けた見通しをもたせる工夫をしている。
⑥	発問・説明，肯定的な関わり	思考や気付きを促す発問や説明がされたり，賞賛・助言・励まし等，肯定的に関わったりしている。
⑦	場の設定・グループ編成	課題の発見や課題解決を促す場づくりとペアやグループ編成がされている。
⑧	学習形態の工夫	ペアやグループなど関わり合いの場を設けている。
⑨	話し合いのルール・方法の明確化	話し合いの目的を明確にし，ルールや方法を具体的に提示している。
⑩	評価・振り返り	学習カード等を活用し，授業の振り返りをさせ，次時への課題をもたせている。

保健体育・器械運動〈上越地区〉

マット運動集団演技発表に向けて，学習用ipadをFTに活用！



上越市中教研　保健体育部
研究推進責任者（左）　柏崎市立第五中学校　柳　啓介
会 場 校 担 当（右）　柏崎市立第三中学校　佐藤　光介

こんな深い学びの姿を目指します

マット運動において，音楽のリズムに合わせた集団演技を構成していくことで，個人技能の向上につなげていきます。完成度の高い演技（音楽に合った集団としてきれいな演技）をつくるために，FTの中で学習用ipadを活用して自分達の課題に気づいたり，課題を踏まえた練習内容を選択して取り組んだりする姿が見られることを目指します。

深い学びへのステップ

“より高い完成度の演技”を目指し，３つの手立てを通して実現する

ステップ１

音楽やリズムを活用する。

ステップ２

演技の様子をipadで撮影し，それをもとにＷＢ（ホワイトボード）で話し合い，自分たちの課題に気づかせる。

ステップ３

習熟度に応じた練習場所を設定したり，グループに応じた練習・学習内容等を計画したり選択したりできるようにする。

➡ステップ設定の理由

WB（ホワイトボード）やipadを活用したり，既習学習を複合的に取り入れたりすることで，自己の適性や得意分野を生かしながら主体的に活動に取り組むことができます。また，動画を撮影し，それを見ながら話し合いを行うことでより完成度の高い演技について客観的に考えることができます。このステップには次の３つのメリットがあると考えます。

➡ステップのメリット

① 音楽のリズムに合わせたり，仲間と合わせたりすることで技のタイミングを習得し，個人技能を向上させることができる。
② 動画を撮影することで，グループとしてより完成度の高い演技にするために何が必要かを自分たちで考え，気づくことができ，話し合いがより充実する。
③ 習熟度別の練習場所を設定することで，より完成度の高い演技構成に向けてグループの意欲を引き出すことができる。

ステップ ①

【音楽やリズムの活用】

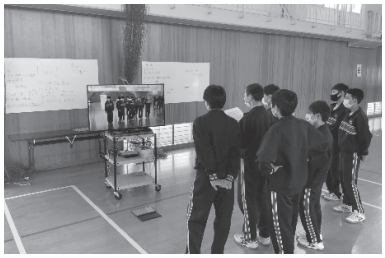
タブレットとスピーカーを使って音楽やリズムを活用することで，技のタイミングを掴むことができます。

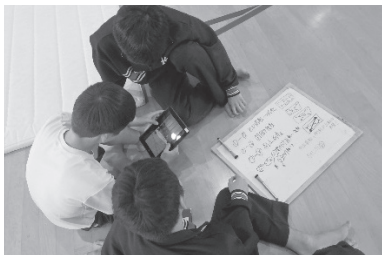
基本練習から手拍子やメトロノームなど，音を活用することで，技を合わせる意識が自然と生まれます。

ステップ ②

【ipadの活用】

iPadで撮影した動画を見て，共有することで良い点や課題が明確になります。

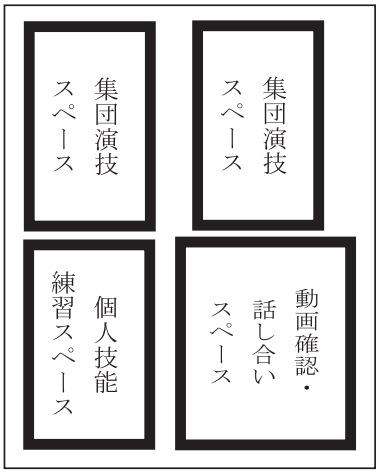




それを基にWBを使って話し合いをすることで，より完成度の高い演技構成につなげることができます。

ステップ ③

【習熟度別練習場所の設定】



【練習内容の計画や選択】

自グループの実態や習熟度に応じて練習場所や練習内容を相談し，柔軟に選択することができるようにします。

また，セーフティマットなどの道具も柔軟に使用できるようにします。

指定研究会情報

上越地区（柏崎市刈羽郡中教研）保健体育科教育研究発表会

◇**研究主題**：ファシリテーションを通して，主体的に活動する生徒の育成

“マット運動集団演技”の発表に向けて，より完成度の高い演技を構成しようとする授業を行います。音楽のリズムに合わせた集団演技を構成していくことが，最終的に個人技能の向上につながっていくような授業を提案します。

◇**月　日**：11月19日（金）　◇**会場校**：柏崎市立第三中学校

◇**公　開**：１学級　３年　「器械運動（マット運動）」　授業者　佐藤　光介

◇**指導者**：柏崎市教育委員会　指導主事　木村　貴之

柏崎市立荒浜小学校　校長　中村　正人

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■本時■

音楽やリズムの活用

タブレットとスピーカーを使って音楽やリズムを活用することで、技に入るタイミングを掴むことができ、グループ全員で同調させた動きや、あえてずらした動きなどを作り出すことができた。

基本練習から音楽を活用することで技を合わせる意識が自然と生まれ、スポーツにおいて大切なリズム感を身に付けることができ、運動能力の向上にも有効であった。

ipad やホワイトボードの活用

iPad で撮影した動画を見て共有することで、良い点や課題が明確になり、グループで話し合いをする上でのモチベーションにつながっていた。

ipad の動画をもとに、フォーメーションが書かれたホワイトボードをファシリテーションに使うことで、グループ内での活発な対話が生まれた。

目的別練習場所の設定

個人技能練習スペースや動画確認・修正スペース、集団演技スペースと、目的に応じた練習場所を設定し、ローテーションすることで、いろいろな切り口でのファシリテーションを生み、より完成度の高い演技へとつながった。

成　果

マット運動のシンクロマットという題材は、当初はかなりイメージしづらく、難しいのではないかという声も多く挙がったが、場の設定の工夫やリズムや音楽に合わせて動くという発想、また、構成のパターンの提示など、教師側から生徒に与えるべき要素を研究、吟味したことで最初にイメージしていた形に近づいたと感じる。研究推進委員からプレ授業を行ってもらい、協議したことにより、さらに研究のイメージを深めることができた。また、シンクロマットを創っていく過程で、ipad やホワイトボード等のツールの利用が必然的にファシリテーションを生み、演技の完成度が上がっていく喜びを全員で感じることができていた。そして何よりも音楽のリズムに合わせ、楽しく主体的にマット運動に取り組む姿が見られたことが一番の成果であった。

課　題

今年度は最初から音楽に合わせて集団演技を構成していくことが最終的に個人技能の向上につながるという提案をさせていただいた。協議会では、研究主題に向けて手立てが有効に作用していたことを評価していただく一方で、果たして個人技能が向上しているのか、という指摘もいただいた。今後個人技能のテストを実施していく上で、個々の技能習得がどこまで図られたのかを分析していく必要がある。

保健体育〈中越地区〉

動きのコツやポイントを共有し，練習場面を工夫しながら，完成度を高める

～器械運動（マット運動）～

見附市中教研　保健体育部
研究推進責任者（左）　見附市立見附中学校　相場　雅典
会 場 校 担 当（右）　見附市立西中学校　沼田　貴光

こんな深い学びの姿を目指します

動きのコツやポイントをFTを活用して共有するとともに，個々の課題を解決するために，練習場面や道具を工夫した「練習計画シート」を作成，実行し，完成度を高めていく姿が見られることを目指します。

深い学びへのステップ

動きのコツやポイントを共有し，練習場面を工夫しながら，完成度を高める。

ステップ1

動きのコツやポイントを共有するためにFTを活用する。

ステップ2

FTを活用し，個々の課題を発見し，課題を設定する。

ステップ3

課題解決に向けて，練習場面や道具等を工夫した練習計画シートを作成，実行し，完成度を高める。

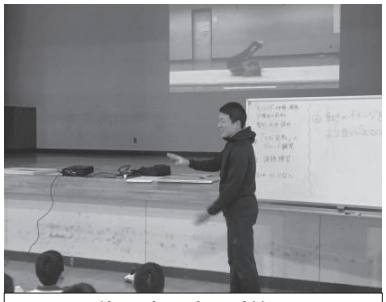
➡ステップ設定の理由

生徒がお互いに教え合うためには，運動技能の構造や体の動き等を理解していなければ，教え合うことはできません。そこで，スポーツオノマトペを利用し，FTを活用して動きのコツやポイントを共有し，教え合いに活かします。また，生徒が主体的に活動するため，課題解決のために，「練習計画シート」を作成，実行し，完成度を高めていきます。

➡ステップのメリット

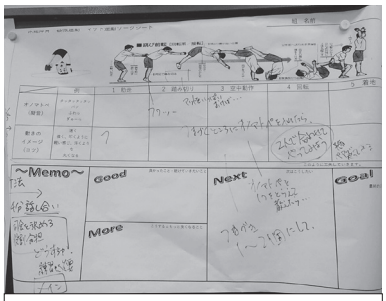
① 動きのコツやポイントを共有するため，教え方が統一できます。
② 生徒が練習計画シートを作成，実行することにより，主体的に活動することができます。

ステップ ①



動画視聴の様子

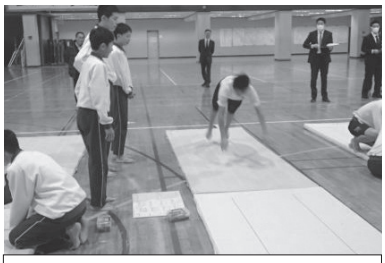
マット運動の動画を視聴し，その動きを「グッ」,「バーン」のように音を付けて，イメージを音で表現します。その音（スポーツオノマトペ）を動きのイメージとして文章で表現することによって，動きのコツやポイントをFTを活用して，互いに共有することができます。



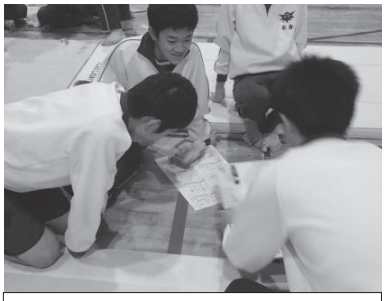
跳び前転の動き共有シート

ステップ ②

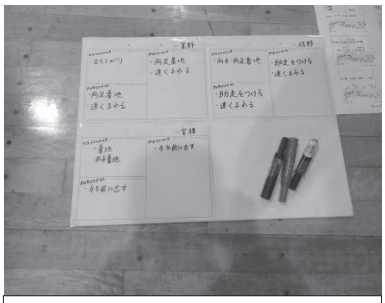
マット運動の技能を習得するために，互いに動きを見せ合い，FTを活用して，個々の課題を発見します。



動きの見せ合い場面



FTで課題発見



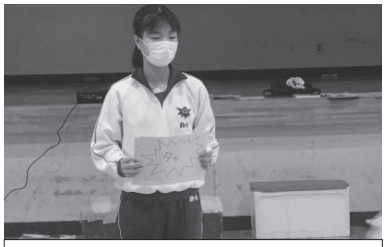
課題発見シート

ステップ ③

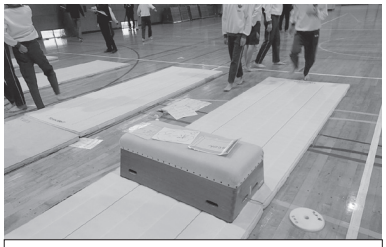
教え合いの様子

課題解決のために，練習場面や道具を工夫した「練習計画シート」を作成，実行します。

そして，共有した動きのコツやポイントを用いて，完成度を高めていきます。



カードを利用した教え合い



道具の工夫

指定研究会情報

中越地区（見附市中教研）保健体育教育研究発表会

◇研究主題：自己の課題を発見し，お互いに学び合い，高め合う生徒の育成

器械運動のマット運動において，共有した動きのコツやポイントを用いて，練習場面を工夫しながら完成度を高めていく授業を予定しています。

◇月　日：11月10日（水）　◇会場校：見附市立西中学校

◇公　開：１学級　２年　「器械運動（マット運動）」　授業者　沼田　貴光

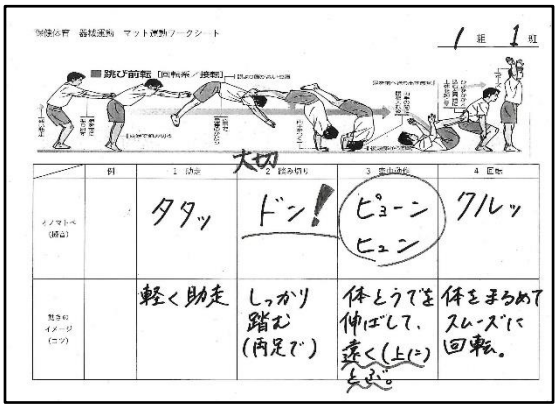
◇指導者：長岡市立神田小学校　校長　田邊　輝明

長岡市立刈谷田中学校　校長　北山　智博

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

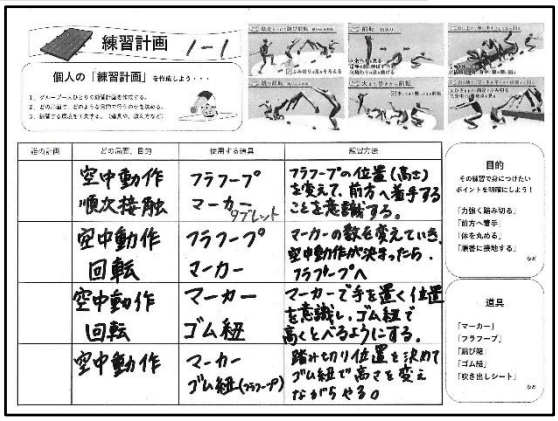
■前時■

動きのコツやポイントの共有



動きのポイントやコツの共有のために、「スポーツオノマトペ」を活用しました。生徒は動きのパワーを示す「グッ」「ドン」やスピードを示す「サッ」「タタッ」などの擬音に表し、動きをイメージしていました。ワークシートを用いてファシリテーションを行うことで、動きのポイントが共有され、技能や思考判断が向上しました。

練習計画シートの作成



跳び前転の課題局面、課題を解決するために使用する道具、練習方法を記入しました。生徒一人一人の課題に応じて、グループで話し合い、練習計画を考えていました。また、教師がどのように道具を使用するのかを実際に実演することで、生徒は練習方法をイメージすることができました。

■本時■

課題発見　ファシリテーション活用

「Ｇｏｏｄ、Ｍｏｒｅ、Ｎｅｘｔ」と表記したワークシートを用いて、良い面、課題面、これから取り組むべきことを生徒が積極的に意見を出し合いました。

会場校である見附市立西中学校の取組として、保健体育の授業だけなく、学校行事や委員会、部活動での目標設定や振り返りの場面でも同様のワークシートを活用しました。

課題解決　練習計画シートの活用

前時で作成した「練習計画シート」を基に、グループ内で共有した動きのコツやポイントを各自が活用して、跳び前転の完成度を高めました。

練習では、高く跳ぶためにフラフープやゴムひも、踏切位置を意識するためのマーカー等を使いました。演技した１０秒後に自分の演技を見ることができる遅延ソフト内蔵のタブレットや動きを表現した擬音を「擬音シート」に書き写し、演技する生徒に見せ、意識させる生徒もいました。

学びの共有、振り返り　動画の活用

完成度を高めた「跳び前転」をグループ内で発表して動画撮影をしました。その後、撮影した自分の跳び前転を視聴しながら、本時の成果を振り返るとともに、課題解決のために工夫した取組方法をまとめました。

成　果

動きに対する擬音は一人一人異なるものの、「スポーツオノマトペ」を活用することによって、動きのポイントやコツの共有することが容易にできました。

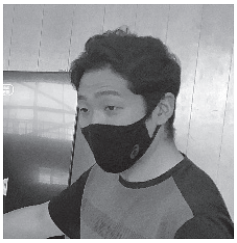
ファシリテーションを活用し、課題発見する場面では、会場校が保健体育の授業以外でも、全校体制で意欲的にファシリテーションに取り組んでいることで、より主体的に話し合いが行われ、課題発見につながりました。

課　題

３点の取組（動きのポイントやコツ、ファシリテーション、練習計画シート）は技能習得に有効であるが、この一連の学習スタイルは授業時間が増大する。そのため、今後、この単元構成の定着をどのように図ることが課題である。

保健体育〈新潟地区〉

単元構成の工夫とiPadによる学び合いで深い学びにつなげる



新潟市中教研　保健体育部
研究推進責任者（左）　新潟市立木戸中学校　阿部　健
会 場 校 担 当（右）　新潟市立山の下中学校　小野塚　徹

こんな深い学びの姿を目指します

戦術的な技能の発揮をペアでの検討によって図っていくなかで，よりよい作戦を追究していきます。今までの学習活動を振り返ることで課題解決につながる単元構成を工夫したり，意図的なルールの変更やコートの工夫で学習課題をより明確にしたりしながら，学習用iPadを活用し考え方の共有と映像分析を積み重ねることで，ゲームの質や戦術を高め，深い学びにつながっていくことを目指します。

深い学びへのステップ

“意図的に得点を奪う”ことを目指し，３つの手立てで実現する

ステップ１

ねらいの達成のための学習環境を工夫する。

ステップ２

ゲームの質を高める単元構成を工夫する。

ステップ３

学習用iPadを活用する。

➡ステップ設定の理由

ルールの簡易化やコートの工夫をすることで意図的な攻撃に必要な考え方・運動を理解し，表現しやすくします。また，単元構成を工夫することで試行錯誤を繰り返し，合理的な攻撃のシナリオ作成につけることができます。

iPadの活用は前時の振り返りや考え方の共有を図ることができると同時に，映像によってプレーを随時振り返りよりよい作戦を考えるきっかけにつながります。このステップには次の２つのメリットがあります。

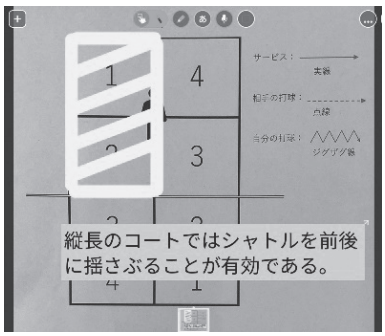
➡ステップのメリット

① 学習課題の解決に向けた意図的な思考の深まりにつながる。

② 対話の活性化と分析を行うための活きた教材となり，深い学びにつながる。

ステップ ①

【学習環境の工夫】



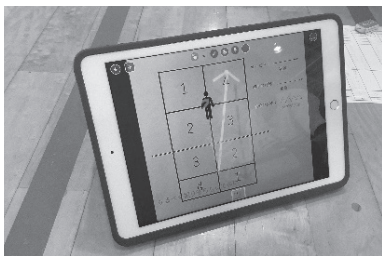
サービスのルールを簡易化し得点のシナリオを立てやすくします。

コートを縦長，横長などに変えることで，意図する得点の取り方を理解しやすくします。

ネットの高さを２ｍにすることで，スマッシュに頼らず空いたスペースを狙う攻防を表出しやすくします。

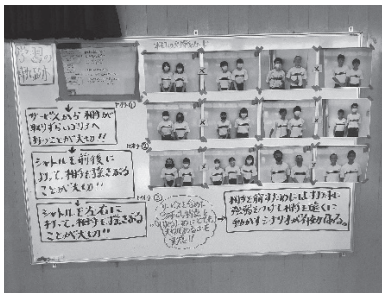
ステップ ②

【単元構成の工夫】



攻撃，守備の基本的なセオリーを提示し，生徒と共有した上で，自分の特長を生かした得点のシナリオを考えさせます。

学習活動の軌跡を表示し，生徒が習得した知識や技能を活用し学習課題を解決できるようにします。



ステップ ③

【iPadの活用】

iPad（ロイロノート）を活用し，課題解決に必要なポイントを生徒一人一人に考えさせ，たくさんの意見を引き出します【拡散】。そして，ペアで出た意見をまとめ【収束】そのポイントを意識してプレーをします。

ゲームの様子を動画で撮影し，分析に役立てます。

また，振り返りでは，全体で考えを共有し，次の学習へとつなげていきます。

指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）保健体育科教育研究発表会

◇**研究主題**：課題をもち，主体的に学び合う生徒の育成
～深い学びにいたる，わかる・できる授業を目指して～

球技「バドミントン」において生徒一人一人が主体的に課題解決に向けて思考する授業を行います。「相手の守備を崩し，意図的に得点をとる方法」を単元を貫く課題として手立てを講じながら，深い学びにいたる，わかる・できる授業を提案します。

◇**月　日**：６月29日（火）　◇**会場校**：新潟市立山の下中学校

◇**公　開**：１学級　２年　「球技（バドミントン）」　**授業者**　小野塚　徹

◇**指導者**：新潟市立総合教育センター　指導主事　音田　和行

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

課題：自分に合った攻撃のシナリオは何だろうか？

コートのエリアを縦長，横長に指定して学んだ攻撃の[注1]セオリーを基に，正規のエリアで相手を崩すためのシナリオを考えました。ペアでの約束練習を通して得点への[注2]シナリオを実践し，自分の特徴を生かした得点のシナリオを見つけることができました。

注１：コートのスペースに応じて効果的なフライトを生み出す方法
注２：セオリーを生かした戦術（今回は３球攻撃）

■本時■

課題：ゲームにおいて,自分の作ったシナリオを生かすためには何が必要だろうか？

効果的な場面①

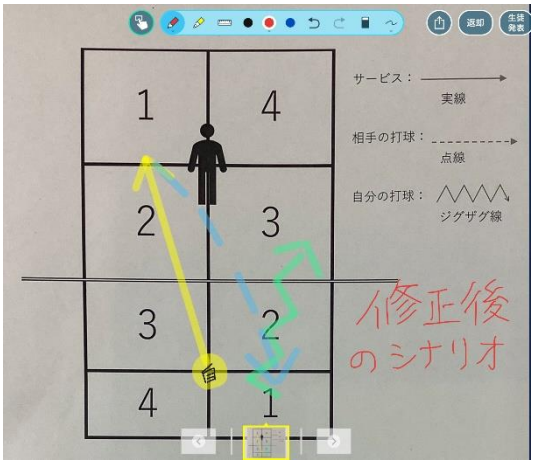
生徒から引き出す学習課題

これまで既習した「得点を奪うためのスペースの攻め方」を基に，シナリオを考える目的や効果的なシナリオを確認しました。その上で「初めて対戦する相手に対してもうまくいくと思いますか？」との発問をすることで，生徒一人一人から学習課題を引き出しました。持っている知識から新しい疑問を生ませ，それが学習課題につながることで主体的な課題解決に結びつけます。

効果的な場面②

動画撮影を生かした学び合い

プレーの様子を iPad で撮影することで，自他の動きやゲームの様子を視覚的に認知することができ，動きや戦術の個々の課題を捉えやすくなりました。それにより，アドバイスも具体的なものとなり，学び合いが活性化しました。



効果的な場面③

ロイロノートを活用した攻撃のシナリオの可視化

サービスからの３球までのシナリオをロイロノートのマーキング機能を使って可視化しました。それにより，シナリオの修正が容易になり，自分に合ったシナリオを導き出すための学び合いが深まりました。

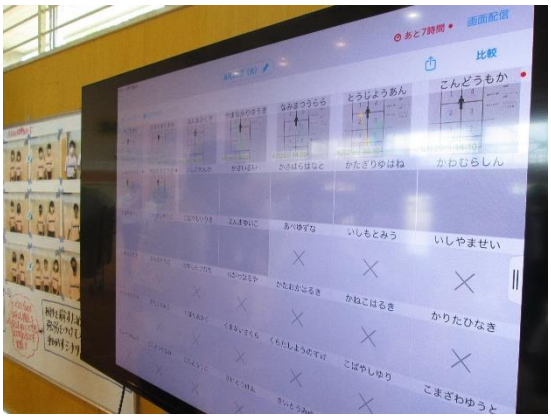
課題となる場面①

ロイロノートの機能を生かすこと

ロイロノート上でシナリオの修正前と修正後をつなげることで，学習の軌跡を確認しやすくなることが分かりました。

課題となる場面②

ICT の利用場面を検討すること



学習のまとめは，ロイロノートではなく，実際にプレーさせたり，ホワイトボードで示したりした方が理解が深まる場合もあることが分かりました。対話を通して考えたことは文字で残す必要があるなど，ICT の効果的な利用の場面を検討する必要があります。

成　果

・単元構成の工夫や iPad による学び合いによって，生徒の不確かな戦術が,確かな戦術へと変容しました。

・ねらいを達成させるための手立てが,生徒一人一人が主体的に課題を見つけ,対話を通して試行錯誤し,課題を解決することに役立ちました。この思考は,他のネット型ゲームでも汎化できます。

課　題

・ロイロノートの使用については,シャトルの動きをマグネットで示したり,実際にプレーする様子を見せたりする方が理解が早い場面もあります。授業の場面での使い分けが大切であることが分かりました。

保健体育〈下越地区〉

実践→交流・改善（ファシリテーション）→実践を重ねて主体的な学びへ

村上市岩船郡中教研　保健体育部
研究推進責任者（左）　関川村立関川中学校　神田　純平
会 場 校 担 当（右）　村上市立荒川中学校　淡路　信幸

こんな深い学びの姿を目指します

ファシリテーションで生徒同士の考えを深めさせ，実際の活動を通して，他者と協力しながら思考することによって，「できる」という技能的側面だけでなく，技能のコツやポイントが「わかる」という思考的側面も生徒が発見し，主体的に学びに向かう力を獲得できる姿を目指します。

深い学びへのステップ

ファシリテーションを用いて自分の課題を導き出し，解決するための有効な方法を探る。

ステップ1

生徒の実態を把握し，目指す生徒の姿に向けて，課題を設定する。

ステップ2

導き出した課題を解決するための手立てを検討する（ファシリテーション）。

ステップ3

グループやペアで実践→交流・改善（ファシリテーション）→実践を重ねて課題解決を図る。

➡ステップ設定の理由

生徒の多くは，自己の課題は把握しているものの，課題をどのように解決すれば良いかを追究しない面がある。

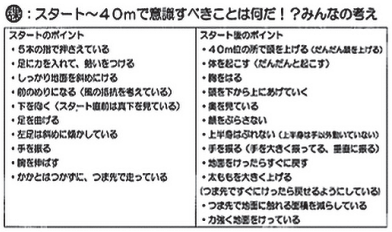
運動が得意な生徒も苦手な生徒も，しっかりとした知識をもち，ファシリテーションを通して，お互いの動きを観察し，動きを客観視することで課題解決の手立てを探り，課題を解決していくことによって運動の楽しさを味わわせることができると考え，設定した。

➡ステップのメリット

① 生徒も教師もゴールを共有しながら学習を進めることができる。
② 自己の課題を発見し，ペアやグループで関わり合いながら課題を解決することで運動の楽しさを味わうことができる。

ステップ ①

グループで見本の動画を見ながら，自己の課題や技のポイントを探す。



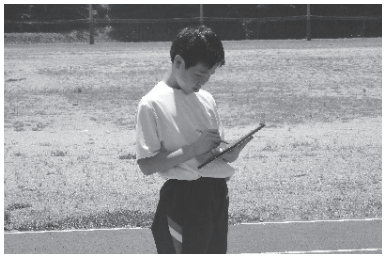
◉：スタート～40mで意識すべきことは何だ！？みんなの考え

スタートのポイント	スタート後のポイント
・5本の指で押さえている ・足に力を入れて、蹴りをつける ・しっかり地面を斜めにける ・前のめりになる（風の抵抗を考えている） ・下を向く（スタート直前は真下を見ている） ・足を曲げる ・左足は斜めに傾かしている ・手を振る ・胸を伸ばす ・かかとはつかずに、つま先で走っている	・40m位の所で頭を上げる（だんだん顔を上げる） ・体を起こす（だんだんと起こす） ・胸をはる ・頭を下から上にあげていく ・奥を見ている ・顔をぶらさない ・上半身はぶれない（上半身は手以外動いていない） ・手を振る（手を大きく振ってる、垂直に振る） ・地面をけったらすぐに戻す ・太ももを大きく上げる （つま先ですぐにけったら戻せるようにしている） ・つま先で地面に触れる面積を減らしている ・力強く地面をけっている

単元を通してのゴール（目指すところ）を生徒と共有し，一人一人がゴールに向かって課題を設定する。

ステップ ②

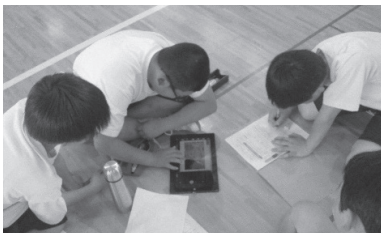
自分で考えた走りのポイントを実際に練習してみる。



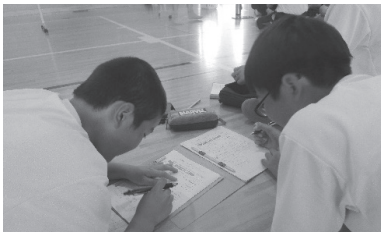
タブレットを使用し，自分の走りを動画として記録してもらい，グループで動きを確認する。

ステップ ③

振り返りの場面では，撮影した走りを見ながら，グループでアドバイスを行う。



自分では考えつかなかった動きも教えてもらえるなど，新しい気づきが生徒間で生まれる。



実践→交流・改善（ファシリテーション）→実践を重ねて課題解決を図る。

指定研究会情報

下越地区（村上市岩船郡中教研）保健体育教育研究発表会

◇**研究主題**：学び合いを通して課題を導き出し，解決しようとする生徒の育成

ファシリテーションによって集団の考えを共有し，課題解決に向けて主体的に学ぶ姿を目指します。また，学習プリントを活用し，自分の振り返りを確認しながら授業を進めることにより，一人一人の思考力・判断力・表現力を高め，より深い学びになるような授業を公開します。

◇**月　日**：11月２日（火）　◇**会場校**：村上市立荒川中学校

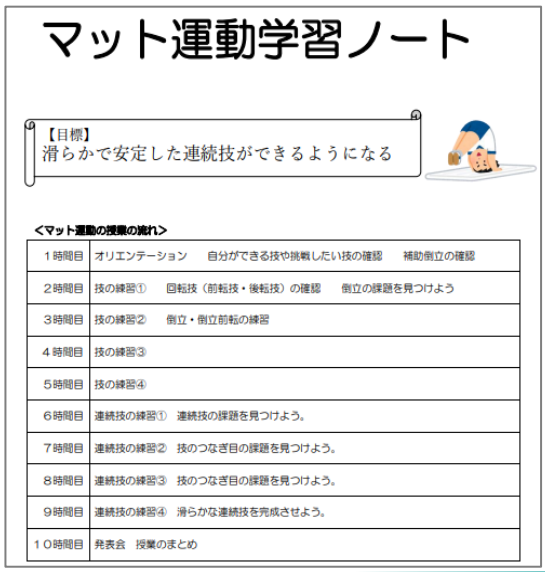
◇**公　開**：１学級　３年１組「器械運動（マット運動）」 授業者　淡路　信幸

◇**指導者**：新潟医療福祉大学　教授　脇野　哲郎

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■単元を見通した授業構成■

生徒に授業の見通しをもたせる手立て



マット運動学習ノート

【目標】
滑らかで安定した連続技ができるようになる

<マット運動の授業の流れ>

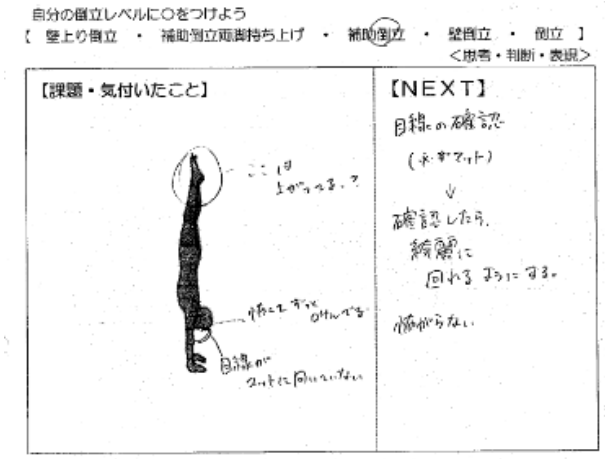
1時間目	オリエンテーション　自分ができる技や挑戦したい技の確認　補助倒立の確認
2時間目	技の練習①　回転技（前転技・後転技）の確認　倒立の課題を見つけよう
3時間目	技の練習②　倒立・倒立前転の練習
4時間目	技の練習③
5時間目	技の練習④
6時間目	連続技の練習①　連続技の課題を見つけよう。
7時間目	連続技の練習②　技のつなぎ目の課題を見つけよう。
8時間目	連続技の練習③　技のつなぎ目の課題を見つけよう。
9時間目	連続技の練習④　滑らかな連続技を完成させよう。
10時間目	発表会　授業のまとめ

単元を通して使用する学習ノートを作成し、生徒に授業の見通しをもたせる。

この学習ノートがあることにより、単元の目標（ゴール）や１時間毎の流れやねらいが分かり、一人一人がスムーズに活動に移ることができた。また、１時間ずつの振り返りから、生徒の思考や思考の変化も分かるため、生徒が見い出した課題も確認しやすい。

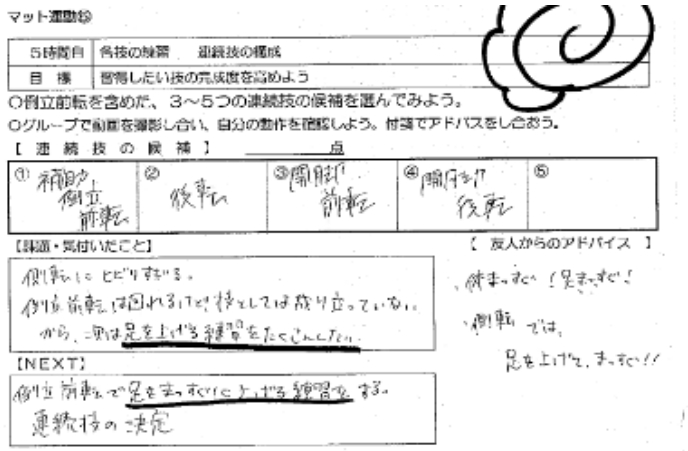
■前時までの授業■

滑らかで安定した連続技の完成を目指して



自分の倒立レベルに○をつけよう
【 壁上り倒立 ・ 補助倒立難度持ち上げ ・ 補助倒立 ・ 壁倒立 ・ 倒立 】
<思考・判断・表現>

【課題・気付いたこと】
【NEXT】
目線の確認
（ネットマット）
↓
確認したら、
続けて
回れるようにする。
分からない



マット運動⑤

5時間目	各技の練習　連続技の構成
目　標	習得したい技の完成度を高めよう

○倒立前転を含めた、3～5つの連続技の候補を選んでみよう。
○グループで動画を撮影し合い、自分の動作を確認しよう。付箋でアドバイスをし合おう。

【 連 続 技 の 候 補 】　　点

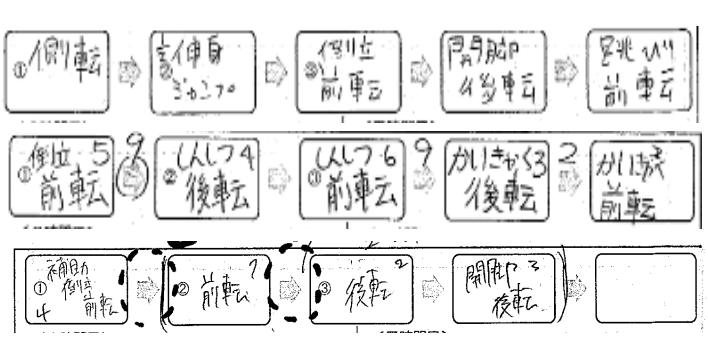
①	②	③	④	⑤
補助倒立前転	後転	開脚前転	開脚後転	

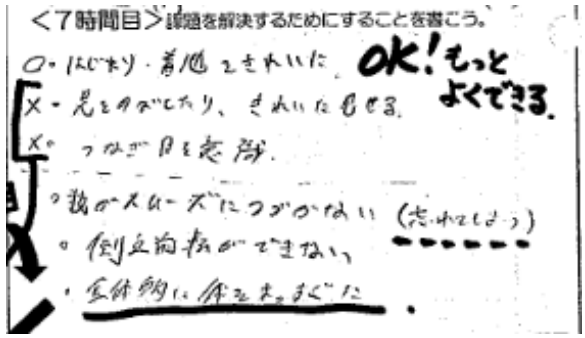
【課題・気付いたこと】
倒立に ビビりすぎる。
倒立前転は回れるけど技としては成り立っていないから、足を上げる練習をたくさんしたい。

【NEXT】
倒立前転で足を まっすぐに上げる練習をする。
連続技の決定

【 友人からのアドバイス 】
続まっすぐ！足まっすぐ！
倒転では、
足を上げて、まっすぐ!!

１時間目～３時間目までに１、２年生時の既習技の確認をし、４時間目と５時間目で連続技の候補（３つ～５つ）を選択する時間を設けた。





この単元を通しての目標を「滑らかで安定した技の完成」とした。目標に向かう中で生徒たちは、「技と技のつなぎ目」を意識して連続技の完成を目指し、活動を行った。

■本時■

技と技のつなぎ目を考えよう

授業のスタートは、学習ノートに記述した前時の振り返りから、自分の課題を確認した。その後、本時で行う内容を全体で確認し、課題解決に向けた練習方法を考え、見通しをもって活動に入った。

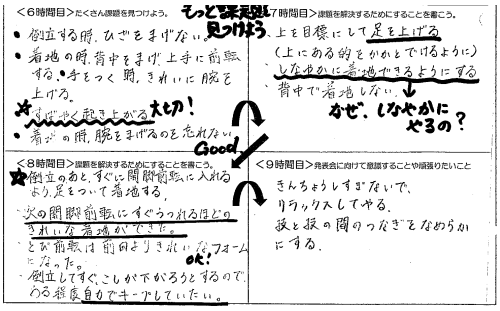
一人一人が考えた練習を展開

「練習→撮影→動きのチェック→改善点を探る→練習」のサイクルで活動を行った。

自分では気づかない視点からのアドバイスや発見があり、新しい気づきが生まれる場面が見られた。

活動中は、必要に応じて試技への補助等も行いながら動きを高めようとする姿が見られた。

次へ繋がる振り返りを



授業の最後に、本時の活動を振り返る時間を設けている。自分の「できたこと」、「できなかったこと」や「どのような動きを意識すれば良いか」などから自分の課題を考え、次時の新たな発見へ繋げていく。

成　果

○下記の手立てを実践することにより、生徒の資質・能力を育むことができた。

- 単元を通した目標（ゴール）を生徒と教師が共有し、授業を進めることができた。
- 技のつなぎ目を考えながら練習を行う中で、「技の選択を見直す」、「技の出来映えを高める」、「改善策を考える」等、「滑らかで安定した連続技の完成」に向かって技能の向上が図れた。
- 教師が学習ノートをチェックし、コメントを返す（フィードバックする）ことで、生徒の意欲が高まり、技の動きについて具体的な記述が多く見られるようになった。

課　題

●今後も下記の課題を意識しながら、生徒の資質・能力を育む授業を展開する。

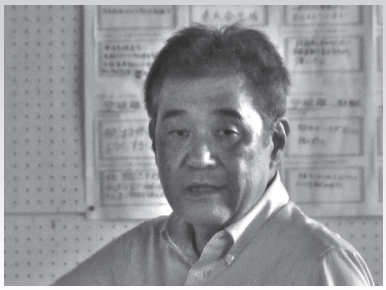
- 活動が停滞せず、モチベーションを持続させるための手立てを考える必要がある。
- 生徒の意識を焦点化させる意味で「技のつなぎ目」を意識化・得点化する必要があった。

進路指導

自分の過去を振り返り，他者の意見や考えを参考にしながら自分の未来を考える

進路指導では，キャリア発達を促す「キャリア教育」の視点が重要です。

キャリア教育では自らの生き方を考えることと同時に他者からの評価を参考に主体的に進路選択できる生徒の育成を目指します。そのためにコミュニケーションスキルの向上，キャリアパスポートの活用などが有効です。

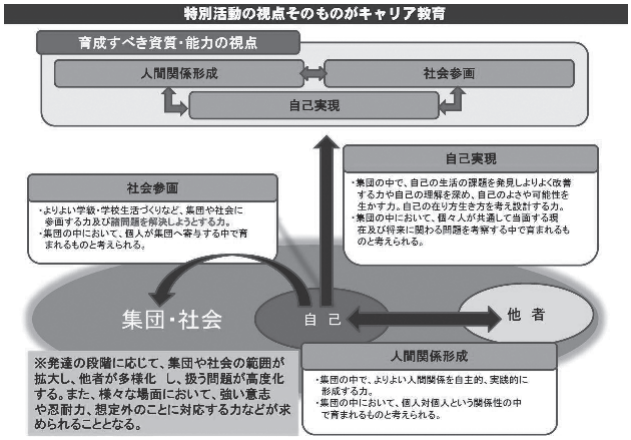


県中教研　進路指導部　全県部長
新潟市立木戸中学校
校長　佐藤　文俊

ポイント１　自分の学びの足跡を記録し，振り返ることで自己の成長を認識する。

キャリア発達を確実なものするために育成すべき資質・能力の視点として「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」があります。これらの資質・能力が確実に育つためには，自分自身の課題を発見し学習活動によって自分自身がどのように育ってきたかを自己理解することが必要です。そのために，キャリアパスポートの活用がポイントとなります。

上越大島中では，キャリアパスポートから自己の学びの足跡や自己の成長を確かめる機会を設け，今後つけたい力を明確にしました。長岡大島中では，SDGsの視点を学び，持続可能な社会を作る担い手となるために，キャリアノートを活用しました。新潟東石山中では，キャリアノートをもとに，自分が頑張った振り返りを２・３年生が生徒同士のインタビューで語り合いました。新発田七葉中では，体験的な活動を取り入れ，３年間を見通した課題解決学習を設定し，それらの学習の成果を蓄積した学習ポートフォリオから自己の成長を振り返ります。



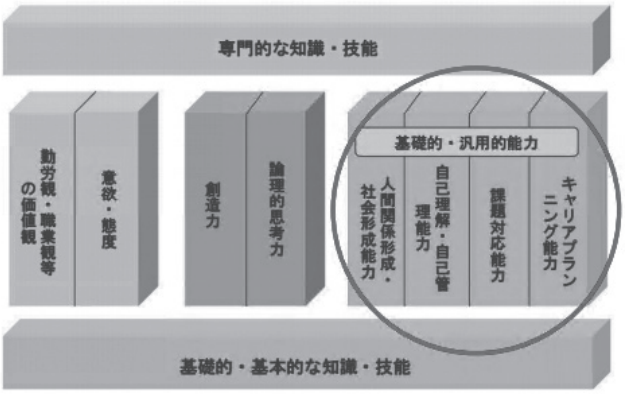
文部科学省HPより

ポイント2　自分の経験や目標を共有しながら他と交流することで，他者からの評価を得て自己肯定感を高める。

キャリア教育で育成すべき基礎的・汎用的能力にはキャリアプランニング能力，課題対応能力の他に自己理解・自己管理能力，人間関係形成・社会形成能力があります。社会的に自立するためには自分自身が経験したことを他者と共有し，確認することが必要です。他者からの良好な評価は自己肯定感を高める機会でもあります。

他者との交流場面として，上越大島中では学校行事等の企画運営に生徒が関わることを大切にしています。長岡大島中ではSDGsの視点から活動を行い，活動を通して得られた個の力を仲間との交流を通して更に高めていいます。新潟東石山中では，キャリアノートを活用した自分自身の成長の振り返りの場面で異学年交流することで自尊感情を高める取組を実施しています。新発田七葉中では，地域の方との交流を通して地域の良さや課題を理解し，自分の役割を自覚しながら課題解決型職場体験に臨んでいます。

「社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力」の要素



中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)」(平成23年1月31日)P109より

進路指導 重点方針

自らの生き方を考え，夢や希望をもって主体的に進路を選択できる生徒を育成する。
- ○　自己理解を深める指導を充実させる。
- ○　生徒一人一人の将来に対する目的意識を高め，自己実現を図ろうとする態度を育てる。
- ○　勤労観・職業観を育むキャリア教育の充実を図る。

進路指導 学び合い10

①	指導計画の作成	発達段階に応じた資質や能力，態度が身に付くよう計画している。
②	生徒理解と身に付けさせる能力	キャリア教育の視点から，生徒の実態と課題を把握し，どの活動場面で「基礎的・汎用的能力」を身に付けさせるか，指導計画に示している。
③	個の学びの設定	学習活動において，将来の生き方や進路について自分の考えや意見をもつことができるよう，個の学びを確かに設定している。
④	学び合いや発表のルールと方法	学び合いや発表の目的を明確にし，ルールや方法を具体的に提示している。
⑤	体験的な活動とグループ活動	職場体験やグループ学習を通して，将来について自分の考えや意見をもったり，深めたりする活動を設定している。
⑥	教科・領域との横断的な学習	キャリア教育との関連をはかり，各教科，領域での学習内容と将来の自分の生き方に関わるよう，横断的な学習をしている。
⑦	学習環境の整備	図書館の資料やパソコン等のメディアを活用したり，校外で体験活動を展開したりするなど，学習環境を整備している。
⑧	振り返りの場の設定	自らの考えや意見の変容を述べたり，新たに見出した課題が今後の生き方とどのように関わるのかを述べたりする振り返りの場を設定している。
⑨	地域・家庭・高等学校等との連携	生徒が，日常生活や社会との関わりの中で進路学習が展開できるよう，地域・家庭と進路先となる高等学校等と連携を図っている。
⑩	自己決定・自己実現	自分の将来について考え，自分の意思で進路を選択し，自己実現できるよう支援している。

進路指導〈上越地区〉

キャリア・パスポートの中の「自分」と向き合い，未来の「自分」を描くことができる生徒を目指す

上越地区中教研　進路指導部
研究推進責任者（左）　上越市立柿崎中学校　大重　志津香
会 場 校 担 当（右）　上越市立大島中学校　樺澤　恒平

こんな深い学びの姿を目指します

キャリア・パスポートから，自分の学びの足跡や自己の成長を確かめる機会をつくります。振り返りを共有することで，より多面的に自分を捉えることができ，自分自身を見つめ直し，より深く理解し，今後のキャリア形成に生かすことができるようになります。

深い学びへのステップ

キャリア・パスポートの分析から自分自身の理解を深め，次の目標を設定する。

ステップ1

生徒が行事に参画する。全体目標，個人目標や達成目標を設定する。

ステップ2

行事の振り返りを行い，キャリア・パスポートに綴る。

ステップ3

蓄積してきたキャリア・パスポートを用いて振り返り，今後付けたい力を明確にする。

➡ステップ設定の理由

本校は，生徒が主体となって活動し，生徒自らが学校生活の質を高めるという伝統がある。生徒心得の内容の見直しや体育祭などの学校行事の企画・運営は生徒が担っている。活動後の振り返りで生徒が自分の成長を明確に認識できない状況があった。自分の役割達成のために何をどうするかの目標設定が弱かった。そこで，３つのステップをスパイラルに実施することでキャリア形成を図ろうと考えた。

➡ステップのメリット

① キャリア・パスポートを用いることで学びのプロセスを視覚的に捉えることができる。
② ステップを繰り返すことによって生徒の資質・能力をスパイラルアップしていくことができる。

ステップ ①

当校では，学校行事等の企画・立案・運営に生徒が関わることを大切にしています。これまでは地域の行事に生徒が参画していく活動をメインに行っていました。昨年度は，地域行事の中止や教育活動への制約がある中，「校内活性化プロジェクト」を生徒会で立ち上げ，感染症対策を講じながら学校生活が楽しくなるような行事やイベントを企画，実施しました。

「全員主役」
～一人ひとりが活躍して全員が最高の笑顔になる体育祭～

私の体育祭の目標

スローガンを達成し自分自身のゴールに近めるために・・・

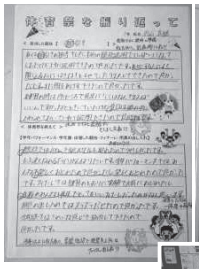
私は体育祭で，周りを見て状況に応じてすばやく行動する力をつけたいと思い来ました。

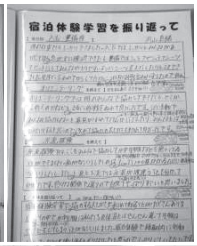
私は普段，人の話をやちんと聞くことができますくんに聞いて来ることが多いので，まず人の話に耳を傾けて内容を理解出来るようになりたいです。そしてやるべきことが何もしなければならないのかを判断しり前に移すことが出来るようになりたいです。行動する時間でもそれは外でも結局が，根拠の中でなんでかなどが出来るようになりたいです。自分一人で行動するのではなく人と協力して体育祭を盛り上げていきたいです。体育祭だけではなく，普段の学校生活でできるように努力していきたいです。パネルリーダーの一人として一緒に作る体験を楽しんでアイディアを出しながら特別でかっこいいパネルを作りたいです。

活動前にSTEP 3の資料をもとに目標設定をします。

ステップ ②

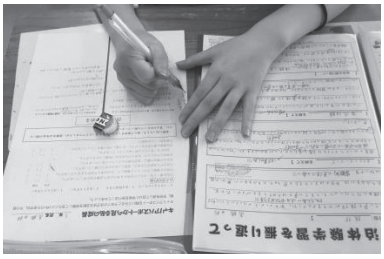
活動後には，全体の目標や個人でたてた目標に沿って振り返りを行いキャリア・パスポートに綴りました。学級での対話的な関わりによって，自分では気付かなった一面に気付くことができます。生徒会の行事だけでなく，講習会や体験活動の学習シートもキャリア・パスポートに綴り，学びの足跡が分かるようにしました。



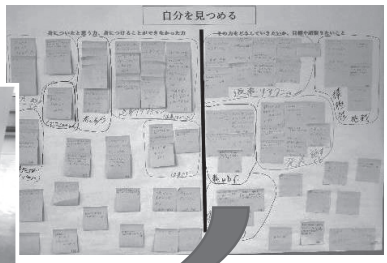


ステップ ③

蓄積してきたキャリア・パスポートを振り返る活動を行いました。「身に付いた力，身に付けることができなかった力」「これからその力をどうしていきたいか」を個人で書き出しました。



付箋に書き写し，模造紙に貼ってグルーピングをしました。発表の際に，どんな経験から何を考えたのかを述べ，友達同士で対話をすることにより自分では気づかなかった一面など，多面的に自分自身を捉えることができます。



指定研究会情報

上越地区（上越地区中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：自分のよさを発揮し，「豊かに生きる力」を育む進路指導
～キャリア・パスポートの利用を通して～

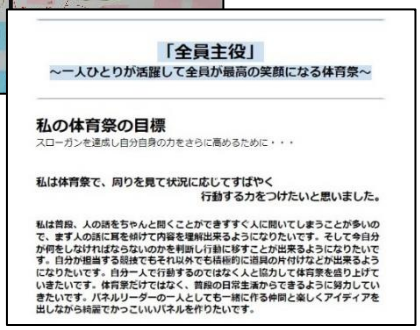
1学期末にSTEP 3のキャリア・パスポートを用いた振り返り活動を行いました。9月の体育祭前後の活動を通して生徒がどのような目標をもち，どのように取り組み，活動を振り返ってきたのかを公開します。キャリア・パスポートの振り返りのまとめから，体育祭後の振り返り作成までの過程を収録し，編集したものを公開する予定です。

◇月　日：9月17日（金）　◇会場校：上越市立大島中学校
◇公　開：全校　「体育祭での私の成長～キャリア・パスポートを活用して～」
授業者　樺澤　恒平
◇指導者：上越市教育委員会学校教育課　指導主事　曽根原　至

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

個人目標の設定


「全員主役」
～一人ひとりが活躍して全員が最高の笑顔になる体育祭～

私の体育祭の目標
スローガンを達成し自分自身の力をさらに高めるために・・・

私は体育祭で、周りを見て状況に応じてすばやく
行動する力をつけたいと思いました。

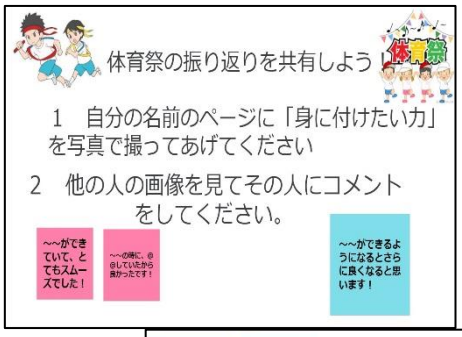
私は普段、人の話をちゃんと聞くことができずすぐ人に聞いてしまうことが多いので、まず人の話に耳を傾けて内容を理解出来るようになりたいです。そして今自分が何をしなければならないのかを判断し行動に移すことが出来るようになりたいです。自分が担当する役以外でもそれ以外でも積極的に道具の片付けなどが出来るようになりたいです。自分一人で行動するのではなく人と協力して体育祭を盛り上げていきたいです。体育祭だけではなく、普段の日常生活からできるように努力していきたいです。パネルリーダーの一人としても一緒に作る仲間と楽しくアイディアを出しながら綺麗でかっこいいパネルを作りたいです。

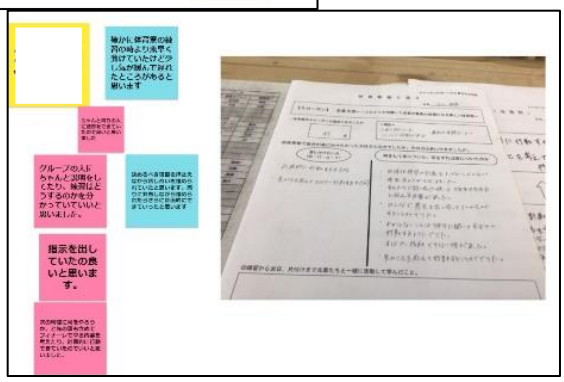
1学期末に作成したキャリア・パスポートのまとめを見ながら、体育祭の個人目標を設定しました。これまでの活動で身に付いた力やこれから身に付けたい力を確認し、体育祭ではどのように取り組んでいきたいのかを記述しました。iPad を用いて作成し、共有フォルダに保存しお互いの思いを確認しました。

ワークシートには自分の目標を達成するための行動を具体的に書きました。

■本時■

振り返り活動　1年生





体育祭を終え、自分で立てた目標に対して自己評価を行いました。「頑張った」「あまりできなかった」といった漠然とした感想にならないように、個人の「力」に焦点を当てて記述しました。

達成できなかった目標に対しては、今後の活動に繋げられるようにどうしたらよかったのかを記述しました。

ワークシートに記述した後、ジャムボードで共有し、具体的な場面をあげながら学級内で互いの活動を相互評価しました。

ジャムボードでの共有の際には、友達のよかったところを積極的に取り上げるように指示しました。「～の時、頑張っていた」や、できなかったという記述に対して「そんなことないと思う、あれぐらいでいいと思う」というようなコメントが見られました。

振り返り活動　2,3 年生

２、３年生では、立てた目標を見ながらワークシートに自己評価を記述し、付箋に書き写して共有しました。

「身に付いた力」「身に付けることできなかった力」のみでなく、活動を通して身に付いた、発見した新しい力も記述するようにしました。

ワークシートに記述したものを３色の付箋に分けて書き写し、班ごとに共有しました。

発表の際には、友達の発言に対してコメントやリアクションを返しました。共感的な言葉かけをしやすいように、根拠となるような具体的な場面を述べるようにしました。

発表して付箋を貼ったものを集め、級長がグルーピングしました。体育祭前と後で比較できるように掲示し全校で共有しました。

成　果

これまでの取り組みを通して、特に 3 年生の自己有用感や人と関わる力は少しずつ身に付いてきた。3 年生の多くが自分自身を振り返る活動や教員や友達とのやりとりを通して、自分自身のよさや成長に気付き、ワークシートに記述している。

ステップ１～３で行ってきたが、なかなかうまくいかないと感じた。同じシステムや授業内容だったとしても生徒の動機付けや生徒同士を対話させる手法などの我々の個人の力量や経験で生徒の行動も変わってくることが分かった。我々教師の指導技術を磨いていくことが大事だと改めて感じた。

課　題

小学校から引き継いだキャリア・パスポートをどのように活用するのか、中学校の教育活動にどう取り入れていくのかについては課題がある。また、生徒が卒業後、キャリア・パスポートが先々でどのように活用されていくのか、どういった形で引き継ぐと活用しやすいのかについても課題である。

進路指導〈中越地区〉

持続可能な社会の担い手となる意識を高めるキャリア教育の実践

長岡市・三島郡中教研　進路指導部
研究推進責任者（左）　長岡市立関原中学校　高橋　亜希子
会 場 校 担 当（右）　長岡市立大島中学校　本間　陽子

こんな深い学びの姿を目指します

SDGsの視点を学び，持続可能な社会をつくる担い手となるために，自分の身の回りの課題を見いだし,「自分ゴト」としてとらえます。主体的に自分の力を生かし，社会に貢献しようとする態度（勤労観）を育てていくことを目指します。

深い学びへのステップ

「学び・深め・広げる」活動で「主体的・対話的で深い学び」を実践。SDGsの視点を生徒会活動に生かす。

ステップ1

学んだSDGsの視点を学校生活のどの場面でどのように生かすか考え計画する。

ステップ2

個で計画した活動を実践する。活動を振り返り，課題･成果を把握する。

ステップ3

自己の学びを振り返り，学習意欲，社会貢献への関心・意欲の変容を捉え，未来の自分の姿を考える。仲間との交流を通して，考えを深める。

➡ステップ設定の理由

先行き不透明な社会であるからこそ,「求められること」「必要な力」を考え，どのように働いたり，自己の力を生かしたりできるかを見いだすことを目指します。

自分を取り巻く環境や人々に目を向け，課題を見いだし，改善してよりよい環境・関係づくりを実践し，自己の力を生かします。自己の力を生かした成功体験により自己有用感を高めることで，生徒自身が主体的に将来設計する力を育てます。

➡ステップのメリット

① 生徒会活動で実践することにより，課題･成果を共有できる。

② 自ら課題を見いだし,「自分ゴト」として捉え，実践体験を積み重ねることにより，学習意欲･社会貢献意欲を高めることができる。

ステップ ①

自分の立場や役割に応じて，個の「活動計画書」を作成することにより，見通しをもつとともに，課題を「自分ゴト」としてとらえ，活動の意義を自ら見いだすことができます。

学んだSDGsの視点を生徒会活動で生かし，自分たちを取り巻く課題を主体的に解決するための活動を計画します。

ステップ ②

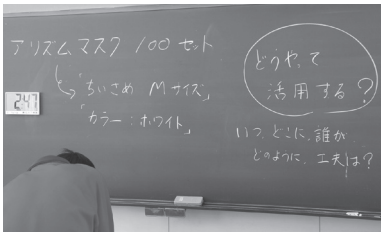
個の「活動計画書」に従って，SDGsの視点を生かして，個の力を役立てます。持続可能な活動にできるよう，後輩たちに伝える活動を仕組み，さらに学びを広げます。

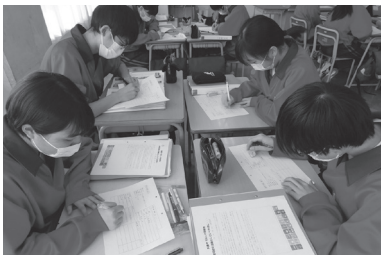
定期的に活動を振り返り，成果・課題を把握し，目標と現状のズレを認知することにより，課題意識を高めます。

ステップ ③

「未来へのパスポート」を作成し，「３年間の学びを生かした活動」を振り返ります。自己の変容と成長をとらえ，自己肯定感を高めます。

よりよい生活や学習，生き方を目指して，自ら課題を見いだし，自分の力を生かして貢献しようとする姿勢を目指します。





指定研究会情報

中越地区（長岡市・三島郡中教研）進路指導教育研究発表会

◇**研究主題**：主体的に学び，将来に備えようとする生徒を育成する

個で設定したSDGsの視点を生かす活動の実践を紹介し，成果と課題について意見交流します。個の３年間のポートフォリオをもとに，自己を振り返りながら，学習意欲や社会貢献への意識の変容についてまとめる予定です。

◇**月　日**：10月29日（金）　◇**会場校**：長岡市立大島中学校

◇**公　開**：１学級　３年４組　「自己をみつめる～『キャリア・パスポート』の作成を通して」

授業者　大倉　　豪

◇**指導者**：上越教育大学　特任教授　佐藤　賢治

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■（書く・まとめる）

キャリア・パスポート作成①

過去・現在・未来へとつながる自分の学びの姿を「未来へのパスポート」（ポートフォリオ）にまとめる学習活動を計画した。生徒はこれまでの学びと学びを生かした自身の実践活動を振り返り、成果や課題をワークシートにまとめた。

■本時■（話す・書く・まとめる）

キャリア・パスポート作成②（話す）

「ＳＤＧｓ」を視点として、個の役割や興味に応じて、「活動計画書」を作成して活動してきた。生徒は、自身の計画に基づいて実践し、定期的に振り返りを行い、活動に改善を加えながら実践活動を積んできた。

前時にまとめた「未来へのパスポート」をもとに、自分の学びを班に発信し、実践の報告や実践から得た学びを発表した。

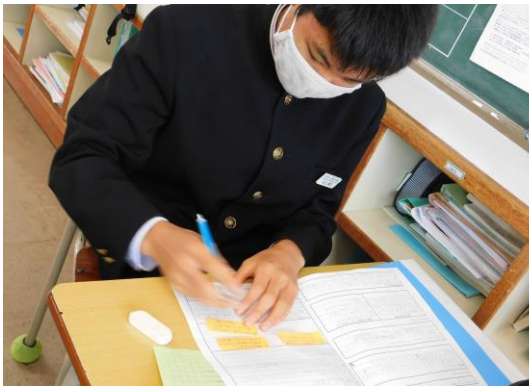
意見交流の場面では、相手の話をしっかりと受け止め、自分の考えを的確に伝える双方向の話し合いを行った。

発信者・受信者の役割を明確にして取り組んできた話し合いのトレーニングを活用して、意欲的に話し合いに取り組み、意見交流する姿が見られた。

キャリア・パスポート作成②（書く）

友人の発表を聞いて成長した姿を見取り、付箋に書き、互いに渡し合う。他から、自分の活動や報告を認めてもらうことを通して、自分の成長を再確認した。

キャリア・パスポート作成②
気付き・学び（まとめる）



友人から書いてもらった付箋に目を通して、自分の成長を再確認しまとめる活動。

友人の付箋の記載から、自分の学びの成長を確認することができた。さらに、認められることで、自己肯定感を高めることができた。

他から認められたことを踏まえ、自身の実践を再度振り返り、「未来へのパスポート」にまとめた。自身の過去・現在を見つめ直し、気付きや学びを今後どのように生かしたいか、未来を見据えてまとめた。

成　果

３年間の研究期間に行った育みたい基礎的・汎用的能力にかかわるアンケート調査では、すべての項目で評価が上がった。自己肯定感が高まったことは大きな成果である。また、自己の生き方を考えることや、課題解決能力にかかわる項目なども高い評価となり、実践を通してキャリア形成が図られたことが見取れた。

生徒会活動に対してＳＤＧｓという共通のツールをもつことで、話し合いでは、互いの発表や報告に「自分ゴト」の意識をもつことができ、意欲的に話し合いに臨む姿が見られた。

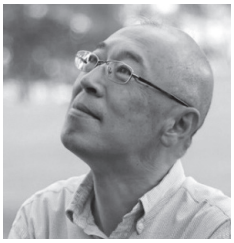
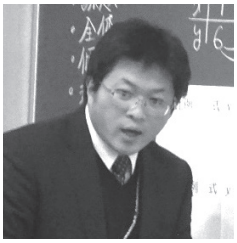
課　題

①この取組をどのようにして、生徒の具体的な進路設計に結び付けていくか。

②持続可能な取組としていくために、どのようにして下級生へと引継ぎ、さらに発展させていくか。

進路指導〈新潟地区〉

「キャリア・ノート」の活用で，生徒が成長を実感できる授業

新潟市中教研　進路指導部
研究推進責任者（左）　新潟市立坂井輪中学校　岩﨑　正法
会 場 校 担 当（右）　新潟市立東石山中学校　中澤　啓介

こんな深い学びの姿を目指します

メタ認知的に自らの成長を実感したり，新たな気付きを得たりすることによって，生徒は自尊感情を高めます。３年生からのアドバイスをもとに，次年度の最高学年として様々な行事に積極的に関わる姿を具体的にイメージできる２年生，２年生の時とは違った視点で物事をとらえたり，中学校卒業後の自らの姿を前向きに考えたりすることができる３年生を目指します。

深い学びへのステップ

語り，語られる活動と他者から肯定的な評価をもらう活動を取り入れる。

ステップ１

「キャリア・ノート」をもとに自らの成長を振り返る。

ステップ２

異学年グループの中で，オープンクエスチョンで語り合う。

ステップ３

他者から肯定的な評価をもらう。

➡ステップ設定の理由

「キャリア・ノート」をもとに，１年間の活動の振り返りを記述することで，生徒は自らの成長を自覚します。しかし，「成長した自分」に気付けていなかったり，自信がもてなかったりする生徒も少なくありません。

異学年の生徒同士がそれぞれの視点で，経験をもとに共感的に語り合うことには，２つのメリットがあります。

➡ステップのメリット

① 「なぜ？」を中心とする問いで語り合うことで，新たな視点で自らの成長に気付くことができます。

② 自らの成長を認めてもらうことで，前向きな姿勢を育むことができます。

ステップ ①

「キャリア・ノート」をもとに自らの成長を振り返る

主に学校行事の振り返りのポートフォリオである「キャリア・ノート」をもとに，どのような力を身に付けたのか，理由やエピソードを具体的な場面に関連づけて記入していきます。記入することで，生徒は「成長した自分」を自覚できるようになります。

東石山中学校で身に付けさせたい力

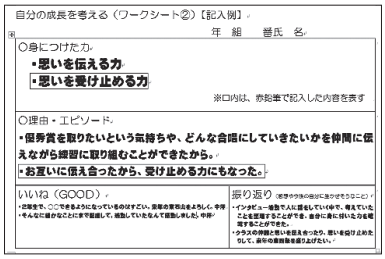
・思いを受け止める力
・思いを伝える力
・自分を理解する力
・自分を高めようとする力
・主体的にやり抜く力
・将来を見つめる力 など

※キャリア教育で育成すべき「基礎的・汎用的能力」より

ステップ ②

異学年グループの中で，オープンクエスチョンで語り合う

２・３年生混合の４～５人の班を編制します。各自が「成長した自分」について語ります。インタビュアーが「なぜ?」「そういった場面で?」などオープンクエスチョンを重ねます。以前は意識していなかったことにも「成長した自分」を見出すようになります。新しく気付いたことは赤ペンで追記していきます。また，インタビュアーや聞いている生徒たちが自らの経験に照らし合わせて共感的にアドバイスをすることで，次学年への見通しをもったり，前年度からの視点の変化に気付いたりするようになります。


自分の成長を考える（ワークシート②）【記入例】

年　組　番氏　名

○身につけた力

▪思いを伝える力
▪思いを受け止める力

※□内は、赤鉛筆で記入した内容を表す

○理由・エピソード

▪優秀賞を取りたいという気持ちや、どんな合唱にしていきたいかを仲間に伝えながら練習に取り組むことができたから。
▪お互いに伝え合ったから、受け止める力にもなった。

いいね（GOOD）

・お姉さで、○○でやる多よりになっているのはすごい。合唱の実現力をよろしく。今後「そんなに頑かなことにおで取組して、協力していたなんて感動しました。中学

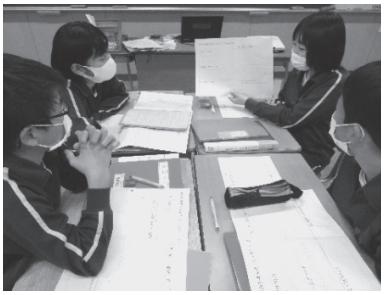
振り返り（数学や学年の自分に生かせそうなこと）

・インタビュー後自で入に話をしていく中で、考えていたことを言葉にすることができた。自分に自信がもてる成果が得ることができた。
・クラスの仲間と思いを伝え合ったり、思いを受け止めたりして、前年の自分を盛り上げたい。

ステップ ③

他者から肯定的な評価をもらう

全員のインタビューが終わったら，班のメンバーから「いいね(GOOD)」の欄に，一言ずつ肯定的な感想や励ましの言葉を記入してもらいます。他の生徒から「成長した自分」を認めてもらうことで，生徒は自尊感情を高めたり，自分の成長を実感したりし，次への意欲を導き出します。



指定研究会情報

新潟地区（新潟市中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：将来への夢や希望をもち生き方を考えるキャリア教育の推進

昨年度から本格的に運用が開始された「キャリア･ノート」を効果的に活用する方法を提案します。「キャリア・ノート」をもとに生徒自らの成長を振り返らせるとともに，異学年での語り語られる交流を通して，お互いの成長を認め合う授業を行います。

◇月　日：11月17日（水）　　◇会場校：新潟市立東石山中学校
◇公　開：12学級（２・３年混合の学級編制）
授業者　３年部教員６名，２年部教員６名
◇指導者：新潟医療福祉大学　教授　　脇野　哲郎
新潟市教育委員会　指導主事　庭田　茂範

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

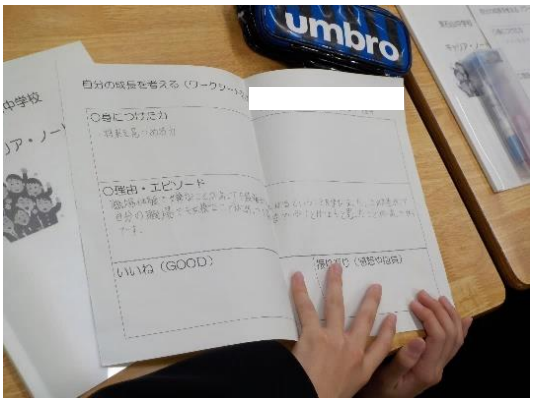
■通年・事前■

自尊感情を高める活動、コミュニケーションスキル演習

「学級力向上プロジェクト」を中心としたクラスの強みを認識し，さらに伸ばす取組を年間を通して行っています。また，事前学習として,「コミュニケーションスキル演習」を実施しました。学んだスキルを１対１，班など段階を踏んで，実際に使うことで，相手が話しやすくするためにはどうしたらよいかを生徒一人ひとりが意識するようになりました。

■前時■

「キャリア・ノート」をもとに自らの成長を振り返る



ワークシートに記述する様子

「キャリア・ノート」に綴られている修学旅行や完歩大会，体育祭、合唱発表会などの体験的な活動の振り返り用紙を読み返しながら，生徒は自分にはどのような力が身についたのかをワークシートにまとめました。この段階では，１つないし，２つの力について記述している生徒がほとんどでした。

■本時■

異学年グループの中で、オープンクエスチョンで語り合う

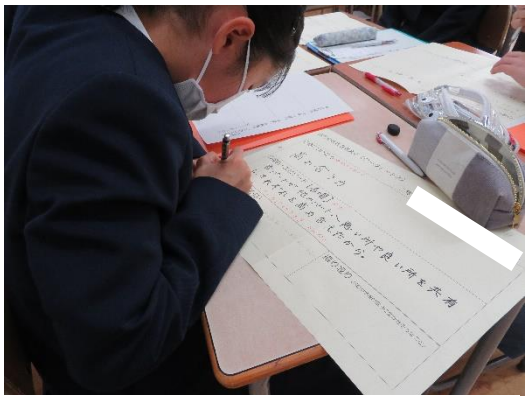
インタビュー活動の様子

グループ毎にファシリテーターの進行で、インタビュー活動を行いました。コミュニケーションスキルを使うことで，初対面のグループでも徐々に話しやすい雰囲気になりました。オープンクエスチョンを重ねることで，ワークシートに書いていないことも話すようになりました。

追記をもとに発表する様子

３年生は自らの経験をもとに，２年生の成長を認めたり，他の行事と関連させたり，「３年生になると・・・」のように，１年後につながるアドバイスをしていました。インタビュー活動を終え，ワークシートに新たな気づきを赤ペンで追記し，あらためて，自らの成長をグループの中で発表し，共有しました。

他者から肯定的な評価をもらう



「いいね（GOOD）」を記入する様子

グループ内でワークシートをまわして，１人一言ずつ「いいね（GOOD）」を記入しました。「仲間と一緒に何かすることで達成感を得ていてすごい」「体育祭でたくさんのことを学んでいてすごい！３年生の思いを受け止めてくれてありがとう」などの肯定的な表現で，他の生徒の成長を認め合いました。

成　果

実践前と後に行ったアンケートでは，本実践を行った２・３年生の方が１年生よりも上昇した項目数，上昇率ともに高い結果が得られました。異学年の生徒同士が共通の経験を土台にして，オープンクエスチョンという手段を用いて，自らの成長を語り合い，価値付けを行う活動は、生徒自身が成長を実感し，前向きに将来と向き合うことができる点で有効でした。

	1年生		2年生		3年生	
	5月	11月	5月	11月	5月	11月
思いを受け止める力	95.2	94.8	98.4	**99.2**	98.5	**99.3**
思いを伝える力	89.7	**91.6**	93.8	92.0	94.2	**98.6**
他者と協働する力	93.3	90.9	95.3	93.6	95.6	**97.8**
自分を理解する力	87.3	**88.3**	87.5	**89.6**	90.5	**95.7**
自分を高めようとする力	82.4	**84.4**	85.2	**86.4**	84.7	**87.1**
自分を大切に思う力	79.4	79.2	83.6	**88.8**	88.8	87.8
主体的にやり抜く力	89.1	86.4	90.6	**91.2**	94.9	94.2
創造する力	80.0	**86.4**	79.7	**87.2**	85.4	**89.9**
将来を見つめる力	77.6	**81.2**	77.3	**90.4**	92.7	90.6
行動を改善する力	84.2	**84.4**	85.9	**87.2**	91.2	**93.5**

「東石山中学校で身につけさせたい力」に対する肯定的な回答の割合

課　題

「いいね（GOOD）」を記入する活動で，語り合った内容ではなく，話し合いの取組を評価する記述が見られました。価値付けの機能を十分にもたせるために，語り合った内容を評価させるようにする必要があります。

進路指導〈下越地区〉

体験的で探求的な課題解決型の活動を取り入れ，自己の生き方を見つめる生徒の育成を目指します

新発田市中教研　進路指導部
研究推進責任者（左）　新発田市立豊浦中学校　長谷川　典子
会 場 校 担 当（右）　新発田市立七葉中学校　堀田　和恵

こんな深い学びの姿を目指します

「地域」をテーマに，現状や課題を学ぶ中から生まれた問いや疑問をもとに課題を設定し，体験的な活動等を通して課題解決に取り組む３年間のカリキュラムを作成します。課題解決に向け，自分の役割を自覚しながら見通しをもって計画し，粘り強く取り組ませることで一人一人のキャリア形成と自己実現を目指します。

深い学びへのステップ

３年間を見通し，それぞれの学年に合わせた課題解決に向けた取組を行うことで，学びを深める。

ステップ１

地域の方との交流活動を通して，地域のよさや問題を理解し，地域貢献活動を実施する。

ステップ２

職場体験事前オリエンテーションを通して自分の役割を自覚して課題解決型職場体験に取り組む。

ステップ３

蓄積した学習ポートフォリオを活用し，自己の成長を振り返り，未来の自分を考える。

➡ステップ設定の理由

生徒に自分の生き方を考えさせるためには，体験的な活動を取り入れて，課題解決学習を設定することが有効だと考えます。さらに，活動で得た気付きを振り返り，仲間と語り合い，認め合う活動を通して，自己の変容や成長を実感させ，新たな課題解決に向かう意欲や，よりよい生き方を追究しようとする態度の醸成につなげます。

➡ステップのメリット

① 体験的な活動を通して，課題解決に取り組むことができる。
② 自分の成長や変容を実感することで，さらなる成長への意欲を喚起することができる。

ステップ ①

地域の方と，「七葉中学校区の地域のよさや課題は何か」について考えを共有し，「どんな地域にしていきたいか」について意見交流し考えを深めました。

その学びを基に，地域にどのような働きかけができるか話し合いを重ね，「地域貢献活動」を実施しました。

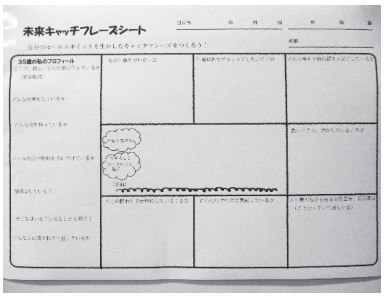
ステップ ②

20の事業所で「課題解決型職場体験学習」を行いました。事業所が抱える課題（ミッション）を事前に生徒に示し，職場体験活動を通して，課題解決に向けて主体的に学習を進めました。

「職場体験学習」の１ヶ月前には，「事前オリエンテーション」を行い，事業所の方に，課題（ミッション）を提示していただいたり，“生き方”や“お仕事”について語っていただいたりしました。

ステップ ③

３年間の活動を振り返り，自己の変容と成長を意識させます。他者との交流活動を通して，自己や他者の頑張りやよさに気付く活動を行います。また，さらなる成長を目指した「未来プランシート」を作成し，「未来の自分の姿」へ学びをつなげます。



指定研究会情報

下越地区（新発田市中教研）進路指導教育研究発表会

◇研究主題：体験的な活動を通して，自分自身や地域のよさや特色を理解し，
将来の生き方を見つめる生徒の育成

体験的な活動を通して課題解決に取り組んできたことをもとに，自分や他人の頑張りやよさの気付きから自分の成長や変容を実感させる活動を行います。今までの活動を振り返りながら，自分たちの成長を語り合い認め合うことを通して，未来の自分をプランニングする授業を予定しています。

◇月　日：11月５日（金）　◇会場校：新発田市立七葉中学校

◇公　開：３学年　２学級合同　「未来キャッチフレーズをつくる」

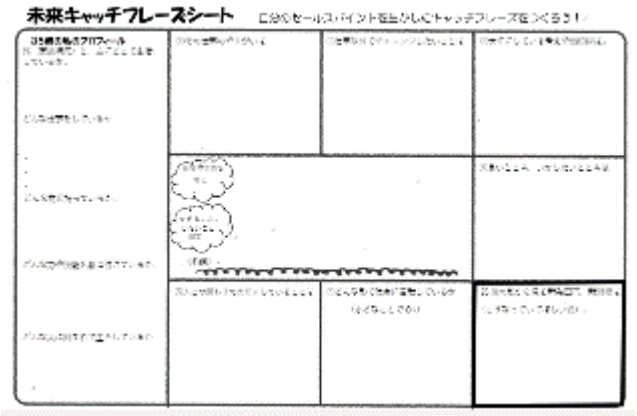
授業者　丸田　幸恵，皆川　加代子，清田　麻衣

◇指導者：新潟大学教授　松井　賢二

当日の授業の様子・学びの姿の紹介

■前時■

未来の自分のプロフィールを想像する



１年生の時に話し合った、地域のよさや課題を思い出し、20 年後（35 歳）の新発田市または新潟県がどんな姿になっていてほしいかグループで話し合いました。

その上で、35 歳の自分をイメージしたプロフィールと、ワークシート①～⑥の質問の答えを考えました。

■本時■

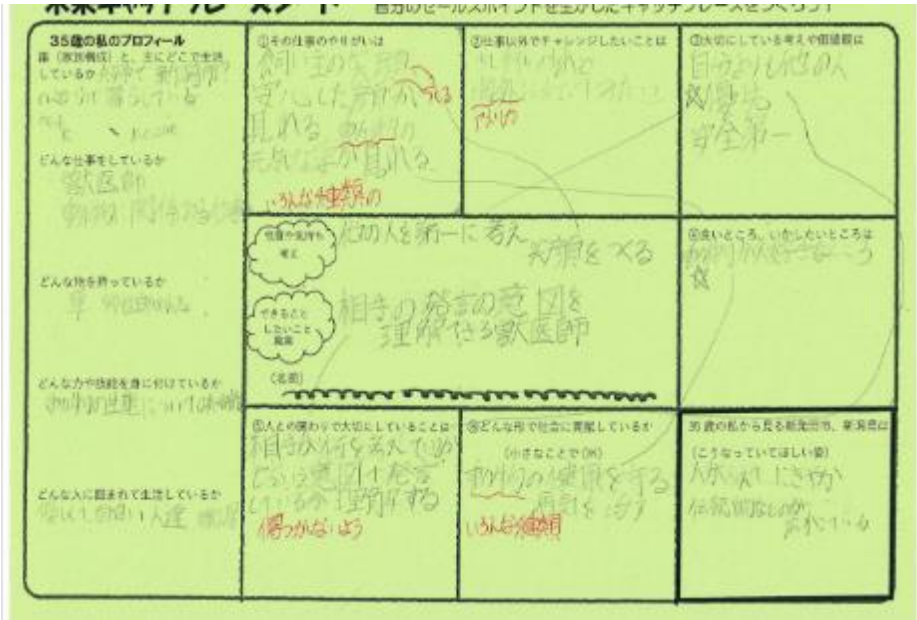
インタビューでより具体的な姿をイメージ

少人数グループで互いにインタビューしあうことにより、イメージした自分の未来の姿について具体的に考えました。さらに詳しい考えを引きだせるように「深める質問シート」を使ってインタビューを行い、新たにイメージした自分の姿をワークシートに書き加えました。

キャッチフレーズを考え交流

交流を通して得た気付きをもとに、どんな大人になりたいか考えを深め、35 歳の自分は「こんな気持ちで、こんなことを考え、こんなことをしている大人（または職業名）」というキャッチフレーズをつくりました。

インタビュー活動、行事や活動ごとの振り返りや他己評価等で気付いた自分のよさ、２年生の時に作成したキャッチフレーズも参考にしました。

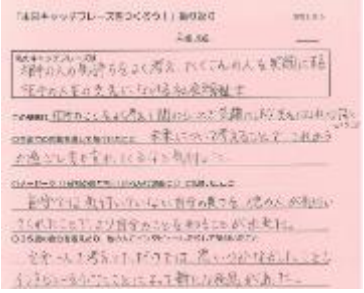


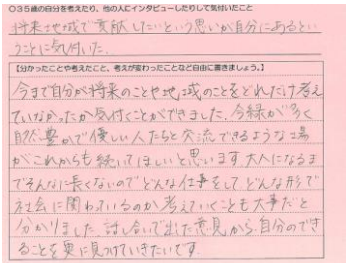
キャッチフレーズを考える際には、キャッチフレーズに入れたい言葉、根拠になりそうな内容に印をつけたり線でつないだりしながら、未来の姿をより具体的に考えました。

つくったキャッチフレーズをグループ内で紹介し合いました。「〇〇さんの～～という質問で、自分が△△ということがわかったので･･･」というように、なぜ、そのキャッチフレーズにしたのか、思考過程がわかるように説明しました。

振り返り

自分の良さや変容について客観的な視点で振り返り、なぜそのキャッチフレーズにしたのか、どの活動やどんな言葉から何に気付いたのかを振り返りシートにまとめました。





成　果

キャリアアンケートにおいて、当初、数値的に低かった「キャリアプランニング能力」の数値に向上が見られた。探求的な体験学習や学習ポートフォリオの活用を通して、見通しをもって生活できるようになった表れだと考える。本時でも、生徒はポートフォリオを見直しながら自分の未来を考えていた。蓄積した各活動後の自己評価や他己評価による振り返りと学び合いを通して、将来の生き方についての視野を広げたり、新しい発見をしたりしながら、より具体的に未来の姿を考えることができていた。

課　題

学校行事や学年行事の実施計画などにおいて、学習の「ねらい」が育みたいどの基礎的汎用的能力と対応するのかを明確にしていく必要がある。課題解決に取り組む探求的な体験学習の設定と様々な活動後の振り返りを各学年の指導計画に位置付け、さらにそれぞれの活動の質的向上を図っていきたい。